

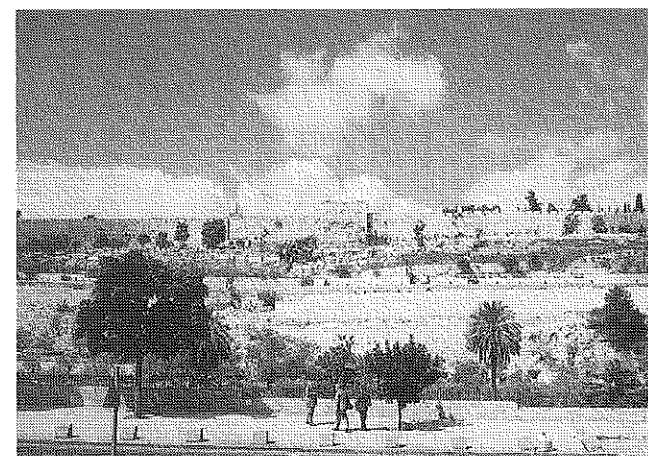
第Ⅲ期 ユダヤ伝道

わたしはよい羊飼である。

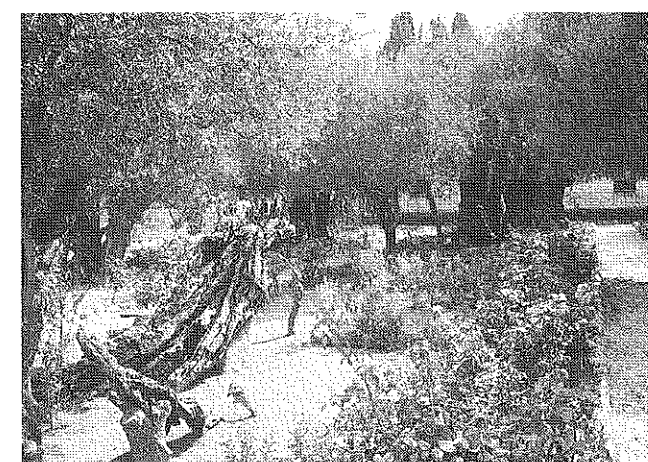
よい羊飼は、

羊のために命を捨てる。

ヨハネによる福音書 10章 11節



エルサレム 黄金門
＜エルサレム入場＞の門
主が人々に迎えられ、エルサレム
入場の際に、子ロバに乗って通ら
れた門と言われている。

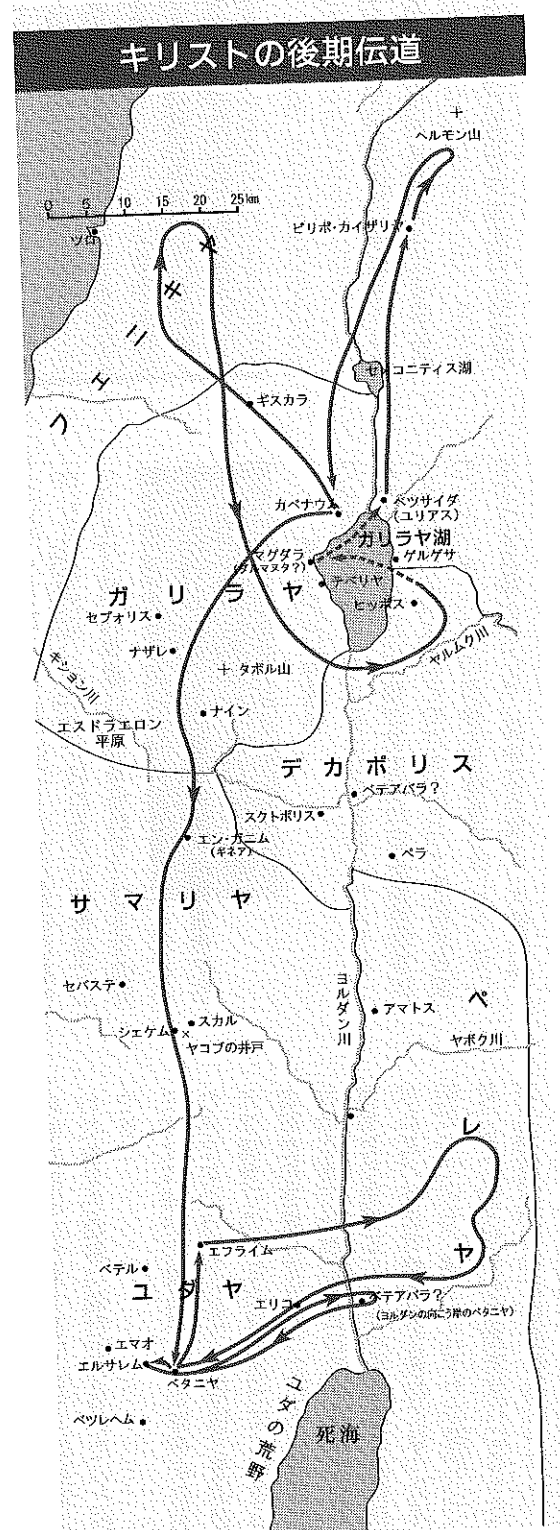


ゲツセマネの園
オリーブ山の麓にある庭園
主イエスは、祈りのためにここを
頻繁に訪れられた。
最後の晩餐を終えた主は、弟子た
ちと共にこの園に入り、血のよう
な汗を流し、祈り続けられた。

故郷ナザレを追われ、旅から旅へとさすらい歩かれた主は、ピリポ・カイザリヤで弟子たちに「自分が「神の子、メシヤ」であることを示され、この後、多くの苦しみを受け、十字架にかかれること」はつきりと教えられました。《後期 ガリラヤ伝道》

カペナウムに帰られた主は、最後のエルサレムへの旅に出られます。

ペレヤ地方における伝道の後、エリコを経て、ベタニヤの村に滞在されました。神殿に入り、律法学者たちを公然と批判して彼らと対立されます。過越祭のはじまりを十二弟子たちと祝われ（最後の晩餐）、弟子の一人の裏切りによって捕えられ、いくつもの裁判を引き回され、ついに十字架刑を宣告されます。



アドベント第一週

●週題 預言された救い主

●聖書 イザヤ書9・6〜7

●暗唱聖句 見よ、おとめがみこもって男の子を産む。 イザヤ7・14

●目標 イエス様は預言の成就としてお生まれになったことを知ろう。

導入

いよいよ十二月に入りましたね。十二月といえは…。そう、みなさんの大好きなクリスマスです。楽しみですね。

ところで、今日からクリスマスまであと何週間ありますか？ 四週間ですね。実は、このクリスマスまでの四週間をアドベント（待降節）と言って、イエス様のお誕生を心から待ち望む、とても大切な時です。クリスマスにはお遊戯をしたり、劇をしたり、あるいはプレゼントをもらったり、いろいろな楽しい事がたくさんありますね。でも、まずイエス様のお誕生を心から待ち望む気持ちをすることが一番大切です。

暗黒の中の希望

イエス様がお生まれになったのは、今から約二千年前、ユダヤのベツレヘムという町でした。その頃のユダヤの国は、暗く重苦しい空気に包まれていました。ローマ帝国が世界を征服していたか

らです。ユダヤの国もローマに支配され、人々は苦しい生活を送っていました。

しかし、ユダヤの人々には、大きな希望がありました。それは、救い主が現れるという希望でした。人々は、必ず救い主が来られて、ローマの支配からユダヤを解放し、神の国を建ててくださると信じていました。旧約聖書の時代の預言者たちが、そのように預言していたからです。

すばらしい弁護者

イザヤさんも、そのような預言者の一人です。イザヤさんはイエス様がお生まれになる七百年以上も前に、「見よ、おとめがみこもって男の子を産む」と、イエス様のお誕生を預言しました。そして、イエス様のことを「霊妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君」と紹介したのでした。

霊妙なる議士とは、「すばらしい弁護者」という意味です。救い主イエス様は、わたしたちをかばってくださるお方だということです。

わたしたちは、神様に対して罪人ですから、そのままでは滅んでゆく者でした。イエス様は、そんなわたしたちのために、十字架にかかってくださいました。悪魔はわたしたちを罪に定めて、滅ぼそうとします。でも、イエス様は、十字架で流された血を示して、わたしたちを弁護し、悪魔の手から救い出してくださいました。

わたしたちには、こんなすばらしい弁護者が与えられているのです。

万軍の主の熱心

救い主イエス様をこの世に送ることは、神様ご自身が計画されたことでした。神様は、なんとかわたしたちを罪と滅びから救いたいと願われたのです。

イエス様のお誕生は、その神様の計画が果たされるための方法でした。神様は、そのひとり子イエス様をこの世に生まれさせてくださるほど、わたしたちを愛して下さっているのです。神様はそれほどまで熱心にわたしたちを救おうとされ、預言者たちを通して、救い主を送ることを約束されました。イエス様がお生まれになった時が二千年前だったのも、場所がユダヤの国だったのも、また、おとめマリヤからお生まれになったのも、すべて預言とおりのことでした。

神様は、何とすばらしい計画を立ててくださったことでしょうか。しかも私たちが愛して下さっているからこそ、その救いの計画を実行して下さったのです。

結び

わたしたちを罪から救うために、御子イエス様を惜しむことなく送ってくださった神様に感謝しましょう。そして、イエス様がわたしたちのために人となってお生まれになったクリスマスの日を待ち望みながら、このアドベントの時を過ごしましょう。

分級 A

〈分級活動例〉

ケンちゃん、マリちゃん、おはようございます。きょう、教会にきた時、「いつもと違うな」って思ったことありませんか。そう、ろうそくに火がついていたね。クリスマスの日を持つ毎日のことをアドベントっていうんだよ。そしてきょうは一本のろうそく、次の日曜日には二本、次は三本、そしてクリスマスには四本のろうそくに火がつくのよ。クリスマスはまだ先だけど、楽しみに待っているよね。イエス様がお生まれになるずっと前、イスラエルの国の人たちは、悲しい心でいました。本当の神様のいうことをきかずに、自分たちの好き勝手になことをして、戦争がおきたり、奴隷にされていじめられたりする人がたくさんいたからです。みんな、「早く、こんな苦しみから助けられたい」と思っていました。

神様は、ある時、預言者のイザヤさんを通して、神様のお約束を伝えました。それは救い主を与えてくださるという約束でした。「その方は、男の赤ちゃんとして生まれるよ。そして素晴らしい力のある方で、私たちと一緒にいてくださる神様ですよ。暗い心の中も明るくして下さる方ですよ」と伝えました。人々は長い間、「その救い主が来ないかな」と待っていました。そしてそのお約束のとおり

りに、イエス様は誕生されたのです。そのことをお祝いするのがクリスマスです。私達もイエス様のことを考えながらクリスマスを待ちましょう。

〈ワーク〉

アドベント・クラランツを作りましょう。

切り取って、きれいな緑色にぬってください。赤いリボンをつけると、もっときれいになります。ろうそくも四本作り、きょうは一本に色をぬってクラランツにはりつけましょう。

そのほか、ひいらぎ、赤い実なども、この三週間に次々とはってみると、より楽しくなります。本物の実や、落葉などをポンドで接着するのも良いですよ。

〈さんび〉

「うれしいうれしいクリスマス」を毎週歌って、クリスマスを待ち望みましょう。

分級 B

〈キーポイント〉

預言のとおり

〈導入〉

きょうは十二月の最初の日曜日。十二月と聞い

ただで何だか心がワクワクうれしくなってきましたね。そう、イエス様のお生まれになったクリスマスが近づいているからです。きょうは第二アドベント。きょうから一本ずつろうそくに火をともし、クリスマス待ち望みます。ほんとうのクリスマスを迎えましょう。

〈聖書に親しむ〉

イザヤ9・6、7、イザヤ7・14をいっしょにゆっくり読みましょう。暗唱聖句に赤線を引いておぼえましょう。

〈みことばクラランツをつくらう〉

毎週一つずつはりつけていって、みことばを心にたくわえ、クリスマスの本当の意味を心に刻みつつ、クリスマスを迎えます。

〈スペシャルな誕生・その1〉

イザヤはイエス様の生まれる七百年も前に預言し、なんと、その通りになったのです。イエス様の誕生は、そんなにも、スペシャル（特別）なものでした。神の子の、二度とない、尊いお誕生だからです。どんなお方としてお生まれになったか、テキストから、話し合ってみましょう。

〈きょうのいのり〉

預言のとおりイエス様のお誕生を心より感謝します。アーメン。

分級C

—キーポイント—

預言された救い主

〈導入〉

今週からアドベント（待降節）に入ります。アドベント、それはクリスマスを待ち望む、とても大切な時です。

何をすることも十分な準備をすることはとても大切なことです。十分に準備をしなければ良い結果を期待することはできません。

今年のクリスマスがわたしたちにとって、すばらしいクリスマスとなるために、今日からその準備を始めることにしましょう。

〈聖書を読もう〉

イザヤ書9章6節〜7節を開いて読んでみましょう。今日の暗唱聖句は7章14節です。線を引いて覚えましょう。そして、いつものように質問に答えましょう。

〈背景〉

イエス様は、今から約二千年前にユダヤのベツレヘムでお生まれになりました。ところが、イエス様がお生まれになることは、それよりもっと前から神様が立てになった預言者たちによって預言されていたのです。預言者の一人、イザヤさ

んはイエス様がお生まれになる七百年以上も前に、イエス様のお誕生を預言しました。いいえ、お誕生だけでなくイエス様のご生涯、そして十字架の様子まで驚くほど正確に預言しています。

イエス様はまだまだ二千年前にお生まれになったのではなく、神様の深い計画とみこころの中で数多くの預言者たちによって預言され、お生まれになりました。

〈質問〉

①「ひとりのみどり」とは一体となたのことでしょうか。

●イエス様のことです。

みどりとは赤ちゃんのことで、神の御子であるイエス様が、人の子としてお生まれになることを預言しています。

②「ひとりのみどり」「ひとりの男の子」はだれのために生まれたのですか。

●「われわれのため」すなわち全世界に住む人たち、わたしたち一人ひとりのためにイエス様はお生まれになりました。イエス様はわたしたちを罪から救ってくださるためにお生まれになったのです。イエス様のお誕生と関係のない人は世界中に一人もいないのです。

③イエス様の肩には、何があると書かれていますか。

●「まつりごと（主権）」です。

これはイエス様がすべてをみ手の中で支配しておられる、ということ。わたしたちが朝起きて学校に行き、夕方になると家に帰る。このないない平凡なことも、まだいろいろと経験すること、すべてイエス様の御手の中にあるのです。

イエス様はどのような問題も解決してくださるお方です。

④ここにはイエス様のお姿（肩書き）が4つ記されています。イエス様がどのようなお方だとわかりますか。4つの言葉を書き出してみよう。

(1)「霊妙なる識士」

イエス様はわたしたちのすばらしい助言者です。どのような事でもイエス様にお尋ねするときイエス様は答えてくださり、教えてくださいます。

(2)「大能の神」

イエス様は神様であり、どんな事でもお出来になる神様です。御使いガブリエルがマリヤさんのところに来て言いました。「神には、なんでもできないことはありません」（ルカ1・37）。

(3)「ごしえの父」

イエス様は永遠におられる方であり、父なる神様と同じです。

(4)「平和の君」

イエス様はわたしたちに平和を与えるために来てくださいました。それは、イエス様が十字架におかかになり、救いの道を開いてくださったことによって実現されました。

⑤ひとりのみどりとして、イエス様がお生まれになることは、どなたの計画によるものですか（7節）。

●万軍の主、すなわち全能の父なる神様の熱心なご計画によるものです。救い主を送ることは、神様が計画され、また実現してくださいました。

イエス様は預言通りに、この世にお生まれになりました。救い主を送ってくださった神様に感謝しながら、クリスマスを迎える準備をしましょう。

研究資料

特別単元 クリスマス

今日からアドベント（待降節）に入る。クリスマスが祝われるようになったのは十二世紀ごろで、ローマで行われていた異教の太陽崇拝に対抗して、「義の太陽」の出現を祝うために十二月二十五日がクリスマスと定められた。

アドベントは、五世紀ごろ、ガリア（今のフランス）やスペインの教会で、顕現日（博士の来訪や主の受洗や、カナの婚礼における栄光の現れを記念する日）に行われる洗礼式の準備のために、断食節が設けられたことに由来している。ローマ・カトリック教会はこれを取り入れてクリスマスハの準備の時とし、十一月三十日に最も近い主日から始まるものとした。

アドベントとは「来臨」のことで、主の受肉来臨すなわち、クリスマスを迎える心の準備をすることにも、再臨の準備の時でもある。（日本基督教団出版局『聖書事典』参照）

週題 預言された救い主

イエスの降誕は、旧約聖書の中にすでに預言されていた。①イエスがイスラエルの中から出てくること（民数記24・17、19）。②ダビデの家系から、ユダの部族から出てくること（創世記49・10、イザヤ11・1）。③ベツレヘムで生まれること（ミカ5・2）。

④処女から生まれること（イザヤ7・14）。⑤その来臨が先駆者によって告知されること（イザヤ40・3）。（ハロルド・リンゼル、チャールズ・ウッドブリッジ共著『聖書教理ハンドブック』参照）

テキスト

ここは救い主降誕の預言で、イエスが神であったことを表明している。1〜5節には、暗黒の地に光が照り、圧政からの解放と平和の到来が告げられている。光すなわちメシア来臨の預言の序章というべき部分である。

6 ひとりのみどりごがわれわれのために生まれた。ひとりのみどりご（嬰兒）イエス・キリストは、我らのために生まれたもつた。「われわれ」とは、直接的にはイスラエルの選民のことであるが、新約の立場から見れば、全人類のことである。

ひとりの男の子がわれわれに与えられた。神はキリストを我らに与えたもつた。その十字架の死によって我らを罪と滅びから救い、いっさいの汚れからきよめるためであった。

まつりごとはその肩にあり「まつりごと」とは政治のことである。そのみどりご、つまりキリストは、肩に全世界・全宇宙の主権のしるしをつけておられた。幼子の肩に全主権が委ねられているとは驚くべきことである。キリストが初めから神とあられたことを示す。この幼い王が現れたことを表現するのに、イザヤは預言的に、ヘブル語の完了形を用いた。これは、これから起ころうとすることを、もうすでに起こってしまったかのように言う預言者特有の用法である。

その名は、「霊妙なる識士：平和の君」となえられる。みどりごに四つの名が与えられていた。

①霊妙なる識士。文字通りには「不思議な助言者（ワンダフル・カウンセラー）」である。キリストは、十字架という不思議な方法（それは人知では不可解な、神の知恵であった）で罪人の我らに救いの道を助言し、我らを悪魔の訴えから弁護したもつた。

②大能の神。我らを罪と滅びから引き上げたのは、まさに神の大能であった。

③ごしえの父。キリストの十字架によって我らに赦罪と義認を与えたもつた神は、我らに神の子としての新しい身分を与えたもつた（ガラテヤ4・5、6）。

④平和の君。十字架の血によって我らを義と認めたもつた神は、我らを自身に和解させたもつた（ロマ5・1）。

7 そのまつりごとと平和とは キリストの十字架によって我らを救い、「ご自身の民としたもつた神は、キリストを王とする御国を堅く保たれる。万軍の主の熱心がこれをなされるのである。

暗唱聖句

7・14 見よ、おとめがみこもつて男の子を産む。その名はインマヌエルとなえられる。キリストは、預言とおとめマリヤの胎から生まれ、イエス（主は救い）と名づけられた。そして、その御本質は、インマヌエル（神の臨在）ということによって、最も良くあらわされている（マタイ1・23）。

●週題 マリヤへのみ告げ
●聖書 ルカによる福音書1・26-38
●暗唱聖句 神には、なんでもできないことはありません。
●目標 おとめマリヤにみ子を宿された全能の神を信じる者となる。

導入

アドベントの二週目に入りました。だんだんとクリスマスが近づいてきましたね。ところで、みなさんはマリヤさんって知っていますね。イエス様のお母さんです。今日はマリヤさんについて学びます。

天使のみ告げ

マリヤさんは、ガリラヤのナザレという町に住んでいました。ある日のことです。天使ガブリエルがマリヤさんのところに現れて言いました。「恵まれた女よ、おめでとう。主があなたと共におられます。」天使があまりにも突然現れたので、マリヤさんはびっくり。今の天使のあいさつはどのような意味があるのか、しばらく考え込んでいました。するとガブリエルが続けました。「恐れることはありません。マリヤ、あなたは神様から恵みをいただいているのです。あなたはやがて男の子を産むでしょう。その子にイエスという名前をつけな

い。その子はいと高き神の子と呼ばれるでしょう。」マリヤさんは天使の言葉を聞いて、あわてて言いました。「どうしてそんな事がありましょう。わたしにはまだ夫がありませんのに。」この時、マリヤさんはヨセフさんと結婚していましたが、まだ結婚していませんでした。結婚する前に、お腹の中に赤ちゃんがいることが分かったと、その頃のおきてでは、石打ちの刑にあって殺されることになっていました。この事でマリヤさんはどんなに驚き恐れたことでしょう。

しかも、神の子、救い主をお腹の中に宿すと言われたのです。いったいどうやってそんなことができるのでしょうか。マリヤさんが不思議に思ったのも無理はありません。

神様の全能の力

天使はこう告げました。「マリヤよ、よく聞きなさい。あなたは聖霊によってお腹に赤ちゃんがでるのです。あなたの親戚のエリサベツも年をとっているのに、赤ちゃんができて、もう六ヶ月になっています。神様には何でもできないことはありません。」

エリサベツさんとは、バプテスマのヨハネさんのお母さんです。子どもが生まれる年をとりましたが、天使が告げた言葉のとおり、夫ザカリヤさんとの間に念願の赤ちゃんが与えられたのです。

この天使の言葉を聞いたマリヤさんは、ためらわずに答えました。「わたしは主のはしのためです。神様のお言葉どおりこの身になりますように。」

しためとは女奴隷のことで、すべて主人にまかせて、主人の命じるとおりにする人のことです。マリヤさんはこの時、神様のしもべとして、信仰をもって神様にすべてをおまかせする決意をしました。

全能の神様を信じよう

天使ガブリエルがマリヤさんを離れると、マリヤさんは大急ぎでエリサベツさんのところに出かけて行きました。そして、天使が現れて告げたことをすべてエリサベツさんに話しました。大喜びしたのはエリサベツさんです。エリサベツさんはマリヤさんを祝福して、「こう叫びました。『神様がお語りになったことが必ず実現すると信じきった女の人は、何とさいわいなことでしょう。』」

マリヤさんは、素直に神様の全能の力を信じたので、神様から驚くべき祝福をいただきました。マリヤさん自身も『マリヤ賛歌』というすばらしい賛美を神様にささげたのでした。

結び

神様は、ひとり子イエス様をこの世界に送ってくださったほど、わたしたちを愛しておられます。そして、いつもその全能の力をもってわたしたちを導き守ってくださるのです。

わたしたちもマリヤさんのように、どんな時でも神様を信じ、神様のお言葉に従いましょう。人間の考えではとても理解できないようなことでも、神様にはできないことは何一つないのです。信じ、てお委ねしましょう。

分級 A

〈分級活動例〉

ケンちゃん、きょうは、二本目のろうそくをクランツにはりつけてください。マリちゃん、あといくつ貼ったらクリスマスでしょうね。さて、きょうは、イエス様のお母さんになったマリヤさんのお話をしましょう。

マリヤさんはね、もうじき、お嫁さんになることになっていました。

マリヤさんはそれを楽しみにしていて、いろいろ準備をしていました。

ところがある日、マリヤさんの所に、光り輝く服を着た天使がやって来たのです。そして、「マリヤさん、あなたは神様の赤ちゃんのお母さんになるように選ばれましたよ。おめでとうございまして言いました。」

「えーっ、ほんとですか。」

「もちろん本当です。」

マリヤさんはびっくりしました。神様の赤ちゃんのお母さんになったら、ちょっと、お嫁さんになるのは無理みたいですが。でも、マリヤさんは天使にお答えしました。

「わかりました。神様の赤ちゃんのお母さんにしてもらいます。」

分級 B

〈キーポイント〉

おことばとおひ

〈導入〉
さあ、二本目のろうそくをともしましょう。七

〈ワーク〉

天使とマリヤさんに色をぬりましょう。
(ペーパーサートにして、用いることもできます。)

神様の赤ちゃんのお母さんになるのは、きっと、とても大変なお仕事のようです。マリヤさんは、でも、神様のご用だから、お嫁さんになれなくても、とてもうれしいことだと思いました。

マリヤさんはいつもとても神様をたいせつにしている人でした。お嫁さんになるはずだったヨセフさんは、マリヤさんに言いました。

「わたしも神様の赤ちゃんのお父さんにしてもらって、いっしょに赤ちゃんを大事に育てよう。」それで、マリヤさんは、神様の赤ちゃんイエス様のお母さんになりましたし、ヨセフさんのお嫁さんにもなりました。よかったね。私たちが、「イエス様、ほくやわたしも、どんなことでも、よろこんで、神様のご用ができる子どもにならせてください。」ってお祈りしましょう。

百年も前のイザヤさんの預言もオドロキですが、はじめのクリスマスには、いろいろな不思議なことがありました。きょうのお話も、その一つです。

〈聖書に親しむ〉

ルカ1・26-38です。ナレーター、みつかい、マリヤとわかれて読むことにしましょう。暗唱聖句を二本目のろうそくに書き込んで、クランツにはりましょう。聖書には赤線を引いて、覚えやすい。

〈みつげワークです〉

マリヤのおどろきにもかわからず、マリヤの心を決めさせた神様のみことばと、マリヤの答えのいのりのことばをたどっていきましょう。

〈スペシャルな誕生・その2〉

神のみ子イエス様は、「おとめマリヤ」より、すなわち、人と人によらないで、神と人によつて、神のきよい聖霊によつて、マリヤの胎内に宿られ、誕生されました。全能の神様は、本当に何でもおできになるのです。わたしたちもこの全能の神様を信じているのですよね。

〈きょうのいのり〉

「おことばとおひ」と祈り信じて、みわざを見せてください。

分級C

—キーポイント—

マリヤへのみ告げ

＜導入＞

アドベントの二週目です。二本目のろうそくに火をともしましょう。

神様は、年若いエリサベツさんにヨハネという名前の子とを与えられました。また、まだ結婚していないマリヤさんは、聖霊によってイエス様をみこまりました。クリスマス、それは神様の全能の力が表された時なのです。今日はマリヤさんの信仰から学びましょう。

＜聖書を読もう＞

ルカによる福音書1章26節～38節を開いてください。今日の暗唱聖句は37節です。線を引いてしっかりと覚えましょう。

＜質問＞

①ナザレの町に住むマリヤさんのところに現れたのはだれですか。

●天使ガブリエルです。ガブリエルは神様からの大切な知らせをあずかって、マリヤさんのところに来たのです。

②天使はマリヤさんのどこに来て、最初に何と言いましたか(28節)。

●「恵まれた女よ。おめでとう。主があなたと共に

におられます」と言いました。神様がマリヤさんといっしょにいてくださるとは、何という恵みでしょう。でも、突然天使が現れて「おめでとう」と言ったので、マリヤさんはその言葉を聞いてとても不思議に思い、このあいさつは一体どういう意味があるのかと考えました。

③次に、天使がマリヤさんに告げたメッセージとはどのようなことですか(31～32節)。

●マリヤさんのお腹の中に赤ちゃんがみこまる、ということです。しかも、その子は神の子だということです。天使は、マリヤさんが神様から恵みをいただいていると言いました。それは、マリヤさんを通して、救い主がお生まれになるという恵みだったのです。

④この天使の知らせを聞いたマリヤさんの気持ちは、どのようなものだったでしょうか。

●まだ結婚もしていないのに、「赤ちゃんをお腹に宿す」と言われたのですからとても驚きました。しかも、その子は「いと高き方の子」、つまり神様の御子だということですから、びっくりするの無理はありません。

⑤天使ガブリエルは、どなたがマリヤさんの上に臨むと言いましたか(35節)。

●聖霊なる神様です。天使は「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおってでしょう」と言いました。神様の大きな御力によって、マリヤさんから神の御子イエス様が生まれるということです。

また、天使ガブリエルは、マリヤさんの親戚のエリサベツさんも年をとっていながら、六ヶ月に

なる子どもがお腹の中にいることを知らせました。⑥今日の暗唱聖句から、神様がどういうお方であるかがわかりますか。

●わたしたち人間にはとても無理だと思えることも、神様にとってできないことは何一つない、ということです。神様は全能なるお方です。年若いエリサベツさんや、まだ結婚していないマリヤさんに子どもをみこもらせることは、全能の神様にとっては、むしろ楽しいことではなかったのです。

⑦この天使の告げた言葉に対して、マリヤさんはどのように答えましたか(38節)。

●「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身になりますように」と言いました。マリヤさんは、天使が伝えた言葉をそのまま信じ、受け止めました。神様にできないことは一つもないことをマリヤさんも心から信じていたからです。すべてのことをご存じの神様に、これから起こることもすべてお任せしようと、マリヤさんは思いました。

マリヤさんが神様の全能の力を信じたことによって、救い主イエス様がマリヤさんを通してお生まれになったのです。わたしたちも、「神様にはできないことはありません」という信仰の告白をしましょう。そして、どんなことが起こっても、神様にすべてお任せしましょう。

＜祈り＞

心を合わせて祈りましょう。へりくだった心と確信をもって、マリヤさんのように、全能の神様を信じることができますように。

研究資料

週題 マリヤへのみ告げ

クリスマスの最大のトピックは、処女マリヤの懐妊である。多くの人がキリスト教につきまつく点の一つとなっているが、この処女懐妊こそ、イエスが神の子であったことの証明である。

クリスマス物語は、マタイとルカの両福音書に記録されており、とくに後者にはザカリヤへの告知とエリサベツの懐妊(1:5～25)、マリヤへの受胎告知(26～38)、マリヤのエリサベツ訪問と彼女の賛歌(39～56)、バプテスマのヨハネの誕生とザカリヤの賛歌(57～80)、家畜小屋での誕生(2:1～7)、羊飼いの告知(8～20)、老預言者シメオンと女預言者アナンヤ(22～38)、など、キリスト降誕に関する記事が豊富である。

テキスト

26 六か月目に、御使ガブリエルが エリサベツの懐胎(24節)から数えて六か月目である。バプテスマのヨハネは、イエスよりも六か月年上であった。ザカリヤに現れた御使ガブリエルは、ナザレのマリヤにも現れた。彼女は無名の一処女にすぎなかった。

27 この処女はダビデ家の出であるヨセフという人の 彼女はヨセフと婚約中であった。当時パレ

スチナ地方では、婚約から結婚までの期間は普通一年で、その間花嫁は自分の友人たちとともに住んだが、彼女の財産所有権は未来の夫に与えられた。ヨセフはダビデ王の血筋を引く家系の者であったが、一大工に没落していた。当時こういう例は多く、ダビデ家の出であることは必ずしも誇りとはならなかった。

28 恵まれた女よ、おめでとう ローマ・カトリックの賛美歌「アベ・マリヤ(おめでとう、マリヤ)」が現在の形になったのは十六世紀のことであるが、この聖句を基としている。「恵まれた女」は、ウルガタ訳では「いっばいの恵み」と訳されており、嘆願する者にマリヤが恵みを与えることができるというカトリックの考え方はここから発している。しかし彼女は神の恵みを受けた者であって、恵みを与える者ではない。

31 見よ、あなたはみこもって男の子を産むでしょう イザヤ7・14の預言の成就である。

32 彼は大きいなる者となり 大きい者とは「卓越した者」(詳訳)。いと高き者は神の同義語として旧約聖書に頻りに使われた。神の子であり、ダビデの子であるこのお方の御国は限りなく続く(33節)。

34 どうして、そんな事があり得ましょうか 年端もいかないうちに田舎娘の当然の質問である。ザカリヤも「どうしてそんな事が」(18節)と問うて、不信仰のゆえにさばかれた(20節)。しかしマリヤはさばかれなかった。神に仕える経験豊かな祭司と、一介の無学な少女との相違であろう。まだ夫があ

りませんとは、婚約中だがまだ夫婦生活にはついていないという意味である。

35 聖霊があなたに臨み 彼女の懐妊は人為的なものではなく、神的なもの、聖霊によるものであった。イエスは下からではなく、上から来られた聖なる神の子であった(ヨハネ3・31)。

37 神には、なんでもできないことはありません 御使いが告げた事柄は、どう考えても生物学上不可能なことであった。御使いは、不妊の女エリサベツの妊娠を例にあげて神の力を示したが(36節)、処女の妊娠はそれ以上に不可能事であった。しかし、それを可能にするのが全能の神であった。不妊のサラにイサクを、ハンナにサムエルを、エリサベツにヨハネを与えたもつた全能の神への信仰が求められたのである。

38 わたしは主のはしためです 小島伊助師の直訳によると「見よ、主の奴隷」である(『キリスト伝』)。生きるも死ぬも所有主の自由、いっさいを主人である神にささげ尽くした彼女の信仰の告白であった。お言葉どおりこの身に成りますように、彼女はもはや問うことをせず、御使いの言葉を受け入れた。お言葉どおりになったら、ヨセフの愛を失い、世間の信用を失い、ついには姦淫罪のかどで石打ちの刑に処せられ(申命記22・23、24)、命を失うであろうことは、すぐに想像できた。しかし、み言葉に従えば、主は万事を益としたものことも、そのときすぐに信じる事ができた。これが彼女が「恵まれた女」であったゆえんである。

●週題 キリストの誕生

●聖書 ルカによる福音書2：1～7

●暗唱聖句 客間には彼らのいる余地がなかったからである。 ルカ2：7

●目標 この地上においてになった救い主イエスを、心にお迎えするように指導する。

導入

アドベントも三週目に入りました。来週は待ちに待ったクリスマスですね。みなさんの中には、お家にクリスマスツリーを飾ったり、プレゼントを用意している人もいることでしょう。

でも、本当のクリスマスは、わたしたちを救うために生まれてくださったイエス様を心の中にお迎えすることです。今日は、世界で最初のクリスマスについてのお話です。

ダビデの町ベツレヘムへ

イエス様がお生まれになったころ、ユダヤを支配していたローマの国に、アウグストという皇帝がいました。ある時、皇帝アウグストがローマの支配している地域の人口調査をするように、と命令を出したのです。ユダヤの国はローマに治められていたので、ローマの命令にはすべて従わなければなりません。この命令は、人々にとってはつらいものでした。どんなに遠くても自分の町で登録するために、今住んでいる所から出か

すでした。

イエス様をお迎えしよう

神の御子であるイエス様が、なぜこんなにもへり下られたのでしょうか。聖書の中にこういう言葉があります。

「主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、あなたがたが、彼の貧しさによって富む者になるためである。」(Ⅱコリント8：9)。家畜小屋でお生まれになったイエス様は、三十三年後にはあの十字架にかかれ、わたしたちにとってすばらしい救いの道を開いてくださったのです。わたしたちの罪のために、神様でありながら人となって来てくださったイエス様の罪の罪も犯しておられないのにわたしたちの罪のために十字架にかかってくださったイエス様。今日、イエス様はわたしたちの心の戸の外に立って、戸をたたいておられます。わたしたちが心の戸を開いて、イエス様をお迎えするなら、イエス様はわたしたちの心の中に住んでくださるのです。

結び

クリスマスは、わたしたちのために生まれてくださった救い主イエス様を心の中にお迎えする日です。どんなに立派なツリーを飾ったり、楽しいパーティーにしても、イエス様をお迎えしていないければ、それは本当のクリスマスと言うことはできません。

今日、わたしたちはイエス様をわたしの救い主として心から感謝の心をもってお迎えしましょう。

分級 A

〈分級活動例〉

さあ、三つのろうそくがつかまりましたよ。あといくつ? そうね、あと一つですね。というところは「スゴイ、来週はクリスマスですよ。」さあ「うれしいクリスマス」をさんびしましょう。ケンちゃんは、どこで生まれましたか、お父さんやお母さんに聞いたことがありますか。イエス様はね、馬小屋の中で、馬のお家の中で生まれたんですよ。って、「エーッ、なんで?」って思っでしょ。それはね、イエス様が旅行中に生まれたからです。ベツレヘムという町に行ったときでした。

でも何で馬小屋? どうしてホテルに泊まらなかったのでしょうか。実は、ヨセフさんは、一生命ベツレヘムの町中のホテルを捜したけれど、お部屋が本当に一つも空いていなかった。ホテルの人も、赤ちゃんが生まれそう、かわいそうだなって思ったけれど、もう泊まっている人に出行ってください。なんて言えないでしょ。そして、誰も「かわってあげましょう」なんていってくれなかったんです。

マリヤさんは、もう今にも赤ちゃんが生まれそうになって、これ以上ほっておけません。ヨセフさんは泣きそでした。でも、親切な人がいて、

馬小屋を貸してくれました。お布団用にきれいな藁も敷いてくれました。よかったね。そして、馬小屋の中の藁のベッドで、赤ちゃんイエス様は生まれました。

でもね、本当は神様がイエス様を馬小屋で生まれるようにされたのです。馬小屋だったら、だれでも、よそいきのきれいな服がなくても神の子のイエス様のお誕生をお祝いにいけるでしょ。イエス様に本当に会いたい人は、誰でもいけるようにしてください。神様って本当にすばらしいですね。

ではみんなで、「イエス様、馬小屋で生まれてくださってありがとうございます。ほくでも、わたしでも、いつでも、イエス様にお会いできることを感謝します。」ってお祈りしましょう。

〈ワーク〉

馬小屋の絵を完成しましょう。

分級 B

〈キーポイント〉

わたしのJOURN

〈導入〉

最初のクリスマスには、ほんとにおどろくことばかりですね。でもあれから二〇〇年目のクリ

スマスにだって、そんなおどろくべきことを神様はしてくださるのです。どんなことでしょうか。

〈聖書に親しむ〉

ルカ2：1～7です。きょうは一節ずつ、先生と皆さんで交読します。暗唱聖句には赤線を引いて、覚えましょう。そして三本目のろうそくにみて、ことばを書いて、クランツにはりつけます。わあ、いいよあー一本。クリスマスはもうすぐですね。

〈誕生ワークをしてください〉

ナザレから誰が旅をしたのでしょうか? ナザレをスタートに、きょうのテキストから正しい項目を選んで、そつ、「わたしの心」にまで行きます。

〈スペシャルな誕生・その3〉

せっかく神の子がお生まれになろうとするのに、ベツレヘムの人たちは受け入れようとしませんでした。神様のお悲しみはどんなだったでしょう。きょうもイエス様はあなたの心の扉をノックしておられます。飼葉おけのような、小さな、罪にまみれた心でも、罪をおわびして、「ごつぞ」と心を開けば、イエス様は喜んでお入りくださいます。さあ心の扉を開いてお迎えしましょう。これがほんとのクリスマスです。

〈さんび〉

「わたしのこころに」(『ぶくいん子どもさんびか』78番)

分級C

—キーポイント—

救い主の誕生

〈導入〉

今週はアドベント三週目です。ろうそくの火も三本ともりました。いよいよ来週はクリスマスですね。街を歩いていても、デパートに入っても、クリスマス一色です。

でも、イエス様が中心でなければ、それは本当のクリスマスとは言えません。今日は、クリスマスの本当の主人公、イエス様がどのようにお生まれになったのかを学びます。

〈聖書を読もう〉

今日はルカによる福音書2章1節〜7節です。1節ずつ順番に読んでみましょう。今日の暗唱聖句は7節です。線を引いて覚えましょう。

〈質問〉

①ローマの国の皇帝アウグストからどのような命令が出されましたか。

●全世界の人口調査をするように、という命令です。ここでの全世界とは、ローマが治めていた地中海沿岸の地域のことです。

②人々がそれぞれ登録をするために出かけたのはどこでしょうか。

●自分の町です。むかし、イスラエルの人たちは

十二の部族に分かれて住んでいました。ユダヤの国の人々は、それぞれ自分たちの家系を引き継いでいたのです。そのため、自分の所属する部族の町へと帰って行きました。

③ヨセフさんとマリヤさんは、ガリラヤのナザレを出てどこに向かいましたか(4節)。

●ベツレヘムの町です。そこは、ダビデ王様の生まれ故郷なので、ダビデの町と呼ばれていました。

ヨセフさんは、ダビデ王様の家系に属していたので、ベツレヘムに向かわなければならなかったのです。ガリラヤのナザレからユダヤのベツレヘムまでは、百キロメートル以上あります。ヨセフさんとマリヤさんにとって、それは遠い道のりの旅でした。

④ようやく二人がベツレヘムに到着して間もない時です。マリヤさんは月が満ちて、赤ちゃんを産みました。赤ちゃんイエス様はどこの中に寝かせられましたか(7節)。

●飼葉おけの中です。飼葉おけとは、家畜小屋の中にある、牛や馬に与えるえさを入れておく箱です。それは、冷たい石で作られていました。お母さんのマリヤさんは、やわらかい布で赤ちゃんイエス様をくるみ、そっと飼葉おけの中に寝かせたのです。

⑤どうしてヨセフさんたちはそのような場所に滞在しなければならなかったのでしょうか。

●ベツレヘムの町は、ヨセフさんたちのように住民登録をするために集まって来た人々にぎわっていました。宿屋も先に到着した人々にすでに

いっぱいでした。ヨセフさんたちの泊まる場所は少しも見当たらなかったのです。

⑥イエス様はなぜベツレヘムでお生まれになったのでしょうか(マタイ2・4〜6)。

●それは、旧約聖書の時代にすでに預言されていたことが実現するためでした。預言者の一人ミカさんが、イエス様がお生まれになる八百年以上も前に、救い主はベツレヘムにお生まれになると預言していました。イエス様は預言の通りに誕生されたのです。

⑦ベツレヘムの町の人々は、救い主が生まれたことを知っていましたか。

●新しい命が誕生した、ということでは喜ぶ人はいましたが、その生まれた赤ちゃんが、実は神様から送られた救い主だとはだれも気づかなかったことでした。

イエス様は馬小屋でお生まれになりました。薄暗くて臭いにおいのする馬小屋は、罪に汚れた人間の心と同じです。でも、きよい神様のひとり子であられるイエス様は、世界中の人々の心にある暗やみを照らすために来られたのです。イエス様は「まことの光」として、わたしたちの世界に来てくださいました。

まことの光、まことの救い主としてこの世に来てくださったイエス様を、わたしの救い主と信じて心にお迎えするなら、罪や悲しみや悩みのために、心の中が真っ暗になっているわたしたちの心にも光が差し込むのです。今日わたしたちもイエス様を心の中にお迎えしましょう。

研究資料

課題 キリストの誕生

旧約聖書に預言され、処女マリヤに衝撃的に告知された救い主の降誕は、決して華々しいものではなく、むしろ人知れず、静かに行われた。

ルカだけがキリスト降誕の時代背景を記録している。彼は常に歴史家として書いていく。

テキスト

1 そのころ、全世界の人口調査をせよとの勅令が 皇帝(カイザル)アウグストとは、紀元前30年から紀元一四年まで在位したオクタ비아ヌスのことである。カイザルもアウグストも称号である。彼は、四十四年間、絶対君主としてローマ帝国を統治し、パックス・ロマーナと言われる、秩序と平和が維持された時代をつくり出した。この平和は、福音が地中海沿岸に急速に伝わって行くことに大きく貢献することになった。

カイザルは全帝国の住民登録をするよう勅令を出した。それは、クレニオがシリヤの総督であった時の住民登録であったとルカは記す。しかし、実際にクレニオがシリヤの総督になったのは紀元六年であり、そのとき彼はローマの人口調査を開始した。批評家はこの事実とルカの記述との矛盾

を指摘する。

しかし、第一世紀において、ローマの住民登録は十四年ごとに行われるのが習慣であったことが学者の研究で明らかにされており、それなら、前年の人口調査はおよそ紀元前八年に行われたと考えられる。しかも、登録の作業はなかなか円滑にはいかず、一回の住民登録が完了するのに、通常数年はかかったのだ。キリストが降誕された紀元前六年ないし五年には実施中ということもありうる。

さらに、クレニオは後のときに総督であっただけでなく、紀元前一二年から東方問題総司令官であったというところから、彼は、ヘロデ王のときに、容易に人口調査を開始することができたであろう(『ウエスレアン聖書注解』新約篇第一巻二三七〜二三八ページ参照)。

4 ヨセフもダビデの家系であり、またその血統であったので、ローマ帝国の支配下にあったパレスチナ地方でも、勅令に従って登録するために、人々はそれぞれの出身地に帰った。ナザレに住んでいたヨセフも、ダビデの家系であったので(1・27)、郷里のベツレヘムに上って行った。マリヤを妻に迎えていた彼は(マタイ1・24)、すでに身重になっていた彼女と一緒に登録しなければならなかった(5節)。

6 そのころ、彼らがベツレヘムに滞在している間に、町は登録をする人々でごった返しており、順番待ちをするのに相当の日数を要したようである。待っている間に、マリヤは臨月を迎えた。

7 初子を産み、マリヤが後に他の子どもを産ん

だことを暗示する。実際、イエスには兄弟姉妹がいたことが福音書に記されている(8・19、マタイ13・55)。マリヤの永遠の処女性というローマ・カトリックの教義には、何ら聖書的な裏づけがない。

布にくるんで、マリヤは嬰兒をうぶ着にくるんだ。助けてくれる助産婦もなく、彼女は自分一人で出産という大仕事をしなければならなかった。

飼葉おけの中に寝かせた。どの宿屋も住民登録をする人々に満室で、ヨセフたちが登録の順番を待つために滞在する場所は、家畜小屋しか残されていなかった。王の王となられるキリストは、ここまで貧しくなれたのである。

客間には彼らのいる余地がなかったからである。物理的に彼らのいる余地がなかっただけではなく、救い主を受け入れる余地が、世の人々の心の中になかったことを示す。イスラエルの人々は、長年メシヤを待ち望んできた。しかしそのメシヤ像は、ローマの圧政を覆し、地上に神の王国をうち建ててくれる解放者であった。彼らは、貧しい家畜小屋で、名もない小娘から生まれた赤ん坊などには、何の期待も持たなかった。それどころか、彼らはいかにイエスを十字架につけてしまった。

キリストは、ご自分の民のところに来られたのに、彼らは彼を受け入れなかったのである(ヨハネ1・11)。「客間には…」の聖句に、早くも十字架が表されている。

クリスマス

● 週 題 羊飼いのみ告げ

● 聖 書 ルカによる福音書2・8〜20

● 暗唱聖句 きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生(ま)れになった。このかたこそ主なるキリストである。

● 目 標 救い主の誕生を喜び、心からお祝いするとともに、それを伝える者となる。

● ルカ2・11

導入

クリスマス、おめでとうございます。待ちに待ったクリスマスが来ました。先週学んだように、救い主イエス様がすべての人を救うためにお生まれになったのです。心からの感謝と喜びをもってイエス様のお誕生をお祝いしましょう。

天使のおとずれ

ここはベツレヘムの町はすれの野原です。いつものように、何人かの羊飼いたちがその夜も寝ないで、羊の群れの番をしていました。すると突然、天使が目の前に現れて、目もくらむほどの強い光が彼らを照らしました。真っ暗だった野原がまぶしい輝きで包まれたのです。驚いた羊飼いたちは、いったい何が起こったのかわかりません。彼らは恐ろしさのあまり、声も出ませんでした。

喜びのメッセージ

羊飼いたちに天使が現れたのは、神様からのすばらしいメッセージを伝えるためでした。天使は言いました。「恐れることはありません。すべての人々に与えられる、大きな喜びの知らせを伝えま

す。」天使は、彼らに喜びのニュースを伝えるために来たのです。その喜びの知らせとは何でしょう。天使は続けて言いました。「今日ダビデの町に、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ、主なるキリストです。」

救い主と聞いて、彼らは目を輝かせました。ユダヤの人々が昔から待ち望んで来た救い主が、今日お生まれになったというのです。しかも、「あなたがたのため」だと天使は告げました。救い主がわたしたちのために生まれてくださったのです。これほど大きな喜びの知らせはありません。

でも、どうやって救い主を見つけることができるでしょうか。天使が続けて知らせしてくれました。「幼な子は布にくるまって、飼葉おけの中に寝かされています。それが、その子が救い主だという証拠です。」

喜びにあふれて
天使も天の軍勢も天に帰って行った後、羊飼いたちはハッとわれに帰りました。そして、口々に言いました。「さあ、ベツレヘムへ行こう。今神様が知らせてくださった出来事を見に行こう。」彼らはすぐに出かけて行きました。

救い主にお会いできるのですから、うれしくてうれしくてたまりません。彼らは急いでベツレヘムの町まで行き、ようやくイエス様を捜し当てました。天使が告げた通り、赤ちゃんイエス様は布にくるまって、飼葉おけに寝かされていたのです。何もかも天使が知らせてくれた通りでした。

救い主にお会いできた羊飼いたちは、喜びにあふれ、神様を賛美しながら帰って行きました。そして、天使の語ったことがすべて本当だったことを多くの人に伝えて行きました。

結び

イエス様のお誕生を最初に知らされたのは、野にいた羊飼いたちでした。彼らは、天使たちの知らせを素直に聞いて、救い主イエス様にお会いできたのです。そして、この喜びの知らせを人々に伝えました。

わたしたちも、わたしたちのために生まれてくださったイエス様のお誕生を、心から喜びをもってお祝いしましょう。そして、家族やお友だちにイエス様こそ救い主だと伝えましょう。

分級 A

〈分級活動例〉

いよいよ四本目のろうそくの日が来ました。クリスマス、おめでとう。きょうは、馬小屋でイエス様が生まれてからのできごとをお話ししましょう。野原で羊さんが(といいながら、年少児に羊の絵をもたせる)ねむっています。羊さんはどんなふうにして眠るのかな。やってみてね。そして、羊さんがよく眠れるように、そばでは羊飼いが、ライオンや狼が来ないように番をしています(年長児に羊飼いの絵をもたせる)。おやおや、居眠りしている羊飼いですかいますよ。(ケンちゃんちよっと居眠りしてみてね。)

その時にね、本当は夜なのに、急にあたりがおみだいに明るくなりました。

「あれれ、いったいどうなっちゃってるの。」羊飼いはびっくりしてキョロキョロ。羊さんも目が覚めて、眠たそつに目をさすっています。「フーッ、すごい。天使がいっぱいだ。」

お空にも、みんなのまわりにも、いつの間にか天使がいっぱいて、クリスマスの賛美をしています。ではありませんか。すると、天使の一番前に、一番立派そうな天使が出てきました(といいながら、教師は白い布をかぶる)。そして、「こつこついいました。」「きょう、あなたがたのために、イエス様がお

生まれになりました。馬小屋の飼葉おけのベッドで寝ています。」

そつと、また、楽しそうに、うれしそうに、天使たちはクリスマスの賛美を歌いながら天に帰っていききました。(天使の扮装をとる)

羊飼いや羊さんと羊さんは、すぐに町に行つて、赤ちゃんのいる馬小屋を探しました。そして赤ちゃんのイエス様にお会いすることができたのです。赤ちゃんのイエス様にお会いした時、羊飼いや羊さん、とってもとっても心がうれしい気持ちでいっぱいになりました。

イエス様にお会いすると、悲しくて泣いている人も、怒っている人も、ふくれている人も、誰でも心が羊飼いや羊さんと同じように、うれしい気持ち、やさしい気持ちでいっぱいになるのです。

クリスマスは、うれしいうれしいクリスマスです。さあ、天使たちのように、心いっぱい、よろこんで、「うれしいうれしいクリスマス」をさんびしましょう。

〈ワーク〉

羊と羊飼いの絵に色をぬりましょう。最初にワークをして、作ったものを、お話に用いるのも良いかもしれません。祝会で活用することもできるでしょう。これらは一月七日の分級のために、保存しておいてください。

分級 B

――キーポイント――

クリスマスおめでとう！

〈導入〉

ついに、ろうそくも四本。クリスマスの日曜日を迎えました。メリー・クリスマス、クリスマスを、おめでとつございます。心いっぱいクリスマスに喜びに満たされましょう。

〈聖書に親しむ〉

ルカ2・8〜20です。きょうは、ナレター、主の御使い、ひつじかいたち、天使たち(天の軍勢)とわかれて読みましょう。暗唱聖句には線を引いて覚えます。そして、ろうそくに書き入れて、クラウンを完成させましょう。

〈グッド・ニュース・ワーク〉

みつかいのことをたどり、明るい色でぬりながら、イエス様までいきましょう。

〈スペシャルなニュース〉

- ニュースを伝えたのはだれ?
- ニュースを最初に聞いたのはだれ?
- だれのためのニュース?
- どんなお方の誕生?

そう、「すべての人の救い主」の誕生です。これ以上のスペシャルはありません。救い主イエス様はわたしたちのために生まれてくださったのです。ハレルヤ、心から喜び、感謝し、わたしたちもこのグッド・ニュース、スペシャル・ニュースをみんなに伝える「みつかい」とされましょう。

分級C

—キーポイント—

喜びの知らせ

＜導入＞

クリスマス、おめでとございます。きょうはとってもうれしい日ですね。なぜなら神様からイエス様という素晴らしいプレゼントをいただいた日だからです。イエス様が人間となってこの地上においでくださったことによって、私たちには、たくさん恵みが与えられました。罪のゆるし、救いの喜び、永遠のいのち…。すばらしい祝福を与えてくださった神様に心から感謝しましょう。

＜聖書を読もう＞

ルカによる福音書2章8節～20節を開いて順番に読みましょう。11節が今日の暗唱聖句です。線を引いて覚えましょう。

＜質問＞

①ベツレヘムの地方で夜通し野宿していたのはだれですか。

●羊飼いたちです。彼らはベツレヘム郊外の野原で羊の群れの番をしていました。

②羊飼いたちが羊の群れの番をしていた時、突然起こった出来事は何ですか（9節）。

●神様のもとから遣わされた天使が羊飼いたちの前に現れ、輝かしい主の栄光が辺り一面をめぐり照

らしました。急にまぶしい光に照らされて、羊飼いたちはどんなに驚き、恐ろしく思ったことでしょう。

③天使が羊飼いたちに現れたのはどうしてですか（10節）。

●天使は羊飼いたちに、すばらしい、しかも最高の、喜びにあふれたメッセージを伝えるために現れました。

④天使が告げた「大きな喜び」とは何ですか（11節）。

●今日、ダビデの町ベツレヘムに、救い主がお生まれになった、という知らせです。この方こそ、神のひとり子であり、わたしたちを罪から救う救い主だということです。しかも「あなたがたのために」と天使は言いました。救い主イエス様がお生まれになったのは、わたしたち一人ひとりのためなのです。

⑤救い主にお会いするために、羊飼いたちに与えられたしるしとは、どのようなものですか（12節）。

●赤ちゃんのイエス様が、布にくるまって飼葉おけの中に寝かされている、というしるしでした。

こうして、天使のメッセージが終わった時、天の軍勢が現れ、天使と一緒に、高らかに神様を賛美しました。

「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように。」すばらしい大賛美がさげられたのです。

⑥天使たちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼いたちはどうしましたか（15～16節）。

●「さあ、ベツレヘムへ行つて、主がお知らせ下さったその出来事を見てようではないか」と互いに語り合いました。そして急いでベツレヘムの

町へと出かけて行きました。彼らは、捜し歩いて、ついにマリヤさんとヨセフさん、また飼葉おけに寝かしてある幼な子イエス様に出会うことができました。天使が具体的に「こた」と教えてくれたわけではありません。でも、救い主の誕生を知らせてもらった羊飼いたちは、喜びいさんでベツレヘムの街へと出かけ、一軒一軒くまなく捜し歩き、ついに救い主イエス様を捜しあてました。

赤ちゃんイエス様は、天使が告げた通りに、布にくるまって、飼葉おけの中ですやすやと眠っておられました。救い主に出会えたことが嬉しくてたまらない羊飼いたちは、自分たちに告げ知らされた事を、人々に伝えました。人々はどんなに驚いたことでしょう。人々は最初のクリスマスの出来事を羊飼いたちを通して知ることができたのです。

わたしたちも羊飼いたちのようにクリスマスの喜びを一人でも多くの人にお伝えしましょう。

⑦救い主にお会いした羊飼いたちは、どのようにして帰って行きましたか（20節）。

●大喜びで、神様をあがめ、賛美しながら帰って行きました。

救い主のお誕生という、すばらしいニュースは、まず羊飼いたちに知らされました。それは、彼らが信じやすく素直で、心のへりくだった人たちだったからです。神様は、羊飼いたちのように、心のへりくだった人を受け入れてくださいます。

私たちも羊飼いたちのように、イエス様のご降誕を喜び、イエス様を心の中にお迎えしましょう。そして、友だちにもこの喜びを伝えましょう。

研究資料

週題 羊飼いのみ告げ

キリストは、貧しい家畜小屋で、ナザレ出身の名もない処女マリヤからお生まれになった。その救い主の降誕を最初に知らされ、また救い主を最初に礼拝したのは、政府の高官でも、町の実力者でもなく、その地方の貧しい羊飼いであった。

今日の箇所は、マリヤへの受胎告知や家畜小屋での誕生と同様、ルカ独自の記録である。

テキスト

8 さて、この地方で羊飼いたちが 冬のさなかに野宿することは考えられないから、キリスト降誕を十二月二十五日とするのは不合理と考える人々もいる。しかし、ある研究の結果、気候に関する限りでは、十二月に羊飼いたちが野宿して羊の群れを飼うことがありえないということを書ける根拠は何もないと結論づけられた。この羊の群れは、神殿の犠牲と定められていたものとする説もあり、そうであるなら、真冬に放牧されていてもおかしくない。

9 すると主の御使が現れ、「主の栄光」（シエキナー）とは、完成した幕屋に満ちた栄光（出エジプト40:34、35）、ソロモンが祈り終わったとき

に神殿に満ちた栄光（歴代下7:1）であった。

その栄光が、貧しい羊飼いに現されたのである。

カナン定住以前は遊牧中心の生活をしていたイスラエルの民にとって、牧畜は、農耕中心の生活になつて後も、重要な産業であった。しかし、羊飼いの地位は低く見られていた。放牧のために野宿をしなければならぬため、神殿儀式に参加することができず、ユダヤ教からは破門され、住民登録の対象にもならなかった。そんな彼らに御使いが現れ、主の栄光が示されたのである。

10 恐れるな 文字通りには「恐れることをやめなさい」で、ザカリヤ（1:13）やマリヤ（1:30）に対するものと同じであった。見よ、すべて

の民に与えられる 彼らの恐れを静めたうえで、御使いは、人類がかつて地上で聞いた知らせの中でもっとも重大な知らせを告げた。「見よ、私はすべての民に及ぶ大きな喜びのすばらしい知らせをあなたたちに伝える」（詳訳）。私は「すばらしい知らせを」伝えるは、ギリシャ語ではただ一語、ユウアンゲリソマイ（福音を宣べ伝える）である。

11 きょうダビデの町に その良い知らせとは救い主の誕生という、人類にとってもっとも重要な使信であった。新しく生まれたみどりごに三つの称号が与えられた。原文の順で、①救い主、②キリスト、③主である。①イエスの名は「主は救い」の意味である（マタイ1:21）。人類を罪から救うために来られたイエスにふさわしい第一の称号である。②ギリシャ語のクリストスはヘブル語のメシヤに相当する。いずれも「油注がれた者」の

意味である。イエスは、旧約聖書で預言され、約束されていたメシヤとして来られた。③イスラエルのメシヤとして、また世の救い主として来られたこの方は、すべての者の主である。

12 あなたがたは、幼な子が布にくるまって、赤ん坊が布にくるまって飼葉おけに寝かされていることが、救い主であると認められるしるしであった。王宮ではなく家畜小屋で、揺りかごではなく飼葉おけに、やわらかい羽布団ではなくみすばらしい布にくるまって寝かせられている赤ん坊。これが、我らを罪から救うために神の栄光を捨てて人となり、貧しくなられたキリストのしるしであった。

13 するとたちまち、おびただしい 天の軍勢の賛美は、イエスが神の子であることの証拠だった。

14 いと高きところでは 御使いたちの賛美は、神への栄光（グロリア・イン・エクスセルシス・デオ）と人への平和であった。「いと高き所（天）では、神に栄光があるように。地の上では、神のみこころにかなう人々へ善意の人々、神の愛顧を受けた人々への間に平和があるように」（詳訳）。

19 しかし、マリヤは 羊飼いたちはベツレヘムに行き、幼子を発見して、み言葉とおりであったので、神をあがめた（20節）。マリヤは受胎告知のときから、人知では測り知ることができない神の計画があることを感じていた。彼女は、この羊飼いたちの報告も、十分に理解はできなかったが心に留めた。すべてが分かったのは、彼女が主の十字架の下に立ったときであった。

年末感謝

●週題 感謝にあふれて

●聖書 詩篇103・1-22

●暗唱聖句 わがたましいよ、主をほめよ。

そのすべてのめぐみを心にためよ。

詩篇103・2

●目標 一年間の神様の恵みをたくさん思い出して、心から感謝する者となる。

導入

いよいよ、今年も最後の日を迎えました。今年の礼拝も、今日が最後となりましたね。そして今日は二十世紀最後の日でもあります。みなさんにとってこの一年はどんな一年でしたか？

主をほめよ

今年一年間を振り返る時、いろいろな事を思い出します。今日は一人ひとり、「わたしの十大二ユース」を挙げてみませんか。過ぎ去った一年が昨日のこのように思い出せることでしょうか。また、お家の人たちと話し合って、「わが家の十大二ユース」を考えてみるのも楽しいですね。

そのように一年を振り返る時に、楽しかった事やうれしかった事、また反対にうれしかった事や苦しかった事、また悲しかった事などを思い出しますね。でも、今日、今年最後の礼拝で、わたしたちはまず神様に心からの賛美をさげしましょう。詩篇には何回も何回も「主をほめよ」と出て来ます。神様を賛美する事は、わたしたちにとって最

もすばらしい事だからです。心の中が不安になったり恐れを感じたりする時は、神様を賛美しましょう。わたしたちが神様を賛美すると不安や恐れはふき飛んでしまします。そして、わたしたちの心にすばらしい喜びが湧き上がってくるのです。今日、わたしたちは心いっぱい神様を賛美しましょう。

主の恵みを数えよう

また、この一年を振り返り、起こった出来事を書き出してみても良いでしょう。そうすると、神様が「この時も守ってくれたさうだ」「あの時も守ってくれたさうだ」と、一つ一つ神様の恵みを思い出せることができます。また、たいてい思い出さうな事がなくても、今日ここまで守られて来たことが神様の恵みであり、祝福なのです。今日の言葉には「そのすべての恵みを心にためよ」とあります。

わたしたちの心の中に、神様の恵みを一つ一つ刻みつけるように、神様の恵みを数えましょう。みなさんがよく知っているパウロ先生は、「わたしは神の恵みによって、今のわたしになりました」と言いました。自分の力や知識によってもではなく、また「あれもした、これもやった」という経験によるのでもなく、すべてが神様の恵みによるのだと言っています。健康が守られた事、教会学校に来れた事、祈りが聞かれた事、など神様の恵みを数えてみるなら賛美があふれて来るのです。

主に感謝しよう

さらに、今日わたしたちが神様にささげるべき

ものがあります。それは、感謝です。神様は、わたしたちがいつでも、どこにいても神様に感謝することを求めておられます。この一年も、神様は、いつでもわたしたちと共にいてくださり、守ってくださいました。わたしたちが神様を忘れるようなことがあっても、神様はわたしたちを忘れることなく、いつも覚えて守ってくださいています。

聖書の中に「見よ、イスラエルを守る者は、まごろむことがない」という言葉があります。その通りに神様は、片時もわたしたちを忘れることなく、見守り続けてくださったのです。わたしたちは、神様にいくら感謝しても感謝しきれませんね。神様に感謝する事は本当にすばらしいことです。わたしたちの心がいつも感謝の思いで満ち溢れている時、神様のすばらしい恵みと祝福がわたしたちのまわりの人たちに届けられるのです。

ある所に一人のおばあさんが住んでいました。このおばあさんは、なにかお話しする度に「感謝、感謝」と言っていました。ですから近所の人たちはそのおばあさんを「感謝ばあさん」と呼ぶようになりました。ある時、一人の人がおばあさんに「なぜそんなに感謝、感謝と言えるのですか？」とたずねました。すると、おばあさんは「神様が私を罪の中から救ってください、いつも守っていてくださるから」と答えたそうです。

結び

今日は二〇〇〇年最後の日です。この一年間も、神様がたくさんの恵みをもって導いてくださったことを心から感謝しましょう。

分級 A

〈分級活動例〉

きょうは、今年最後の日で、しかも日曜日です。それに、明日からは二十一世紀になるってこと、マリちゃんは知ってますか？ 二十世紀の最後の日に、「神様、ありがとう」とお礼をいいます。ケンちゃんは、いつも、何かいただいたり、してもらったら「ありがとう」って上手に挨拶で返しますね。先生はいつも感心していましたよ。「ありがとう」って言えるのは、当たり前だけれど、とてもすばらしいことです。神様にも、いっぱい「ありがとう」を言わなければならないと思います。せんか？

- きょうも元気なこと。
 - 今年も頑張った、教会学校へ来たこと。
 - 今年はお友だち、〇〇ちゃんをさそってこれたこと。
 - 病気になるたけれど、直ったこと。
 - 今年、保育園（幼稚園）に行くようになったこと。
- （その他、子どもたち個人のことで、感謝することを書けるだけ具体的にあげて、子どもたちと共に話し合ってみましょう。）
- わー、いっぱいあるね。考えたら、まだまだあ

分級 B

〈キー・ポイント〉

神様、ありがとう！

〈導入〉

クリスマス、楽しくよいお祝いができましたか？ クリスマスが終わったらいエス様、きょうなら。

こんどはお正月」ではありませんね。一年中、わたしたちは心にイエス様をお宿して、毎日がクリスマスなのです。クリスマスに洗礼を受けて、神の子になったお友だちがいたら、おめでとう！ さて、きょうは、この年最後の日曜日、二十世紀最後の日です。心のかぎり、神様に感謝する日といたしましょう。

〈聖書に親しむ〉

詩篇103・1-22です。一節ずつ輪読をしましょう。暗唱聖句はいつものように赤い線を引いて覚えさせます。

「ほめよ」とは、感謝の心でさんびすることです。この中に七回も出てきます。

〈感謝ベスト・テンのワークをやりましょう〉

この一年をふり返って、あなたの心に思い浮かぶ「感謝のベスト・テン」を書いて、発表しましょう。ベスト・ファイブでもいいですよ。お友だちの感謝をきいていると、きくと、「そっだ、同じようなことがあった」と、いろんなことを思い出していきましょう。そしてそれらをみんな心にためましょう。神様は新しい年もさらに恵みくださいます。そして最後に「ハレル、ハレル、ハレル、ハレル、主をほめよ」と大合唱をしましょう。（日ハレルヤ、主をほめよと大合唱をしましょう。）（日本ボーリネス教団出版局「子どもさんびか」138番）

分級C

キーポイント

感謝

〈導入〉

今日は十二月三十一日。今年最後の日曜日であり、二十世紀の最後の日ですね。この一年をふり返ってみるといろいろな事がありました。うれしかったことや楽しかったこと。悲しかったことやつらかったこと。でも、すべてが神様からわたしたちに与えられたもののなのです。

みなでこの一年をふり返り、心から神様に感謝をささげましょう。

〈聖書を読もう〉

詩篇108篇1節～22節を開きましょう。長いところなので質問に答えながら読んでみましょう。今日の暗唱聖句は2節です。線を引いてしっかり覚えましょう。

〈質問〉

①1節と2節に繰り返されている言葉は何ですか。
 ●「わがたましいよ、主をほめよ」という言葉です。「主をほめよ」この呼びかけは、20～22節に四度も繰り返されていますね。「主をほめたまえ」とは、神様を賛美しなさい、ということなのです。う

れしい時も悲しみに沈む時も、いつでも神様を賛美するのです。

②2節には何を心にとめよ(忘れるな)、と書いてありますか。

●神様から与えられた、すべての恵みです。神様の恵みを一つ一つ数えるなら、わたしたちの心は神様への賛美で満ち溢れるのです。ここでは、神様が良くてくださったことを何一つ忘れてはいけない、と勧められています。

③では、神様はわたしたちにどのような恵みを与えてくださっているのでしょうか。3～5節に具体的に書かれていますが、最初に書かれているのはどのようなことですか。

●神様がすべての不義を赦してください、ということ。12節にも、「主はわれらのとがをわれらから遠ざけられる」とあります。「不義」とか「とが」とは、わたしたちの罪のことです。神の御子イエス様が、わたしたちの身代わりに十字架にかけられ、すべての罪を受けてくださいました。そのことのゆえに、イエス様を信じるわたしたちの罪を、父なる神様は赦してくださいさるのです。

先週はクリスマスを迎えましたが、神様は、イエス様をこの世界に送ってくださいたほどに、わたしたちを愛してくださいしています。これ以上の大きな恵みはありません。

④この他にどんな恵みが与えられているのでしょうか。

●神様はわたしたちの病気を治すことのできる方です(3節)。また、イエス様の身代わりの死によ

って、わたしたちのいのちをあげてくださいました(4節)。そして、いつくしみと憐れみの心をもって、常にわたしたちを守り、支えてくださいます。

⑤神様はわたしたちの一生の間、何を満ちてくださる方ですか(5節)。

●良き物をもって満たしてください。わたしたちが心から神様を信頼し、神様によりすがら、神様は必要なものをすべて与え、わたしたちを養ってくださいさるのです。

⑥ここで1テサロニケ5章18節を開いてみましょう。何と書かれていますか。

●「すべての事について、感謝しなさい」とありますね。この手紙を書いたパウロ先生は、一生懸命伝道したために、いろいろな迫害を受けた人です。イエス様のための大切な働きをしながら、何度も殺されそうになったのです。でも、パウロ先生は、どんな時でも神様の恵みと守りを忘れることはありませんでした。そして、絶えず神様を賛美し、感謝のお祈りをささげていたのです(使徒16・26)。ですから、どんな事でも神様に感謝するようにと語ることができました。

今日の暗唱聖句には「すべてのめづみを心にとめよ」とありましたね。ここにも「すべて」と書かれてあります。「すべて」とは一つ残らず、という意味です。今日わたしたちは、神様がこの一年間与えてくださった恵みを一つ一つ数えましょう。そして、心いっぱいの感謝の祈りを神様にささげましょう。

研究資料

課題 感謝にあふれて

年末感謝の特別プログラムである。一年間、主の御守り、支えられ、導かれてきたことを感謝したい。

テキスト

本篇は、ダビデによる神への礼賛の詩篇である。本篇には一つも不快なことがなく、全詩篇の中でもっとも美しい詩とされている。

本篇は、次のように四つに分けられる。①個人的な証(1～5節)、②過去の祝福(6～12節)、③現在の御助け(13～18節)、④すべて治めたもう主ゆえの賛美(19～22節)。(『ウエスレアン聖書注解』旧約篇第三巻、三〇七～三〇九ページ参照) 本篇中に「主をほめよ(ほめまつれ)」という言葉が五節で使われている(1、2、20、21、22)。B・F・バックストン師によれば、主をほめまつるべき理由が、1、2節に二つ記されている。

一、その御名のゆえに。換言すればそのご性質(ホワット・ゴッド・イズ)のゆえに。1わがたましいよ、主をほめよ。わがうちなるすべてのものよ、その聖なる名をほめよ。

二、その様々の恵みのゆえに。換言すれば、そ

のみわざ(ホワット・ゴッド・ダズ)のゆえに。

2わがたましいよ、主をほめよ。そのすべてのめづみを心にとめよ。(新改訳では「主の良くてくださったことを何一つ忘れるな」である。)

その忘れてはならない神の恵みが、3節から5節に記されている。

①罪のゆるし。3主はあなたのすべての不義をゆるし。神はキリストの十字架のあがないによって、赦罪と義認の恵みを与えたもうた(ロマ3・24、4・25)。

②いやし。3あなたのすべての病をいやし。キリストは我らの病を身に負われた(イザヤ53・4、マタイ8・17)。

③あがない。4あなたのいのちを豊からあがないだし。再臨の主は、我らを死よりよみがえらせ、栄光の姿に変えたもう。つまりからだのあがないである(ロマ8・30)。

④恵みの冠。4いつくしみと、あわれみとをあなにごとむらせ。新改訳では「恵みとあわれみとの冠をかぶらせ」である。十字架の血によって内心の汚れをきよめ、キリストを内に住まわせたもう(ロマ6・6)。

⑤満足。5良き物をもってあなたを飽き足らせられる。内住のキリストによって、主ご自身のみで満ち足れる満足と、主ご自身を喜び喜びを与えたもう(ロマ5・11)。

⑥力。5こうしてあなたは若返って、わしのようになり新たになる。内なる主によって、いつも心に従うことができ、どんな人をも愛することがで

き、大胆に福音を宣べ伝えていくことができる(イザヤ40・31、ピリピ4・13)。

さらに、本篇中に主のご性質の三つの面を教えられる。

①義なる主。6主はすべてしえたげられる者のために正義と公正とを行われる。主は高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みを賜う公正な方である(ヤコブ4・6、1ペテロ5・5)。

②恵み深い神。8主はあわれみに富み、めづみふかく、怒ること遅く、いつくしみ豊かにいらせられる。主は、たとい我らが弱さのためにまた罪を犯すことがあっても、大祭司なるキリストを備えたもう(1ヨハネ2・1)。

③父なる神。13父がその子供をあわれむように、主はおのれを恐れる者をあわれまれる。神は、時には我らを厳しく訓練したもう(ヘブル12・5、11)。我らは、内なる御霊によって神を「アバ、父よ」と呼ぶことができ、神は我らを御国の相続人とみなしたもう(ロマ8・14、17)。(以上バックストン著『詩篇の霊的思想』一七四～一七六ページ参照)

これほどの神の恵みが与えられているのであるから、その恵み―主が我らに良くてくださったこと―を忘れずに心に留めるべきである。年末にあたり、一年を振り返って、まず教師自らが主の恵みを数えたい。

新年

● 週 題 富める農夫

● 聖 書 ルカによる福音書12・13～21

● 暗唱聖句 人のいのちは、持ち物にはよらないのである。 ルカ12・15

● 目 標 持ち物にたよらず、神に頼ること
こそ、この世のいのちと永遠のいのちを保つ秘訣であると教える。

導入

あけましておめでとございます。新しい年、二十一世紀が始まりました。神様は、今年はどんなすばらしいみわざを行ってくださるでしょうか。大いに期待しましょう。そして、今年も神様の言葉に従って、進んでいきましょう。

兄弟の争い

みなさんの中に、お父さんやお母さんが、他の人とお話している時に、横から「ねえ、お母さん、おやつ」と声をかけて、「人がお話をしている時は、横から話しかけないで、待っていなさい」なんて言われた事はありませんか。

ある時、イエス様が多くの人たちに大切なお話をしておられました。すると、その途中で、自分の相談事をするためにイエス様の話を中断させた人がいました。それは、亡くなったお父さんの残してくれた財産のことでした。この人はお兄さん

とうまく話し合いがつかないで争っていたので、イエス様に助けてもらおうと思ったのです。お金や持ち物のことで、兄弟が争う事は今でもよくある話ですね。みなさんの中にもおやつで兄弟ゲンカをする人はいませんか。

自分中心の人

イエス様は、お話の途中に割り込んで来た失礼な人の話を、無視されませんでした。それだけではなく、他の人にも大切なこととして、たとえ話をしておりました。

ある一人のお金持ちの畑が豊作でした。たくさん作物がとれたので、その金持ちは、「わたしの作物をしまっておく所がない」と困ってしまいました。よく考えた末、「そうだ。今の倉を取りわけて、大きな倉を建て直そう。そうすれば全部の穀物や食糧をたくわえることができる」と思いついたのです。すっかり嬉しくなったこの人は、自分の魂に呼びかけて、「さあ、安心せよ。一生遊んで暮らせるぞ」と喜びました。ところが神様は言われました。「愚かな者よ。あなたの命は今夜取り去られる。では、あなたの用意した物はどこなるのか。」とても厳しい言葉ですね。でも、この人の言葉に注意してみると、「わたしの作物」「わたしの倉」「自分の魂」と、何もかも自分中心に考えていることがわかります。この人の口からは一度も、神様や人々への感謝の言葉が出て来ないのです。わたしたちも、自分の持っている物や、自分の体、お金、時間などは自分のものだと考えていませんか。

か。このお金持ちもすべて自分の手に入った物は自分のものだと考え、「これで、一生安心だ」と思っていたのです。でも、イエス様は、そのような考え方は愚かな人の考えだと言われます。

なぜなら、目に見える物、手で触れるものは全部、わたしたちがこの世に生きている間だけのものだからです。死ぬ時には、何もかも置いていかなければなりません。そして、それらはみんな他の人のものになるのです。

神様を第一とする人に

イエス様は、このたとえ話を通して、自分の物だと思っているものはすべて永遠に続くことのないものなのだから、それに捕われぬようにと教えられました。

このお金持ちのように、持ち物に頼り、たくさん持っていることで自己満足して生きていると、大変なことになります。本当の幸せな生き方は、神様を第一とすることです。わたしたちに命を与え、わたしたちを養ってくださったに任せて神様にお頼りすることこそ、一番安心できる生き方なのです。さらに神様は、この地上のいのちばかりでなく、永遠のいのちも与えてくださいます。

結び

わたしたちの持ち物は、すべて神様から与えられているものです。すべての必要を与えて下さる神様に感謝し、いつでも神様により頼みましょう。

分級 A

〈教師メモ〉

これから五週間にわたって、イエス様のたとえ話を学びます。どれもわかりやすい話ですから、生き生きと語ってください。自分が登場人物になりきって話すと、子どもの目は輝きます。

〈分級活動例〉

ケンちゃん、お正月にはお年玉をもらいましたか。えっ、おじいちゃんから千円もらったって？良かったね。マリちゃんはとうですか。おばあちゃんから二千円いただいたの？ すこいね。それでそのお金、どうしますか。貯金しておくのもいいでしょうね。でも、もしケンちゃんや、マリちゃんが死んでしまったら、そのお金はだれのものになるのでしょうか。

イエス様は、ある日、こんな話をされました。ある所に広い畑をもっているお金もちのお百姓さんがいました。その年もたくさんのお米や麦が取れて、倉庫が足らなくなってしまいました。そこで、もっと大きな倉庫をたてることにしたのです。お百姓さんは大喜びで、「これでこれから先、何年もの食物がある。これからは毎日こちを食べて、楽しく暮らそう」と言いました。

分級 B

〈キーポイント〉

お金より大切なもの

〈導入〉

いよいよ二十一世紀の幕開けですね。新しい世

紀の中心になるのは、みんなですよ。暗いニュースが多い今の世界を、明るく正しい世界に変えることのできる人になってください。イエス様は、みんながそのような働きができる人になるよう願っておられます。

〈聖書に親しむ〉

ルカ12・13～21を、ナレーター、群衆のひとり、イエス様、金持ち、神様のそれぞれの役を受け持って読んでみましょう。暗唱聖句にも線をひいて、しっかりと覚えてください。

〈いのちワーク〉

空白の中に、ふさわしい文字を入れたり、正しい数字を入れたりしてください。今月は、このような形式のワークに挑戦しましょう。

〈お金といのち〉

「どうも大切」という声が聞こえてきます。確かにそうですね。この地上で生きている限り、お金は必要です。でもお金を欲しいと思う心は、どんどん大きくなることに注意しなくてはなりません。「生きていくだけのお金があれば十分」と考える心があるのでしょうか。そして、一番大切なのは、この地上のいのちではなく、死んでからも続く「永遠のいのち」です。これは、どんなに大金を出しても、買うことはできません。

分級C

〈キーポイント〉

物ではなく、神様に頼ろう

〈導入〉

いよいよ二十一世紀が始まりました。今年もイエス様の生涯について学びますが、今月はイエス様のなされたたとえ話を読んでみましょう。

えみちゃんは、クリスマスの時に黄色の自転車を買ってプレゼントしてもらいました。うれしくてたまりません。公園で遊んでいるお友達に、「こんな自転車をプレゼントしてもらったんだ」と自慢しました。すると、くみちゃんが「わたしだって、ピンクの自転車持っているもん」と胸をはりました。それを聞いたともちゃんが「じゃあ、わたし赤いがあるから乗って来ようかなあ」と言いました。みんなそれぞれに、自分の持っている物を自慢し始めたのです。みなさんは、「自分の持っている物を」「これ、いいだろ」と自慢そうに見せびらかすことはありませんか。今日のたとえ話に出てくる人も同じように、自分の持ち物を自慢していたのです。

〈聖書を読もう〉

今日は、ルカによる福音書12章13節〜21節です。1節ずつ順番に読んでみましょう。今日の暗唱聖句は15節です。しっかりと線を引いて覚えましょう。

〈質問〉

研究資料

期題 ユダヤ伝道

これは主イエスが十字架にかかられる前の年の仮庵の祭りから、翌年の過越の祭りまでの期間である。現在の太陽暦になおすと、仮庵の祭りは秋の十月ごろ、過越の祭りは春の三、四月ごろに開かれる。そうするとユダヤ伝道は十月ごろから翌年の三、四月ごろまでの半年間となる。この期間にはさらに三つに区分される。

- ①仮庵の祭りのエルサレム上りから宮きよめまで
(マタイ19・1、マルコ10・1、ルカ9・51〜13、ヨハネ7・10〜10・39)。
- ②最後のエルサレム上りまでの約二、三ヶ月間。
主に荒野、ペレヤ地方で伝道される(マタイ19・1、マルコ10・1、ルカ13・22、17・11、ヨハネ10・40、11・54)。
- ③最終的なエルサレム上りからベタニヤにおける香油注ぎまで(マタイ19・3〜20、20・17〜34、26・6〜13、マルコ10・1〜52、14・3〜9、ルカ17・11〜19・27、ヨハネ12・1〜11)。(小島伊助『キリスト伝』)

単元 たとえ話の目的

イエスがたとえ話を用いられたのは、聴く者が彼の語られることの意味をよく理解するためであ

①イエス様は何に對して、十分に警戒しなさい、と言われましたか(15節)。

●あらゆる貪欲です。貪欲とは、あれがほしい、これがほしい、と人の物を見て何でも欲しいがる心のことです。イエス様はこのような欲張りの心に對して、十分に注意しなさいと言われたのです。そして、あるたとえ話を始められました。それは、自分の畑でたくさん収穫がとれた金持ちの話でした。

②金持ちはどんなことで困っていましたか(17節)。

●思った以上の収穫があったために、そのとれた作物をしまっておく所がない、ということに困ってしまいました。どうしたらすべての作物をしまっておくことができるだろうか、と一生懸命思い巡らし、頭の中で考えました。

③このお金持ちは、収穫できた作物や倉は、だれの物だと言っていますか(17〜18節)。

●「わたしの作物」「わたしの倉」という言葉のうちに、すべてが自分の物だと考えています。19節では、「自分の魂」とも言っています。「これから、この人は自分のことしか考えていないことがわかります。たくさん収穫できたから、他の人に分けてあげようとか、良い天候を与えて下さった神様に感謝しようとかは、少しも考えていなかったのです。

④この人はどのようなことで安心しましたか(19節)。

●自分の持ち物が十分にあるのだと、すっかり安心しました。畑が豊作になり、長年分の食糧をたくさんたぐわえることができたのです。財産がたくさんあれば、もうこれで自分の人生はだいじょうぶ、と考えていました。このお金持ちの人は、

った。日常茶飯の事実や事件を平易な言葉で語られることによって、より正確に、より完全に、より深くすべての人が理解するためであった。その結果、地上の生き生きとした事実を通して、天国の真理を知ることができた。それで聴衆は主の話を聞き惚れたのである。しかし聴衆の中に多くの敵が混じって来るようになった。弟子たちが不思議をもって語られるようになった。弟子たちが不思議に思っただけでなく、理由を聞く(マタイ13・10)、真にイエスを愛して、イエスの福音を聴こうとする者にはより深く理解させると同時に、敵に對しては手を空しくして帰らせるためであると言われた(マタイ13・12)。

週題 富める農夫

テキスト

13 イエスに言った 当時宗教上の教師(ラビ)はその地域社会の民事の調停者の役を兼ねていたので、ラビの一人と見なされていたイエスにこのような要請がなされたのである。

14 だれがわたしを キリストは、人々が自分自身で具体的な事柄を判断し、決定することの出来る諸原則を説明するためにおいでになったのである。特定の事柄を解決するためではない。主の使命はあくまで宣教である。

15 たといたくさん物を持っていたとしても、人のいのちは、持ち物にはよらないのである。人の慰めや幸福というものは、その人が持っている財産の多少に關係ない。ましてや永遠の救いには全く關

自分の持っている物で自己満足し、それを自慢していたのです。

⑤それに対して、神様は「愚かな者よ」と厳しく言われました。この人のどこが間違っていたのでしょうか。

●この人が自分の持ち物に頼っていたことです。財産をしっかりとたくわえてさえいれば、自分のいのちは保証されていると彼は考えていたのでしよう。でも、神様はその考えがまったく間違っていることを教えられました。

⑥今日の暗唱聖句に注目しましょう。イエス様は、人のいのちは何と無關係だと言われましたか。

●持ち物、つまりわたしたちに与えられている財産です。わたしたちは、たくさん物を持っていたら安心して生活ができると思いがちです。でも、どんなにすばらしい物を持っていたとしても、それでわたしたちが長生きできるわけではありません。イエス様は、わたしたちの心が持ち物に頼りやすいことをよく知っておられました。ですから、このたとえ話をされたのです。

⑦それでは、わたしたちが頼るべきお方はどなたでしょうか。

●わたしたちに永遠のいのちを与えてくださるまことの神様です。神様はわたしたちが心からお頼りするならば、生活に必要な物をすべて与えて、わたしたちを養ってくださるばかりか、永遠に生きるいのちを与えて下さいます。神様に生かされていることを感謝して、いつでも神様を第一とした生活をしましょう。

係がない。

16 ある金持 この金持ちには、富を不正な手段で得たとか、富を得るために労働者たちに賃金を十分に払っていないとか、放蕩な生活をしていたとかいった事実を示唆するものは何もない。しかしその計画は、人間的な打算で自分の財産の安全と、自分の生命の安泰を企てること以外の何ものでもない。これで人生の目的を達し、何の心配も不安もないと考えたのである。

20 愚かな者 実際生活の上で神を無視している人 あなたの魂は今夜のうちに取去られるであらう死(個人的終末)に直面する事実を示された。聖書はまた、再臨があるという事実によっても、人の生き方(目標)の決定を迫っている(35〜59節)。取り去られる 「返済される」「取り戻される」との意で、いのちも財も、所有者なる神のものになるということ。

21 自分のために宝を積んで この男が愚かであった理由は、彼が富を自分のものだと思っていた点である。聖書が富や物質的事柄に關して教える基本的考えは、「人間は、スチコワード(管理人)である」ということである。神が「あなたの用意した物は、だれのものになるのか」と尋ねられた時、「自分の富は自分の所有であり、どのように使おうと自由だ」という金持ちの根本的な誤りを指摘しておられる。お金はただ一つの目的のため、すなわち与えるためにある。換言すれば、永遠の事柄に投資するためにあるのだ。

●週題 ぶどう園の主人

●聖書 マタイによる福音書20章1〜16節

●暗唱聖句 わたしは、この最後の者にもあなたと同様に払ってやりたいのだ。

マタイ20・14

●目標 すべての人を愛される神の愛を知り、その招きに応える者となる。

導入

イエス様が弟子たちを連れて、伝道旅行をされていた時です。ユダヤの国にはたくさんぶどう園がありました。イエス様はあるとき、そんなぶどう園の一つを眺めながら次のようなたとえ話を話されました。

ぶどう園の主人

あるぶどう園を持った主人がいました。広々としてたくさん木が植えられている、それはそれは立派なぶどう園でした。ところが、そこで働く人がいません。主人は労働者を雇うために、夜が明けると早速市場へ出て行きました。そして、適当な労働者を見つけると、一日分で「デナリ払うことを約束してからぶどう園に送りました。一デナリとは、ユダヤでは一日働いてもらえる金額でした。

それから三時間ほど経った朝の九時ごろ、もう一度市場に出かけると、何もせず立っている人たちがいます。主人は自分のぶどう園で働くよう

に声をかけて、彼らを送り出しました。

主人は昼の十二時ごろ、三時ごろにも同じように出かけて行き、労働者を雇いました。夕方の五時を過ぎました。ぶどう園の主人が再び出かけて行くと、まだ市場で立っている人がいるではありませんか。働き場のないこの人たちをかわいそうに思った主人は「あなたがたもぶどう園に行きなさい」と言って、自分のぶどう園に送り出しました。

約束の「デナリ」

やがて日がだんだん暮れ始めました。労働時間が終わりととなり、主人は管理人を呼び出して言いました。「労働者たちを呼びなさい。そして、最後に来た人々から順番に賃金を払ってやりなさい。」夕方の五時ごろ雇われた人たちがやって来ました。管理人は彼らに「デナリを手渡ししました。びっくりしたのはこの人たちです。一時間しか働いていないのに一日分の賃金をもらえるなんて。ところがその後によって来た労働者たちに手渡されたのも、それぞれ「デナリ」でした。

最初にぶどう園で働き始めた人たちはその様子をじっと見ていました。彼らは朝早くから今まで一日中働きつづめて、疲れてへとへたになっていましたが、ようやくお給料がもらえると聞いて、うれしくなりました。しかも最後に来た人たちが「デナリ」をもらったのです。さぞかし自分たちは奮発してもらえらるだろうと期待しました。ところがどうでしょう。自分たちにも同じように「デナリ」だけが手渡されたのです。

彼らの心の中は不満とねたみでいっぱいになり

ました。早速ぶどう園の主人の所に行って、こう言いました。「主人様、この最後の人たちはわずか一時間しか働かなかったのに、一日中働いたわたしたちと同じ扱いをされるのですか。わたしたちは、厳しい暑さにも我慢して、汗水流して一生懸命働いたのに。」

この最後の者にも

主人は答えました。「わたしは何も不公平なことしていませんよ。あなたは私と一日「デナリ」の約束をしたはずで、自分のもらった分を持って行きなさい。ただわたしとしては、この最後の者にもあなたと同じように払ってあげたいのです。」実は、このぶどう園の主人とは、父なる神様のことです。そして、「デナリ」とは、神様からわたしたち一人ひとりに与えられる、救いの恵みのことなのです。ぶどう園の主人である神様は、すべての人に救いという恵みを与えたいと願っておられます。神様は、最初に招かれたのに文句を言ってしまうような人も、行き場がなくて最後に招かれた人も、分けへだてなく愛してくださっているのです。

結び

神様は「すべての人が救われる」ことを望んでおられる（「イテモテ」2・4）。お方です。ひとり子イエス様を与えてくださったほどの大きな愛をもって、今日もわたしたち一人ひとりを「わたしのぶどう園に来なさい」と招いてくださっているのです。この神様のご愛に感謝して、その招きに応える者となりましょう。

分級 A

〈分級活動例〉

ケンちゃん、マリちゃん、イエス様のたとえ話っておもしろいと思いませんか。きょうは、たくさんぶどう畑をもっていた人のお話をします。ちょうどおいしいぶどうの実がなる頃でした。実を早く取り入れないと、味が悪くなってしまいます。そこで「一日一円で働いてください」とお願いして、朝早くからたくさんの人に頼んで取り入れてもらっていたのです。

ところが、お昼になってもまだたくさん実が残っています。そこでまた別の人たちに頼んで働いてもらいました。それでも足りません。三時ごろ、日が暮れる直前の五時ごろにも、他の人に来てもらって働いてもらいました。

ぶどう園の主人は「ありがとう。皆さんのおかげで、全部取り入れることができました。」そう言って、最後の五時ごろに来た人たちに「はい。一万円」と渡したのです。その人はどう思ったでしょう。そう大喜びですね。

朝早くから働いていた人は、「これはすごい。わたしたちには五万円ほどもらえるかな」と思っていました。ところが、「はい、どうぞ」と渡されたのは、やはり一万円でした。

ケンちゃんは、何時から働く人になりたいでしょう。五時からですか。そのほうが楽ですね。

でもその人は、朝から五時まで、働きたいと思ってても仕事がなくって、「きょうは、仕事がないからご飯が食べられない」って心配していたかもしれない。ぶどうの取り入れが大好きな人は、一日中働いて、大喜びだったかもね。

実は、小さな時から教会に来ていたみんなは、朝早くから働いている人なんです。おいしいちゃん、おばあちゃんになつてから教会に来る人は、五時から働く人です。でもみんな同じ「永遠のいのち」を神様からもらえます。教会に来るって、楽しいことですよ。イエス様を信じて、楽しく教会で過ごして、その上に「永遠のいのち」をもらえるなんて、すくくラッキーと思いませんか。

〈ワーク〉

二つの絵に色をぬって切り抜きましょう。割りピンで真ん中をとめて、くるくる回すと、どうなるでしょう。

分級 B

――キーポイント――

何がしあわせ？

〈導入〉

お金よりもっと大切な永遠のいのちをしっかりと持って、一週間を歩みました。永遠のいのちは、決して死んでからいく天国にあるだけのものではありません。永遠のいのちは、今持つことができますし、それによって、死についての不安から解放され、喜んで生きることが出来ます。

〈聖書に親しむ〉

マタイ20・1〜16を、イエス様、ぶどう園の主人、五時からの労働者、朝からの労働者に分かれて読んでみましょう。暗唱聖句にも線をひいて、しっかり覚えてください。

〈ぶどう園ワーク〉

いろいろな質問が出されています。正直に答えてみてください。きょうのたとえ話は、今の私たちとどう関係するのでしょうか。

〈同じほつびで嬉しい？〉

赤ちゃんの頃から教会に来ていたお友だちも、つい最近教会にはじめてお友だちもいますね。あるいは、老人になつてから教会に来る人もいます。でも、神様はみんな同じほつび、「永遠のいのち」を与えてくださいます。「それじゃ、遅く教会に行った方が得だ」と思う人がいるかもしれません。でも、イエス様を知らない人は、本当は苦しいのです。特に、死についての心配は、イエス様を信じるなら、必ずなくなります。

分級C

〈キー・ポイント〉

神様の愛の招き

〈導入〉

みなさんはどのようなきっかけで、教会学校に来るようになりましたか。お友だちに誘われて来た人、お父さんお母さんと一緒に来ている人、チラシを見て来るようになった人、いろいろですね。でもきっかけは様々であっても、実はみんな神様から選ばれているのです。わたしたちが教会に来る前から、神様はわたしたちを知っておられ、わたしたち一人ひとりを招いておられたのです。神様がどれほどわたしたちを愛して、熱心に神様のもとに招いてくださっているかを今日のたとえ話から学びましょう。

〈聖書を読もう〉

今日、みんなで読む聖書の箇所は、マタイによる福音書20章1節〜16節です。質問に答えながら読んでいきましょう。今日の暗唱聖句は14節です。線を引いて覚えましょう。

〈質問〉

①家の主人が朝早くから出かけて行ったのは、何のためですか。

研究資料

今週のたとえ話は、天国（神の国）がどういうものかを教えるために話されたもので、直前の出来事と密接に結びついている。

19章16節からの段落で、一人の金持ちの青年が「永遠の生命を得るためには、どんなよいことをしたらいいでしょうか」と主イエスに尋ねた。主は彼に、「持ち物を売り払い、貧しい人に施して後、わたしに従ってきなさい」と答えられた。彼にはそれができなかった。それほど、富というのは人間の心を魅惑する力を持っている。主はそれを、富んでいる者が天国にはいるのは、むしろかしいものである」と明確に表現された。今日の私たちにも、同じ問題があるだろう。

そのときペテロは、「我らはいっさいを捨てて、あなたに従いました。ついては、何がいただけるでしょう」と主に質問したのである。主は、その報いが永遠の生命であることを明言されたが、「先報の者があとになる」とも教えられ、そのために本日のたとえ話をされた。この文脈の中で、本日のテキストを解説しよう。

テキスト

1 夜が明けると同時に 多分最初の労働者は六時から働き始めたのであろう。

●ぶどう園で働く人（労働者）を雇うためです。
②この主人は一日の賃金をいくらかと約束しましたか（2節）。

●一日働いて、一デナリ払うことを約束しました。デナリとは、ユダヤの国で使われていたお金の単位で、一デナリはそのころの平均的な一日分の給料でした。

③主人は、一日の中で、全部で何回市場に出かけて行きましたか（1〜6節）。

●夜が明けた朝六時ごろ（1節）、それから朝九時ごろ（3節）、昼の十二時ごろ、三時ごろ（5節）、そして、夕方の五時ごろ（6節）、と全部で五回です。ぶどう園の主人は一日に何と五回も出かけて行き、人々に自分のぶどう園で働くように声をかけたのです。いかにこの主人が、ぶどう園で働く人を見つめることに熱心だったかがわかります。

④一日の終わりを告げる時間となりました。主人は管理人に、だれから先に一日分の賃金を払うように命じましたか（8節）。

●最後に来た人々からです。夕方の五時ごろに雇われた人たちは、それぞれ一デナリずつもらいました。順番に一人ずつ受け取りましたが、みんな一デナリずつだったのです。

⑤朝早く、最初に主人に声をかけてもらい、ぶどう園で働いた人たちは、自分たちも同じように一デナリをもらった時に、どうしましたか（11〜12節）。

●心の中は不平、不満でいっぱいでした。わずか一時間しか働かなかった人たちと、自分たちのよ

2 一日一デナリ 当時の標準的な報酬。

3 九時ごろに出て行って この時期はぶどうの収穫の最盛期であり、早く取り入れないと雨期になり、品質が一気に落ちてしまうので、少しでもたくさんの人手が必要だったのだろう。

4 相当な賃銀 あえて金額は言われていない。市場で、ここは日雇いの労働者の集合場所だった。

6 五時ごろ 六時ごろに日が暮れるので、あと一時間ほどしかないのに、主人は彼らを雇った。その日のうちに収穫を終えたかったのであろう。

7 だれもわたしたちを雇ってくれませんか 暑い日中にぶどうを取り入れるのは、確かに大変な仕事だ。しかし働きたいのに仕事がなく、その日の食にありつけないかも知れないという不安の中で過すのは、もっと大変なことだった。

8 賃銀を払ってやりなさい 律法では、賃銀はその日のうちに支払うように定められていた（レビ19:13）。最後にきた人々からはじめてこの表現の中に、19:30との関係が明らかである。

9 一デナリずつもらった こんなにたくさんもらえるはずはないと思っていた彼らは、どれほど嬉しかっただろうか。それに値しない者に対して与えられるのが「福音」であり、「恵み」である。

10 もっと多くもらえるだろうと思っていた約束では一デナリだが、それ以上もらえると期待したところに彼らの大きな誤りがあった。

12 労苦と暑さを辛抱した我ら 自分たちがした「行い」の価値を認めてくれるように、主人に迫っている。行いによって義と認められようとする

うに一日中働いた人たちと同じ扱いをされたからです。彼らは我慢ができず、主人に対して文句を言いに行きました。

⑥では、主人は不公平なことをしたのでしょうか。●いいえ、朝早くからぶどう園で働いた人には、最初から一日一デナリの約束をしていました。もちろん、彼らも十分わかっていたはずですが、でも、主人がとても親切なので、ねたみの心を抱いたのです。彼らは自分たちが「一日中、暑々と暑さを辛抱した」と主張しています。せっかく主人の方から声をかけられ、ぶどう園で働く機会を与えてもらったのに、この人たちには主人に対する感謝の心がありませんでした。

⑦この家の主人とは、いったいどんな人なのでしょう。イエス様はこのたとえ話から、何を教えるようとされたと思いますか。今日の暗唱聖句に注目しましょう。

●このぶどう園の主人とは、父なる神様のことで、す。神様はぶどう園の外にいる人たちを一人残らず愛しておられます。そして、一デナリという、すばらしい神様の祝福をその人たちに与えたいと願っておられるのです。

⑧神様はすべての人が神様のもとに来ることを願っておられます。わたしたちはどのようにこの神様の願いに應えることができますか。

●まず、わたしたち自身が神様のご愛を受け入れ感謝するのです。そして、まことの神様をまだ知らない家族やお友だち、近所の人たちに神様の愛を伝えていきましょう。

ことは、人間の利己的な要求であらう。

14 この最後の者にもあなたと同様に払ってやりたいのだ 神が全人類を救おうとされるのは、まさにこの愛の動機による。ユダヤ人だけでなく異邦人をも同じように扱い、いっさいを捨てた弟子たちだけでなく、十字架上の強盗さえも同じように救いたいと願っておられるのである。確かに時間的には、この強盗のほうがペテロよりも早くパラダイスに行くことができた。

15 ねたましく思うのか 放蕩息子の兄が弟に対してもった感情と同じものだろう。忠実に信仰生活をした優等生クリスチャンほど、このようなねたみの心に陥る可能性が高い。

本来ならば、朝早く仕事をもらい、苦勞しながらでも一日元気に働き、一デナリの賃金をもらえたら、それだけで幸福なはずである。特に、主人を愛しているなら、主人の働きを手伝えたことだけでも、喜びがあらわれるだろう。

若い時に主の救いにあずかり、生涯主のために奉仕できるなら、それだけで最高の幸せではなからうか。それに加えて、永遠のいのちが与えられるとすればもったいないほどである。CSの生徒にこの事実をせひとも知らせたい。

「年をとってからクリスチャンになる」と言う人が時にいる。その人は、クリスチャン生活が窮屈で苦しいものだと思っているのだろう。そのよな人も、本当に救いがわかり、永遠のいのちの恵みがわかるなら、「もっと早くクリスチャンになっただけ良かった」と思うに違いない。

- 週 題 よい羊飼
- 聖 書 ヨハネによる福音書10・1～11
暗唱聖句 わたしはよい羊飼(い)である。よい羊飼(い)は、羊のために命を捨てる。 ヨハネ10・11
- 目 標 十字架で命を捨てて下さったイエスを、自分の羊飼いと信じて従う。

導入

三学期の学びはどうですか。学校でも元気に過ごしているでしょうか。みなさんが今年立てた目標は何ですか。その目標に向かって毎日努力していますか。今週もイエス様に助けていただきながら目標に向かって前進しましょう。

羊であるわたしたち

イエス様はある時、集まってきた群衆に「わたしはよい羊飼である。よい羊飼いは、羊のために命を捨てる」と言われました。イエス様は、ご自分と弟子たちの関係を、羊飼いと羊の関係にたとえて話されたのです。

イエス様が羊飼いであれば、その飼われる羊とはだれのことでしょうか。それはイエス様を信じてお従いするわたしたちのことです。では、なぜイエス様は、わたしたちを羊にたとえられたのでしょうか。みなさんは、羊を見たことがありますか。優し

そうな顔をして、フサフサの毛をしていて、性格もおとなしそうですね。羊は、その角も内側に巻いていて、他の動物を攻撃できるものではありません。性格もとても臆病なのです。このように、羊は弱い動物です。そしてわたしたちも羊のように、敵である悪魔に対しては弱い者なのです。わたしたちは、悪魔に対して正しい攻撃の方法を知りません。

羊が、自分だけで自分を守ることができないように、私たちも、自分の力で悪魔から自分の身を守ることはできないのです。もしわたしたちが、わたしたちを守ってくださるイエス様に助けていただかなければ、いつも悪魔に負けて、罪を犯してしまふことでしょうか。また、正しい事と悪い事の区別もよく分からなくなってしまうのです。

よい羊飼いなるイエス様

羊はとても弱い動物ですから、いつも羊を守ってくれる羊飼いが必要です。羊は、時々、羊ドロボーに連れて行かれることがあります。羊ドロボーは、上手に羊を扱うことができますが、門からではなく、柵を乗り越えて羊に近づきます。そして、自分の欲のために羊を売ったり、殺したりするのです。

しかし羊飼いは望々と羊の門から出入りします。そして一匹一匹の羊に名前をつけ、その名前を呼んで羊たちを門の外に連れ出します。同じような顔をしている羊でも、羊飼いなら一匹一匹をちゃんと見分けることができるのです。羊がどんなに

数多くても全ての羊を心から愛しているのが羊飼いです。

同じように、イエス様も、よい羊飼いとてわたしたちを養って下さいます。わたしたち一人ひとりの名前を呼んで連れ出して下さるのです。敵からもいつも守って下さいます。それは、わたしたちを心から愛して下さっているからです。

命を捨てる愛

イスラエルの王様であったダビデさんは、子どものごろたくさん羊の世話をする羊飼いでした。自分の大切にしていた羊が熊やライオンにねらわれたことがあります。ダビデさんはそのたびに、命がけでその羊を助けたのです。

よい羊飼いであるイエス様は、悪魔という敵に捕らえられ、永遠の滅びに引かれて行く私たち弱い羊を助けるために、実際に命をかけて下さいました。「羊のために命を捨てる」と言われたイエス様は本当に十字架の上で命を捨て、「父よ、彼らをおゆるし下さい」と祈りなして下さったのです。そして、わたしたちの罪をゆるし、悪魔の手から助け出して下さいました。わたしたちは命がけの愛をもって、イエス様から愛されているのです。

結び

イエス様の十字架はわたしたち一人ひとりのためなのです。わたしたちのために命を捨てて下さるほど愛して下さいているご愛に感謝して、今年一年間もイエス様に従っていきましょう。

分 級 A

〈分級活動例〉

ケンちゃん、マリちゃん、寒い日が続きますが、かぜをひいていませんか。病気になるっても、「イエス様、直してください」ってお祈りしようね。イエス様は、みんないつも一緒にいてくださいます。

クリスマスの時のことを思い出してください。赤ちゃんイエス様のところに最初に来たのは、だれでしたか。そう、羊飼いでしたね。羊飼いは、羊がモソモソしたと、「メー子ちゃん、お腹がすいたのかい?」と言って、羊の好きなおいしい草のある所に連れていきます。「メー、メー」となきだすと、「ラム君、のどが渴いたのかい?」と、泉に連れていってくれます。

それにもっと素晴らしいことは、狼が襲ってきたり、羊どろぼうがやってきたりしても、持っている杖で追い払ってくれるのです。

「狼よ、ラム君を食べようと思っても、そうはさせないぞ。エイッ、ヤー」とときには、自分だけが流すことがあっても、羊を守るために一生懸命です。それは、メー子ちゃんや、ラム君を心から愛しているからです。イエス様は、ちょうどこの羊飼いのようです。

分 級 B

――キーポイント――

よい羊飼いであるイエス様

〈導入〉

イエス様はわたしたちに永遠のいのちを与えてくださっています。でも、もうひとつ、ピンとこないかもしれませんね。そこでイエス様は、自分のことを「よい羊飼いだ」と言われました。それはどういう意味なのでしょう。

〈聖書に親しむ〉

ヨハネ10・1～11を、先生とみなで交読しましょう。これはみんなイエス様のことばです。暗唱聖句もしっかり覚えましょう。

〈羊飼いのワーク〉

質問に答えてください。自分の生活にあてはめて考えると、実行するのが難しいところがあるかもしれませんね。

〈羊と羊飼〉

羊は弱い動物です。角は内向きで敵を攻撃できません。足は短くて速く走れません。目は近眼で遠くが見えません。鋭い牙も爪もありません。だから、羊飼いがいなければすぐに狼やライオンに殺されてしまうのです。羊飼いは羊を愛し、羊を守るためにはいのちさえ捨てます。私たちは自分が羊で、イエス様が羊飼いであることを知っているでしょうか。すぐにサタンに負けてしまう弱いわたしたちですから、どんな時もイエス様から離れないで生活しましょう。



分級C

—キーポイント—

よい羊飼いなるイエス様

〈導入〉

イエス様のたとえ話は、たいへんおもしろいですね。一つ一つの話がおもしろいばかりでなく、それらの話がつながっているのです。今日学ぶ箇所は、今までのような物語ではありませんが、イエス様が自分のことを「よい羊飼いなる」と言っておられる有名なところです。なぜそう言われるのか、聖書をよく読めばわかってきます。今日の話が理解できると、来週のたとえ話はもっともつと、興味深くなりますよ。

〈聖書を読む〉

ヨハネによる福音書10章1節～11節を開いてください。順番に読んでみましょう。今日の暗唱聖句は11節です。線を引いて覚えましょう。

〈質問〉

①羊の門から囲いの中に入ってくる人はだれですか(2節)。

●囲いの中にいる羊たちの所有者である羊飼いです。ところが、囲いの中に門から入らないで、柵を乗り越えて忍び込む者がいます。それは、羊を

盗もうとする強盗なのです。羊飼いなら、堂々と門から入ることができます。

②羊飼いはどのようにして、羊の囲いから羊を連れ出しますか(3節)。

●朝になると、羊飼いは自分の飼っている羊の名前を一匹ずつ呼んで、囲いから連れ出します。そして、全部の羊が囲いの外に出ると、羊飼いは先頭に立って、群れを導くのです。

③羊たちはどのようにして、この人が自分の羊飼いだとわかるのですか(4節)。

●羊飼いの声で見分けることができます。羊たちは、だれが自分たちの飼い主なのかをちゃんと知っているのです。なぜなら、羊飼いは一匹一匹の羊を愛し、それぞれに名前をつけ、養ってくれるからです。ですから、羊は羊飼いの声を聞くと、羊飼いのもとに喜んで駆け寄って来るのです。

④イエス様は自分のことを何だと言われましたか(7、9節)。

●「わたしは羊の門である」と言われました。羊の門とは、羊がその囲いから出るときに、出入りをする門のことです。羊はそこを通過して、羊飼いが連れて行ってくれる緑豊かな牧草地にたどり着くことができます。

イエス様は、わたしたちが神様の御国に入ることができるよう、新しい道を開いてくださいました。イエス様を信じて、この門を通るなら、だれでも豊かな命の恵みにあずかることができます。

⑤イエス様は、もう一つ自分をだとして紹介さ

れました。それは何ですか(11節)。

●「わたしはよい羊飼いなる」と言われました。イエス様こそ、羊であるわたしたち一人ひとりの名前を呼んで、養い育ててくださる最高の羊飼いなのです。

⑥よい羊飼いのイエス様は、羊のために何をすると言われましたか。

●羊のために命を捨てる、と語られました。羊飼いの役目の一つは、羊の命を守ることです。おおかみが羊をねらって襲いかかって来るとき、羊飼いは命がけで羊を守るのです。

よい羊飼いのイエス様は、わたしたちを危険から守ってくださるだけでなく、わたしたちを罪と滅びから救うために、十字架の上で自分の命を投げ出してくださいました。イエス様はわたしたち一人ひとりを愛してください、進んでご自分の尊い命を与えてくださったのです。わたしたちは命がけの愛で愛されています。

⑦羊であるわたしたちは、よい羊飼いのイエス様に対してどうしたらよいのでしょうか。

●命を捨てるほどまで愛してくださいっているイエス様の愛に心から感謝しましょう。そして、イエス様にどこまでもついて行く、よい羊とならせていただきます。よい羊とは、

(1)自分の羊飼いの声を聞き分けます。

(2)羊飼いが先頭に立って導いてくれるので、羊飼いの後をついて行きます。

そのように、わたしたちもイエス様の御声を聞き、イエス様にお従いしましょう。

研究資料

課題 よい羊飼いなる

羊飼いは「世話する、牧する」という動詞が派生したもので、羊ややぎの牧者を意味する。古くはアベルが羊を飼う者となったと記されている(創世記4・2)。イスラエル民族の父となったアブラハム(同12・16)、出エジプトの大事業に召されたモーセ(出エジプト3・1)、イスラエル統一王国の王となったダビデも羊飼いであった(サムエル上16・11)。牧者としての羊に対する思いやりが神のその民に対する配慮として賛美されている(詩篇23・1～2、4)。羊飼いの主な仕事は、羊の群が十分食べるように牧草地に導き、また飲み水を与えることである。牧草のない時期は、飼料を与えて養わなければならない。また長い杖を持ち歩き、野獣を追い払った。また石投げを携えていた(サムエル上17・40)。時には犬を連れて羊をまもることもあった(ヨブ30・1)。羊は迷いやすいので、牧者に導かれねばならない動物であった(民数記27・16～17)。

旧約聖書では、神はよく羊飼いにたとえられ、民はその羊の群として描かれている(詩篇23・1、79・13、80・1、95・7、100・3)。またメシヤも羊の牧者として描かれている(イザヤ40・11)。民

の指導者は神の民の牧者と言われた(エゼキヤ23・1～4)。

新約聖書では、主イエスは御自身をよい羊飼いとされている(ヨハネ10・11)。このよい羊飼いは羊のためにいのちを捨てられた。主は命がけで迷える羊を捜し、それを救う羊飼いなる(マタイ18・12、ルカ15・4)。イエスは、飼う者のない羊のような群衆をあわれまれた(マタイ9・36、マルコ6・34)。イエスの弟子たちはその小さな群である(ルカ12・32)。羊飼いなるイエスが打たれるとき、羊は散らされる(マルコ14・27、マタイ26・31)。イエスは魂の牧者であり(1ペテロ2・25)、羊の大牧者である(ヘブル13・20)。

テキスト

1 羊の囲い 羊は夜、囲いの中に入れられ、野獣に襲われたり、盗人や強盗に盗まれないように保護された。

盗人であり、強盗である イエスを信じた人々、たとえは盲人の男を主から奪い去ろうとする祭司長やパリサイ人のことである(ヨハネ9章)。彼らの行いは、真の羊飼いなるよい羊飼いと全く正反対である。真の羊飼いは彼らを良い牧草地へと導くはずである。

門 主はご自分を二つのものにたとえておられる。門とよい羊飼いなる。これらのものは、別々のものとして区別されるべきであろう。イエスは神の救いに導く門である。もしくは「道」である。彼によつてのみ、人は豊かないのちにはいること

ができる。パリサイ人は門でもなんでもない。

3 羊は彼の声を聞く。そして彼は自分の羊の名をよんで連れ出す。朝になると、牧者たちは各自の群の羊を囲いの外に出す。中近東諸国の牧者は、羊に名をつける習慣がある。そしてそれぞれの名を呼んで連れ出す。

4 羊の先頭 牧者は囲いから引き出した羊の群れの先頭に立って、牧場に導いて行く。羊は牧者の声を知っているので、彼についていく。

6 彼らは：わからなかった。パリサイ人たちがイエスの話された比喻を正しく理解できなかった理由は、「見える」と言い張る彼らの霊的高慢であった(ヨハネ9・41)。

7 わたしは羊の門である。だれでもイエスを信じて、この門から入るなら、豊かないのちが与えられる。イエスは、信じる者たちが神に近づくための「新しい生ける道」である(ヘブル10・20、1ペテロ3・18)。人々が救われ、神を知り、いのちを与えられ、またすべての霊的需要在満たされるのは、イエスの血による贖いによってである。11 よい羊飼いなる イエスが十字架でいのちを捨てられたのは、その贖いの死によつて、羊に命を得させ、豊かに得させるためにほかならない。

よい羊飼いの特徴 よい羊飼いは、

①羊に仕える(マルコ10・45)。

②羊を養い育てる(詩篇23篇)。

③羊のために命を捨てる(11節)。

④一つの群をつくる(16節)。

●週題 まいこの羊
●聖書 ルカによる福音書15・1-7
●暗唱聖句 わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけたから。
●目標 わたしたち一人ひとりをも捜し出して下さる主イエスの愛を感謝する者となる。

導入

みなさんの中で、迷子になったことのある人はいますか。自分がどこにいるのか、どこに行ったらいいのか分からないというのは、とても心細く、こわいものですね。

イエス様のもとに集まった人たち

イエス様のもとにはいつでも、イエス様のお話を聞きたいと思う人たちがたくさん集まってきました。子どもから大人や、年配の人たち、そして、取税人や罪人と呼ばれる人たちなど、実に多くの人々がいました。

その中で、パリサイ人や律法学者たちは、取税人や罪人たちは神に捨てられてあたりまえだと思っていました。ですから、イエス様が、彼らを自分たちと同じように扱われるのを見て、おもしろ

く思っていました。「この人は罪人たちを受け入れて、一緒に食事をしている」と言って、イエス様の愚口さ言い始めたのです。

そこで、イエス様は、どんなに人に嫌われている人であっても神様から愛されていることを教えるために、迷子の羊の話を読みました。

いなくなった一匹

ユダヤの国イスラエルでは、今でも羊飼いたちが一人でたくさん羊をひき連れて草を食わせているのを見かけますが、イエス様の時代から変わっていない風景です。

イエス様が話されたたとえ話とはこうです。ある人が百匹の羊を飼っていました。この羊飼いは、百匹もの羊を飼っていても、一匹一匹の羊をよく知っていて、名前を付けて覚えていました。一匹一匹をどれ程大切にしていたことでしょう。

実は、神様も同じなのです。神様はどんなにたくさんの方がこの世界にいてもわたしたちを知っておられ、愛して下さるのです。

ある時、一匹の羊が群れから離れて迷子になってしまいました。早速気づいた羊飼いは、他の九十九匹の羊を野原に残しておいて、捜しに出かけました。

イスラエルでは羊飼いたちの多くは、町から離れた岩や山の多い所にある放牧地に羊たちを連れて来ます。ですから、いなくなった羊を捜そうと思うと大変です。山を登ったり、がけを下りたりしなければなりません。羊飼いは、そんな大変な目にあいながら、一匹の羊を捜し歩くのです。そして、ようやく捜し出すと、喜んでその羊を自分の肩に乗せて帰ってきます。友人たちを集めて、「一緒に喜んでください」と喜びを分かち合います。

いなくなった羊が見つかることは町中の喜びとなるのです。

結び

迷子の羊とはわたしたち一人ひとりのことです。イエス様はわたしたちを見つけて出して神の国に導くために、この世界に来て下さいました。それ程まで愛して下さいているイエス様の愛に感謝して、神様のもとに立ち返りましょう。

分級 A

〈さんび〉

日基教団『ごともさんびか』72番、児童福音伝道協会『ふくいん子どもさんびか』5番など、きょうの主題を取り扱った賛美歌を利用してください。

〈分級活動例〉

マリちゃん、お母さんと一緒にお買い物に行つたとき、迷子になったことありませんか。そう、あるの。どんな気持ちだった？ でも、お母さんが見つけてくれたでしょう。その時はどんな気持ちになったかな？

きょうは、イエス様がしてくださった、迷子になった羊のメー子ちゃんのお話です。

「おーい、メー子。どこにいるんだーい。」羊飼いのおじさんの大きな声が、山にこだましています。百匹いるはずの羊なのに、いくら数えても九十九匹しかいません。よく見ると、あのいたずらっ子のメー子がいなくなっていたのです。

こちらはメー子。蝶々をおいかけて回していたらしらない間に、みんなから離れてしまいました。「メー、メー」とないても、だれも返事をしてくれません。それに帰り道を探していたとき、崖から落ちて、動けなくなってしまうのです。あたりはだんだん暗くなってきた、遠くからは「ウオー」

という狼の叫び声が聞こえてきます。

その時、「おーい、メー子じゃないか」という声が崖の上から聞こえてきました。そうです、羊飼いのおじさんの声です。メー子は、嬉しくて、嬉しくてたまりませんでした。羊飼いのおじさんも大喜びでメー子を肩にかついで連れ帰り、みんなでお祝いをしたのです。

ケンちゃんは、イエス様の所から離れていったことないかな。「教会学校へ行くよりテレビを見るほうがおもしろい」って、思ったことがあるんじゃない？ でもイエス様は、ケンちゃんのこと、絶対忘れられません。困ったときでも、イエス様のほうから助けにきてくださるんですよ。すくすく嬉しいですね。

〈ワーク〉

羊飼いのおじさんは、メー子ちゃんの所まで行けるかな。見つけられたら、メー子ちゃんを羊飼いの肩にのせてあげてください。

分級 B

〈キーポイント〉

捜して下さるイエス様

〈導入〉

「もう教会に行くのをやめよう」と思ったこと

はありませんか。「ポケモンのテレビの方がおもしろい。」「友だちとゲームやサッカーをするのがすつ」とい。でもイエス様は、自分から離れていった羊さえも捜し出してく下さる方です。

〈聖書に親しむ〉

ルカ15・1-7を、ナレーター、パリサイ人、イエス様、イエス様の話の中の羊飼いのいう役になって読んでください。暗唱聖句にも線をひき、繰り返して読んでみましょう。

〈まいこの羊ワーク〉

今月のワークは、少しむずかしいかな。でも、読んだ聖書のみことばを、毎日の生活に生かすために、しっかり考えてください。

〈イエス様は捜しておられる〉

前には教会学校に来ていたのに、今は来なくなっているお友だちがいるね。もしかして、みんなもそうなるかも知れません。教会学校より楽しいことは、みんなの回りにいっぱいあるでしょう。でも、それは決して「永遠のいのち」を与えてくれるものではないのです。一生懸命に勉強している学校にいても、スポーツの有名選手になっても、天国に行けないなら大変です。イエス様は、そんな人を捜しておられます。イエス様のところに帰ることが、一番の幸せなんですよ。

分級C

〈キーポイント〉

捜し歩く羊飼

〈導入〉

今月は、イエス様のたとえ話を学んできました。みなさんは、これまで聞いた中で、どのお話が一番心に残りましたか。今日は、聖書の中でも有名な、群れから迷い出た一匹の羊と羊飼いの話を学びましょう。

△聖書を読もう▽

ルカによる福音書15章1節〜7節を順番に読んでみましょう。今日の暗唱聖句は6節です。線を引いてしっかりと覚えましょう。

△質問▽

- ①イエス様のもとに、お話を聞きに集まった人々はどんな人たちでしたか。
- 取税人や罪人といわれ、人々からきらわれていた人たちでした。でも、イエス様は彼らが自分たちのところに来るのを喜ばれました。
- ②それを見た律法学者やパリサイ人たちは、どんな思いを持ったでしょうか(2節)。
- 彼らはぶつぶつつぶやいて、「罪人たちを迎えて一緒に食事をしている」と非難しました。取税人や罪人のことを悪く思っただけか、イエス様のことで彼らは悪く思っただけです。
- イエス様はどのように非難する人々の声を聞か

れ、あるたとえ話を話されました。それは、百匹の羊を飼っている羊飼いの話でした。

③百匹のうちの一匹が、突然いなくなりました。迷子になったのです。羊飼いはどうするでしょうか(4節)。

●残りの九十九匹の羊を他の羊飼いに委ねて野原に残し、そのいなくなった迷子の羊を捜しに出かけます。たった一匹でも、羊飼いにってはかけがえない大切な羊だからです。

それに、そのまま放っておいたら、か弱い羊のことですから、狼や他の動物におそわれて食べられてしまうでしょう。崖から落ちて死んでしまうこともあるかもしれません。ですから、羊飼いはその羊を見つづけるまでは、山や野原を越えて、時には危険な崖までも出かけて行って、一生けん命捜し歩くのです。

④ようやく捜していた羊を見つづけ出しました。羊飼いはどのようにして帰ってきますか。

●大喜びでその羊を自分の両肩に乗せます。そして、しっかりとその腕で羊を支えて連れて帰るのです。

⑤羊飼いの喜びの大きさは、何によって知ることができますか(6節)。

●迷子の羊を見つけた羊飼いは、うれしくてうれしくてたまりません。喜びを一人でかみしめていることができません。友人や近所の人たちを呼んできて、「わたしと一緒に喜んでください」と喜びを分かち合おうのです。どんなに羊飼いが喜んでいても、実は、神様のおられる天でも、同じように大きな喜びがわき上がる時があるのです。

な喜びがわき上がる時があるのです。

⑥どのような時に、天で大きな喜びがあらわれるのでしょうか(7節)。

●罪人が一人でも悔い改める時です。悔い改めるとは、神様の方に方向転換することです。きよい神様の前に自分が罪人であることを認める人を神様は喜ばれ、受け入れられます。

逆に、律法学者やパリサイ人たちのように、自分を正しいと思い、他の人を見下げる態度を取る人たちを、神様は悲しく思われます。

⑦イエス様が話された、羊飼いと迷子の羊のことです。そして、いなくなった一匹の羊とはだれのことでしょうか。

●もちろん羊飼いはイエス様です。「わたしはよい羊飼いです」とイエス様は言われましたよね。よい羊飼いのイエス様は、神様から離れて迷子になっているわたし一人ひとりを捜し出してくださる方です。そして、わたしたちがイエス様を通して父なる神様のもとに立ち返るなら、大きな喜びが天にあらわれるのです。

また、羊が羊飼いのもとから迷子になると、いろいろな危険が待っているように、わたしたちも羊飼いなイエス様から離れるなら、どんなに怖いことが待っているかわかりません。でも、イエス様と一緒に歩むことは怖くないのです。イエス様と共に歩みましょう。

△祈り▽

わたしたち一人ひとりを捜し出してください。イエス様のご愛に感謝します。今週もイエス様と共に過ごせるようにお守りください。

研究資料

課題 まいこの羊

まいこの羊のたとえが語られた背景

2節に「この人は罪人たちを迎えて一緒に食事をしている」とあるので、イエスの家における食事のように見える。しかし、その時に食事をしていただとは必ずしも言えない。イエスはよくそんなことをしておられたという意味であろう。マタイ9・10・13で、パリサイ人は弟子たちに対して、なぜイエスは取税人や罪人と一緒に食事をするのかと尋ねている。取税人や罪人は、パリサイ人や律法学者から、「アム・ハアレツ」(土民)といつて軽蔑されていた階級の人々である。取税人というのは、選民ユダヤ人から徴税して、異邦人であるローマ皇帝や、皇帝によって任ぜられた領主にそれを渡す仕事をしていたので、まさに裏切り者、売国奴の類であった。また徴税は請け負いであったので、規定以上のものを徴収して差額を着服していたので、国民からは大変嫌われ、パリサイ人からは汚れた者として人間扱いをされなかった。また罪人というのは、特別な罪を犯した者という意味ではなく、パリサイ人たちの一種の術語である。主として遊女などを指したが、広い意味では取税人、異邦人、その他モーセの律法をパリサイ

人が考えるように厳格に守らない人の総称であった。彼らは、取税人や罪人などとは共に食事しないのはもちろんのこと、交際せず、口もきかなかった。パリサイ人の質問に対して、イエスは、「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である。わたしはきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである」(マタイ9・12・13)と答えている。

1・2節は、まよえる羊以下の三つのたとえ話の背景であって、神は、罪人や取税人のような人でもいなくても、あるいはいない方がよいような人間をも、非常な愛と熱心をもって捜し求めておられること、まだ見出し出した時には、非常に大きな喜びをお持ちになることの序言となっている。

テキスト

2 パリサイ人 サドカイ派、エッセネ派と共にユダヤ人の三大党派の一つで最も厳格な派(使徒26・5)。モーセの律法の遵奉者だけに神の恩恵があるという信仰に基づいて、厳格に律法を守ることを要求した。モーセの律法を解釈するだけでなく、律法に記述されていない父祖からの慣例も付加した。後にイエスが指摘しておられるように、形式的自己義的律法の遵守によって、神との誠実なあわれみの関係を忘れた。

律法学者 旧約時代は書記と呼ばれ、律法その他の聖書の各書を筆写する者で、エズラはその代表的人物だった。その後、律法を解釈することへと働きが転化したと考えられている。律法の解釈、

適用、教授は、法廷での判決を与える資格や政治的地位をもたらし、自ら律法の専門家、完成された人物であると思いがちになった。

4 羊 旧約では、神が羊飼いでイスラエルの民が羊(詩篇23篇、エレミヤ23章、エゼキエル34章、新約ではキリストが羊飼いで信者が羊である(ヨハネ10章)。しかし迷い出て失われた罪人をも表すことがある(イザヤ53・6)。

いなくなった一匹 牧者は一匹の名まで覚えて見つけるまで「これは第一と第二のたとえのポイントである。すなわち一人ひとりの魂に対する個別的な特別な神の愛である」(ウェスレアン聖書注解)。

7 悔い改める(徹底的に心と生活の変化した)一人の罪人についての天における喜びは、羊を見出した羊飼いの喜びによって表されている。あまりの嬉しさに一人ですべておれないうえ、ちやうど悲しみに耐えられず人にうつたえる人のように、彼は自分の喜びを人に分けようとするのである。神の愛は、そむいた一人の罪人を愛し、必ず自分の懐に引き戻さずにはおかない熱心な愛。そのあとを追いかける絶対無限の愛である。もし、自分では良い人生だったと思って満足している人が、実は空虚な人生でしかなかったということを知らされたら、どれほどみじめな思いがするだろう。悔改めを必要としない九十九の正しい人とは、そのような人々である。この場合は、パリサイ人や律法学者のことであった。

●週 題 ほつとう息子

●聖 書 ルカによる福音書15・11～24

●暗唱聖句 このおすこが死んでいたのでに生き

●返り、いなくなっていたのに見つ

●かったのだから。 ルカ15・24

●目 標 罪人を迎えてくださる神に立

ち返るように導く。

導入

みなさんは、なくなってしまうた物が見つかって、喜びで心がいっぱいになったことがありませんか。今日は、イエス様のたとえ話から、罪人を迎えてくださる神様の愛を学びましょう。

弟息子の計画

ある人に二人の息子がいました。上の息子は、お父さんのもとでまじめに働いていましたが、下の息子は、こんな田舎で一生を過ごすよりも、町へ出て一旗揚げたいと思っていました。

ある時、弟の方がお父さんの所にやってきてこう言いました。「お父さん、あなたの財産のうちでわたしがいたでく分をください。それはお父さんが亡くなってから渡すべきものでしたが、あまりしつこくねだるので、お父さんは、二人の息子に財産を分けてやりました。

弟は、お金を手にするとすぐに家を出て町へ行きました。財産を元手に商売をしてお金をもうけようと計画していたのです。ところが、にぎやかな町には誘惑がたくさんあります。彼は、悪い友

だちができて、お酒や遊びにお金を使うようになりまして。たくさんあったお金は、たちまちになくなってしまったのです。

●本心に立ち返って

ちょうどそのころ、ひどいききが起り、彼は食ふることも困り始めました。友だちも、お金のない彼には冷たく、だれも助けてくれません。やっとあるお金持ちにお願いして、豚の世話係として置いてもらうことができました。しかし、あまりにもお腹がすくので、豚のえさでもいいから分けてほしいと思うほどでした。

そのとき、彼は気づきました。「お父さんの家には、たくさんのお金持ちがいて、その人たちがさえ、ちゃんとした食事をして満腹しているのに、息子である僕は、こんな所で飢えて死のうとしている。どこで間違ったのだろう。そうだ、ぼくがこんな所にいるのはお父さんのものを離れたからだ。」彼は本心に立ち返りました。そして、決心したので、今からでも遅くはない。お父さんのところに帰ろう。そして素直にあやまって、『もう息子の資格はありませんから、使用人の一人として家に置いてください』と言おう。彼は、すぐに立ち上がりました。

●喜んで迎える父

一方、お父さんのほうは、息子が家を出てから、毎日のように、息子の帰ってくるのを待っていました。息子は楽しくお金を使って遊んでいる時は、恐らくお父さんのことは頭になかったことでしょう。でも、お父さんはちがいました。息子のこ

分 級 A

＜分級活動例＞

先週はメー子ちゃん羊のお話だったけど、今週は男の子の話です。これもイエス様が話してくれただとえ話だよ。この子の名前、聖書には書いてないけど、シャルム君としようかな。

シャルム君は、「もう自分はおとなだ」って思っていました。でも、お父さんはいつまでも自分を子ども扱いします。そこである日、お父さんに言いました。

「お父さん、ぼくはもうおとなです。町に行つて自分で仕事したいんです。お父さんが死んだときにぼくにしてくれることになっているお金をください。ぼくはそれで商売をして、大金持ちになつて帰ってきます。」お父さんは心配でしたが、シャルム君が一生けん命に頼むので、「それじゃ、気をつけて行ってきなさい」と、たくさんのお金をもたせて、送り出しました。

「よし、これからがんばろう」と思ったシャルム君ですが、「でもきょうはまず、こちそうを食べた力をつけよう」と、その日は豪華なホテルに泊まりました。ところが、次の日も、次の日も、あまり働かなくなりません。そうする間に、お金がなくなってしまうしました。ちよつとその頃、雨が降らない日が続き、お米も野菜もできなくな

たのです。シャルム君は、食ふる物がなくて、ガリガリにやせてしまいました。

ケンちゃん、どうしたら良いかな。そう。お父さんの所に帰ればいいんだね。シャルム君もそれに気づきました。けれども、「お父さんはきつと怒るだろうな」と、心配でした。

ところが、家の近くまで来ると、何とお父さんがこつちに走ってくるではありませんか。そしてシャルム君を抱きしめて、「よく帰ってきた、よく帰ってきた」と大喜びなのです。シャルム君は「お父さんは、こんなぼくでも、本当に愛してくれているんだな」と、涙がでてきました。

きょうのお話で大切なのは、シャルム君がお父さんのところに帰ろうと決心したこと。マリちゃんは、「神様なんか、大嫌い」って思ったこと。ありませんか。でも神様は、マリちゃんが大好きです。だから、どんな時でも神様のところに帰ろうね。

＜ワーク＞

シャルム君は、どんなところを通過って、お父さんの家に帰ってきたのでしょうか。

分 級 B

＜キーポイント＞

父のもとへ！

を片時も忘れることなく、「今日帰るだろう」とずっと待っていたのです。

ある日のこと。お父さんがふと外へ出てみると、一人の男の人が遠くからこちらに向かって歩いて来るのが見えます。姿や服などは変わり果てていましたが、お父さんにはそれが自分の息子だとすぐにわかりました。急いで走り寄って彼を抱きかかえ、何度も口づけして喜びました。息子は、「お父さん、ごめんない。ぼくは、もう息子の資格はありません。」とおつとしているのに、お父さんは最後まで聞こうとしません。すぐに使用人たちに言いつけました。

「さあ、早く、一番よい着物を出してこの子に着せなさい。指輪をはめさせ、靴をはかせなさい。そして、よく肥えた子牛を料理して、祝いの会を開こう。いなくなっていた息子が帰ってきたのだ。死んだも同然のこの子が生き返ってきたのだから。」それから、盛大なお祝い会が始まったのです。

何と愛に満ちたお父さんでしょうか。実は、この息子の帰りを待っていたお父さんとは、父なる神様のことです。そして、息子とは神様のもとから離れた人間の姿なのです。神様は、わたしたちがどのような罪を犯しても、この息子のようにな罪を認め、神様のもとに立ち帰るなら、神様の方から近づいて、罪をゆるし受け入れて下さるのです。

結び

神様は今もわたしたちが神様のもとに帰るのを待っていて下さっています。わたしたちを愛し、受け入れてくださる神様に、立ち返りましょう。

＜導入＞

イエス様はわたしたちをさがし出して下さる救い主です。こんなイエス様に見い出されたわたしたちはなんて幸せなんでしょう。きょうはイエス様が教えてくださった父なる神様の深い、広い、大きい愛のおはなします。

＜聖書に親しむ＞

ルカ15・11～24です。

きょうはゆつくり一節ずつ順番に読みます。暗唱聖句にはいつもように線を引いて覚えよう。

＜ほんしんワークをします＞

「ほんしん・本心」ってどんな心かしら。話しあってみよう。

ワークは——お父さんのもとをばなれたむすこ、お父さんのもとに帰ってきたむすこ、それぞれにふさわしいものを線で結びましょう。

＜父のもとへ＞

「ハッと気がついた」むすこは、自分がおとうさんからはなれて、神様にもおとうさんにも罪を犯していたことがわかったのです。「お父さんのところへ帰ろう。」そう、まちがっている自分かわかる心が「ほんしん」ですね。神様からはなれるとみじめ、そしてやがて死。はやく本心に立ち帰って、罪をおわびして、さあ、父のもとへ！父なる神様は暖かく迎えてくださいます。

● 週 題 バルテマイ

● 聖 書 ルカによる福音書18・35〜43

● 暗唱聖句 主よ、見えるようになることです。

● ルカ18・41

● 目 標 主イエスに心の目を開いてもらい、自分の姿と主の姿とが見えるようになる。

導入

イエス様が公に伝道をされたのはわずか三年半でしたが、その間に数多くの人々がイエス様に出会いました。イエス様を神の子、救い主と信じた人たちはみな、その人生が変えられたのです。

今日登場する人もその中の一人です。

エリコの町はずれで

エルサレムの近くにエリコという大きな町がありました。その町はずれに、バルテマイさんという目の見えない人が住んでいました。彼は、毎日、仕事もなく、人が歩くたびにほりかたつような道端にすわって、物乞いをしながら暮らしていました。それはそれは、辛い毎日の生活でした。

その日も、バルテマイさんはいつものように、道端に出て、通り行く人々に、わずかの施しを求めてすわっていました。すると、たくさんの人が

一団になって通りかかります。「あれ、一体何があるのだろ。」そう思ったバルテマイさんは、そばにいた人に尋ねました。すると、「ナザレのイエス様がお通りなのだよ」と教えてくれたではありませんか。

せんか。

「えっ、ナザレのイエス様だって、病人をいやしたり、悪霊を追い出したり、歩けない人を歩けるようにしたという、あのイエス様が通られるのか。」バルテマイさんは、もうじつとしておれなくなりしました。

呼び続けたバルテマイ

彼は立ち上がり、ありったけの声を出して叫び出しました。「ダビデの子イエス様、私をあわれんでください。」「ダビデの子イエス様」とは、わかりやすく言えば、「救い主イエス様」という意味です。彼はイエス様こそ救い主であり、自分の目もきつと治して下さると信じたのです。

しかし、まわりの人々はバルテマイさんをしかりつけました。「うるさい、黙れ。」「先生はお忙しいんだ。」イエス様と一緒にいた人たちもあわてて彼を黙らせようとします。

ところが、バルテマイさんは、やめるところか、ますます激しく叫び続けました。「ダビデの子イエス様、わたしをあわれんでください。」彼は、イエス様から恵みをいただくのは、この時しかないと思いました。バルテマイさんは、まわりの人たちからなんと叫び続けても決してあきらめないで、イエス様に叫び続けたのです。

信仰による救い

このバルテマイさんの叫びは、イエス様の耳にも入りました。イエス様は、すぐに、彼をみそばに連れてくるようにお命じになりました。彼が跳び上がるようにして、イエス様のみそばに行った

のは言うまでもありませんね。

大喜びのバルテマイさんにイエス様は、「わたしに何をしてほしいのか」とお尋ねになりました。彼はすかさず答えました。「主よ、見えるようになることです。」バルテマイさんは、イエス様にしていたきたいことをはっきりと言いました。

イエス様は、「見えるようになるなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです」と言われ、彼の信仰にこたえられました。

結び

すると、そのときまで全く見えなかった目が開かれ、見えるようになりました。それだけではありません。バルテマイさんはイエス様に従う人につくり変えられたのです。バルテマイさんが信仰をもってイエス様に求め続けたので、イエス様はその信仰を喜ばれました。

結び

イエス様は、わたしたちの目も開いてくださるお方です。わたしたちは、体の目はあいているかもしれないが、罪をもったままでは、心の目が閉ざされているのと同じなのです。

イエス様は、わたしたちの罪のために十字架にかかって死んでくださいました。わたしたちが罪を悔い改め、イエス様の十字架を信じるなら、どんな罪でもゆるされ、わたしたちの心の目が開かれるのです。

わたしたちは心の目が開かれているでしょうか。見えないことをすなおに認め、「主よ、わたしの心の目を開いてください」と、イエス様のもとに行きましょ。

分級 A

〈分級活動例〉

きょうは、はじめに少し遊ぼうね。ケンちゃんに目かくししてもらって、向こうに座っているお友だちのマリちゃんのところまで行ってもらいます。(教師は、目かくしをしてあげる前にケンちゃんに方向を指示してあげて、目かくしをする。目をかくしをしたケンちゃんをその場で3回位、体を回してあげてから出発する。マリちゃんは、手を叩いたり、声を出してもよい。短い距離でも目かくしされて歩くことは難しいと体験できればよい。)目が見えないと困ってしまうことがいっぱいあるね。きょうは、目の見えなかったバルテマイさんのお話です。

バルテマイさんは生まれた時から目が悪くて何も見ることができませんでした。そのため、「残念だな」と思ったことが、悲しかったことか、悔しかったことかいろいろありました。バルテマイさんは、目が見えるってどんなことだろうって、いつも考えていました。

でも、バルテマイさんの町にイエス様が来られた時、バルテマイさんは、「ダビデの子、イエス様、わたしをあわれんでください、目を見えるようにしてください。」とおねがいました。

分級 B

〈キーポイント〉

見えるようになったよ。

〈導入〉

救い主イエス様のご生涯の学びも、もうあと少しになりました。これから三回、十字架にかかれる直前のイエス様に出会った人々のことを学びます。三人とも、イエス様にすばらしいことをしてもらいました。どんなことだったでしょうか。

〈聖書に親しむ〉

ルカ18・35〜43を、ナレーター、イエス様、バルテマイと、三つの役になって読んでください。暗唱聖句も忘れずにね。この目の見えなかった人の名前は、マルコ10・46に書かれています。

〈バルテマイ・ワークをしましょう〉

目が開かれて、「見えるようになったよ」と喜んだバルテマイ。さてわたしの心の目は？ 見えなバルテマイは、そして、見えるようになったバルテマイは、わたしのどんな心をあらわしているのかな？ 質問に答えてください。

〈心の目をひらいて〉

罪の心、信じない心はちやうど目が見えないのと同じ。心の目をひらいてくださるのはイエス様です。イエス様のみことはを読み、お祈りをして、心の目のパッチリあいた子どもにしてくださいましょ。

〈きょうのおいのり〉

どうぞわたしの心の目をひらいてください。み名により、アーメン。

分級C

—キーポイント—

目が開かれる

〈導入〉

イエス様のご生涯が書かれてある福音書には、イエス様にお会いして、その生涯が全く新しく変えられた人たちがたくさん描かれています。今日から、イエス様に出会った人たちがどのように変えられていったのかを一緒に学んでいきましょう。

△聖書を読もう△

今日の聖書の箇所を開きましょう。ルカによる福音書18章35節〜43節です。暗唱聖句は41節です。線を引いて覚えましょう。

△質問△

- ①ここにひとりの盲人が出てきますが、この人の名前は？（マルコ10・46）
- バルテマイです。バルテマイとは「悲しみの子」という意味です。バルテマイさんはその名前のとおり、とても悲しく辛い毎日を送っていました。自分の手で働くことができず物こいをしていました。
- イエス様がエリコに近づかれたときも道ばたにすわり、人々から施しを求めていました。
- ②イエス様がバルテマイさんの前を通られた時、彼は何か叫びましたか（38節）。
- 声をはりあげて「ダビデの子イエスよ、わたし

をあわれんでください」と叫びました。

バルテマイさんは「ナザレのイエスがお通りだ」と聞かされた時、「救い主イエス様」と呼びかけたのです。彼はイエス様こそただひとりの救い主であり、自分が抱えている問題を必ず解決してくださるにちがいない、と信じていました。

◎先頭に立つ人々は、バルテマイさんをしかってなんとか黙らせようとした。その言葉を聞いて彼は黙ってしまいました。

●いいえ。それどころか、もっと激しく叫びつづけました。バルテマイさんは、今のこの時をのがしたら、自分の目が見えるようになることはおそらく一生の内にもうないだろうと確信しました。ですから、彼はまわりの人たちからなんと言われようともあきらめることなく叫びつづけたのです。イエス様は言われました。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう」（ルカ11・9）。バルテマイさんが信じて求めつづけた結果、その声がイエス様のもとに届きました。

④バルテマイさんの叫びを聞かれたイエス様はどうされましたか（40節）。

●立ちどまって、バルテマイさんを連れて来るようにとお命じになりました。バルテマイさんが必死になって叫び続けたその熱心さをイエス様はこらんなったのです。

◎イエス様がバルテマイさんに「わたしに何をしてほしいのか」とたずねられたとき、バルテマイさんの答えは言葉から何がわかりますか（41節）。

●バルテマイさんはイエス様のことを「主よ」と呼んでいます。イエス様こそ神の子だと彼は信じていたのです。また、バルテマイさんは、イエス様に何を求めたら良いかを知っていました。お医

者さんに行つて、「どこが痛いのかよくわかりませんが、治してください」なんて言う人はいませんか。バルテマイさんは、「目が見えるようになりたいのです」とはっきりと告げました。イエス様なら治していただく力があると信じていたからです。

◎バルテマイさんが「主よ、見えるようになることです」と答えたとき、イエス様は何と言われましたか（42節）。

●「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った」と言われました。

⑦イエス様のお声を聞いたバルテマイさんに、どのような事が起こりましたか（43節）。

●たちまち目が見えるようになりました。バルテマイさんは喜びと感謝の心にあふれ、神様をあがめながらイエス様に従って行きました。

◎わたしたちの心の目を開くためには、どうしたらよいのでしょうか。

●バルテマイさんのようにイエス様に申し上げることです。「主よ、見えるようになりたいのです」と。なぜなら、イエス様だけがすべての罪から私たちをきよめてくださり、目を開いてくださるお方だからです。

わたしたちの心の目はどうでしょうか。いつもパツパツとあいていますか。それとも、罪が入っているために、くもったり汚れたりしていて、見えにくくなっていますか。目にゴミが少しでも入ったらとても痛いですね。すぐに水で洗います。それと同じように、わたしたちのために十字架にかかり流してくださったイエス様の血によって、汚れたところをきよめていただきましょう。そして、バルテマイさんのようにイエス様に従って行きましょう。

研究資料

週題 バルテマイ

共観福音書に並行記事がある（マタイ20・29〜34、マルコ10・46〜52）。バルテマイとの名を明記しているのはマルコだけである。マタイでは二人の盲人となっている。

バルテマイの目が見えるようになるためには、次のような四つの段階が必要だった。

①彼は人々に、「これはいったい何事ですか」と尋ねた（ルカ18・36）。

②彼はイエスに、「私をあわれんでください」と叫び始めた（マルコ10・47）。

③彼を黙らせようと、大勢の人々がだしなめたが、彼はますます、「私をあわれんでください」と叫び立てた（ルカ18・39）。

④彼はイエスに、「主よ。この目をあけていただきたいのです」と願った（マタイ20・33）。

イエスは、この貧しい盲人の嘆願に耳を傾け、快く聞き入れられた。

テキスト

ユダヤ伝道のなかでも、とくにペレヤ伝道と呼ばれる部分である（9・51〜19・28）。ペレヤとは、ヨルダン川の東側の、いわゆるトランスヨルダンの地域である。

この出来事は、イエスのエルサレム上りの途中に起こった（31節）。ユダヤ伝道開始後、三度目の上京である（二度目は13・22、二度目は17・11）。

35 イエスがエリコに近づかれたとき、エリコは、エルサレムの東北二十キロに位置しており、「しゅろの町」として知られている。地中海面下二五〇メートルにあつて、やし、バルサム香木、いちじく桑などが育つ、非常に美しい町である。マタイとマルコは、盲人のいやしが行われたのは、イエスがエリコを出て行かれたときとしている。これは、この町が、カナン侵入時の跡である旧エリコと、この頃に建てられたヘロデの町である新エリコとに分かれていたことによるものと考えられる。イエスは旧エリコを通過されたあと、バルテマイをいやすれ、新エリコに入られてザアカイに会われたのであろう。

38 ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんで下さい。かつて神はダビデに、ダビデの身から出る子の繁栄を約束された（サムエル下7・12〜16）。これは、直接的にはソロモンのことであるが、預言的にはダビデのすえから生まれる救い主のことであった。だから、イエスに好意的な人々は、イエスが約束された救い主と期待して、ダビデの子と呼んだのである。

39 先頭に立つ人々が彼をしかって おそらく弟子たちであつたと思われる。彼らがしかつた理由は、①自分たちの先生が、重大な目的のためにエルサレムに行こうとしておられるのに（彼らにははっきりとはわかっていない—34節）、その大切な

旅を妨害することは許されないと考えたから。または、②長い旅で疲れておられる先生の身を心配したから、ということが考えられる。

40 そこでイエスは立ちどまって 彼の激しい叫び声がまったく耳に入らなかつたと考えるのは不自然である。イエスは初めから聞こえていたが、わざと無視して通り過ぎようとしたに違いない。それは、彼の求めがどれだけ真剣なものかを見るためであつた。イエスは時々こういうテストを行われた（マタイ15・23）。

41 わたしに何をしてほしいのか 彼の真剣かつ執拗な求めを知ったイエスは、今度は彼が何を要求しているか、自分で明確に認識しているかを確かめるために問われた。これに対して彼は、自分が求めているのは、金銭でもなく、一片のパンでもなく、目が開けられることだと、自分の口ではっきり表明した。

42 あなたの信仰があなたを救った 彼の答えの中には、ダビデの子、救い主イエスは、自分の目を開ける力を持っておられると確信する信仰があつた。ここに、救いの原則がある。すなわち、①イエスに求めること、②イエスを信じることである。

43 そして神をあがめながらイエスに従って行った 彼は、目が開かれて、帰って行ったのではなく、イエスに従って行ったのである。「従って行った」は未完形時制であり、従い続けて行ったことを表す。彼は、肉体の目が開かれただけでなく、魂の目も開かれたのである。

●週題 ザアカイ

●聖書 ルカによる福音書19・1～10

●暗唱聖句 人の子がきたのは、失われたものを

●ルカ19・10

●目標 罪人の友である主イエスの救いを受けて感謝する者となる。

導入

みなさんは学校で、みんなから嫌われている人を一緒にあって避けたり、ばかにしたりしたことはありませんか。逆に、お友だちからのけ者にされたことのある人はいませんか。イエス様の時代にも人々から嫌われていた人がいました。でも、イエス様は、どんな人でも心から愛され、その人の友となりました。今日のお話に出てくる人にもイエス様の方から近づいて下さったのです。

ひとりぼっちのザアカイ

その人の名前はザアカイ。ザアカイさんはエリコの町ではとても有名な人でした。でも立派なことをして有名になったではありません。ザアカイさんは取税人といって、ユダヤの人々がローマの国に納める税金を集める仕事をしていました。しかもその親分だったのです。ザアカイさんは、いつも人々から無理矢理に、しかも余計に集めていました。そしてその中の多い方を自分のものにしていました。ですからお金は次々とたまります。欲しい物はすぐに買えましたし、ごちそうも

食べられたでしょう。ところが、町の人たちはザアカイさんを見て知らん顔です。町の人たちはいつもザアカイさんの悪口を言っていました。ですから、声をかけても返事すらしてくれませんでした。ザアカイさんの心はさびしきでいっぱいでした。いつもひとりぼっちだったからです。ザアカイさんの気持ちを分かってくれる人はだれもいませんでした。

イエス様との出会い

そんなある日、イエス様がエリコの町に來られました。大勢の人たちがイエス様のもとに集まってきました。イエス様のうわさを聞いていたザアカイさんも、ひと目イエス様を見てみたいと思っていました。外に飛び出して行きました。ところが、イエス様のまわりは、すでにたくさんの人でいっぱいでした。背の低いザアカイさんとはとても見ることができません。しかもみんなザアカイさんには意地悪をして通せんぼするのです。

なんとしてでもイエス様を見たいザアカイさんはそばにあったいちじく桑の木によじ登りました。ようやく木の上からイエス様を見ることができると思うとザアカイさんはうれしくなりました。しばらくするとイエス様が來られました。その時です。実に驚くべきことが起こりました。イエス様が木の下で足を止めて、上を見あげて言われたのです。

「ザアカイよ、急いでおりてきなさい。今日あなたの家に泊まることにしているから」

ザアカイさんはとてもびっくりしました。イエス様にお会いするのはこの時が初めてでした。それなのにイエス様は彼の名前を呼ばれたのです。

しかも、今までザアカイさんの家に遊びに来てくれる人などだれもいなかったのに、イエス様が泊まってくたさる、と言うのですから。

生まれ変わったザアカイ

ザアカイさんは、イエス様の招きにお応えして、大急ぎで木からおりました。そして喜んでイエス様と一行を家に迎え入れたのです。すばらしいことそうを出しておもてなしをし、イエス様のお話を聞いているうちに、ザアカイさんはだんだんと今までの自分の罪が示されてきました。心を入れ変えたザアカイさんは、イエス様に言いました。「主よ、わたしはこれから自分の財産の半分を貧しい人々に施します。そして不正な取り立てをした人には四倍にして返します。」

イエス様はこの言葉を聞いて喜ばれました。そして「きょう、救いがこの家に來ました。わたしは來たのは、失われた人を捜して救うためなのです」と言われたのです。

ザアカイさんはお金持ちでした。でもどんなにお金があっても神様のもとから離れているなら失われた人です。その失われた人にイエス様が自分から近づき、すばらしい救いの道を開いてくださいました。ザアカイさんは心から罪を悔い改め、イエス様を信じて救われました。どんな人でもイエス様を信じるなら新しくつくり変えられるのです。

結び

ザアカイさんを招かれたイエス様は、今日みなさんを招いておられます。ザアカイさんのように今までの罪を悔い改めて心からイエス様をお迎えしましょう。

分級 A

△分級活動例▽

きょうはザアカイおじさんのお話をしようね。ザアカイおじさんは、すごいお金持ちでした。でも、おともだちがだれもいなかったの。どうしてだろう？ それはね、ザアカイおじさんが、とてもいじわるで、いばりんぼうだったから。こちそうがいっぱいあったけど、だれも、お客さんが来てくれなかったのよ。ザアカイさんは、いばっていただけ、本当はとてもさびしかった。つまらなかつたのね。

でもある日、ザアカイおじさんは、イエス様を見たくて、木の上に登って待っていたんです。そうすると、イエス様ってね、初めて会ったザアカイさんに、

「ザアカイよ」

って、名前を呼ばれたのよ。イエス様は、ザアカイおじさんを知っていてくださったのね。名前だけじゃなくて、気持ちの悪い心も、さびしいことや、つまらないことや、ひとりぼっちのことや、みんな知らないでくださったのよ。そして、特別にザアカイおじさんの家にお客さまに来てくださったのね。

ザアカイおじさんは、一生けん命お家の中をき

分級 B

△キーポイント▽

イエス様、ようこそ！

△導入▽

寒い月ですが、心の目を開いてもらったわたしたちは、神様のことをいつも第一番にして、教会

にはげみましょう。きょうは、とっても心がぽかぽかしてくるようなところです。

△聖書に親しむ▽

ルカ19・1～10です。きょうのところも感動的です。ナレーター、イエス様、ザアカイ、人々とわかれて読みましょう。暗唱聖句は線を引いて覚えよう。

△救いワークをしましょう▽

- ①～④のヒントにしたがって、はっぱや、金づくらの中に文字を入れてください。
- ヒント①この人は取税人の○○○でした(2節)。
- ②背が低くて見えなくて、何の木にのぼりましたか(4節)。
- ③イエス様におわびし、自分の○○○の半分を貧しい人にほどこす決心をしました(8節)。
- ④「きょう、救いがこの家にきた。この人も○○○の子なのだから」とイエス様は言われました(9節)。

その他の質問にも答えてくださいね。

△イエス様、ようこそ！▽

ザアカイさんの心はどんなふうになつていったでしょう。はじめからあとのほうまで、みんなで考えて話してみよう。この日はザアカイさんの記念日になりました。

分級C

〈キーポイント〉

救われたザアカイ

〈導入〉

先週は、長い間道ばたにすわって物ごいをして
いた盲人のバルテマイについて学びましたね。彼
はイエス様が来られたことを知って、イエス様に
目をあけてくださるよう求め、ついにその目が
開かれました。そして、大喜びでイエス様に従っ
て行ったのです。今日もイエス様にお会いして、
新しくつくり変えられた人について学びます。

△聖書を読もう△

今日はルカによる福音書19章1節〜10節です。
順番に読んでみましょう。今日の暗唱聖句は10節
です。線を引いて覚えましょう。

△質問△

- ①エリコの町に住んでいた取税人の名前は何か。
- ザアカイです。
- ②ザアカイさんはどのような人でしたか。できる
だけたくさんあげてみましょう。
- 取税人のかしら（親分）
- 金持ち
- 背が低かった
- 人々から嫌われていた
- ひとりぼっちだった

研究資料

課題 ザアカイ

盲人の目を開かれたイエスは、取税人ザアカイ
をお救いになった。闇の中におる者に光を与え、
罪に沈む者を引き上げたもう救い主のお姿が現れ
ている。

バルテマイの救いに続く記事で、ルカだけが残
している記録である。

テキスト

1 さて、イエスはエリコにはいつて このエリ
コは、バルテマイがいやされた所とは別の、新エ
リコである（先週の研究資料参照）。

2 ところが、そこにザアカイという名の人がい
た ザアカイとは「正しい人、清い人」という意
味であるが、その名にかなった生活を送っていな
かった。彼は取税人のかしらであった。ローマ帝
国の皇帝は、各地方に一人の総督を置き、税を取
り立てさせた。新約聖書にあらわれる取税人は、
道路や橋の通行税を取りたてる関門を作ったり、
市場に出される商品に税をかけたたり、一つの町か
ら他の町へ運ばれる品物や、日用品である塩など
にも税を課した。彼らはユダヤ人であって、しか
も異邦人の政府に仕えており、また、民衆をでき

ザアカイという名前は、「正しい、きよい」とい
う意味がありますが、名前のような毎日を過して
いたかと言うと、どうもそうではなかったようです。

取税人は、人々から税金を取り立てて、ローマの
国に納める仕事をしていた人です。彼らはたいて
い、ローマに納めるように言われている金額よりも
多く取り立てて、余った分を自分の好きなように使
っていました。ザアカイさんはその取税人たちの
親分でしたから、大変なお金持ちでした。ですから、
町の人たちからはとても嫌われていたのです。

ザアカイさんの心には大きな穴がボツカリとあ
いていたことでしょう。ザアカイさんのさびしさ
を理解してくれる人がいなかったからです。

③イエス様がエリコの町を通られたとき、ザアカ
イさんはどうしましたか（4節）。

●イエス様がどんな人か見たいと思いました。背が
低くて群衆にさえぎられ、見るのができま
せんでした。そこで前の方に走って行って、いち
じく桑の木に登りました。

④イエス様はザアカイさんに、何と言われましたか
（5節）。

●「ザアカイよ、急いで下りてきなさい。さよう、
あなたの家に泊まることにしているから。」

イエス様は「ザアカイよ」と彼の名前を呼ばれ
ました。ザアカイさんがイエス様を知る以前から、
イエス様は彼の名前を知っておられました。しか
も、名前だけではなく、イエス様は、ザアカイさ
んがどのような気持ちで毎日を過ごしていたのか
もみんなご存知でした。ですから、ザアカイさんの

家に泊まられザアカイさんの友となられたのです。
⑤イエス様から声をかけられたザアカイさんは、
どうしましたか（6節）。

●登っていただいた桑の木から急いでおりて、喜
んでイエス様をお迎えしました。町の人たちはとて
も驚きました。口々に「えっ、あの罪人のところにイ
エス様が入られるなんて」とつぶやいていたのです。

⑥8節のザアカイさんの言葉から、彼にどんな変
化が起こったことがわかりますか。

●ザアカイさんがこれまでの罪を悔い改めている
ことがわかります。ザアカイさんはイエス様を信
じて生まれ変わったのです。

⑦イエス様はザアカイさんに何と言われましたか
（9〜10節）。

●「さよう、救がこの家にきた。この人もアブラハ
ムの子なのだから。人の子がきたのは、失われた
ものを尋ね出して救うためである。」

ザアカイさんは神様の目から見て失われていた
人でしたが、イエス様によって救われました。イ
エス様は、どんなに人から嫌われている人であっ
ても、また、神様のもとから離れている人であっ
ても、愛しつづけて下さり、その人の友となつて
下さるお方です。

⑧わたしたちが救われるためには、どうしたらよ
いのでしょうか。

●ザアカイさんのように、素直に神様から離れて
いたことを認め、自分の罪を悔い改めることです。
そして、十字架のみわざを信じ、イエス様を救い
主として心の中にお迎えしましょう。

るかぎり搾取したので（総督への納税額は決まっ
ており、民衆からの徴収額は彼らの自由裁量に任
されていたため、彼らは不当な取りたてをして私
腹を肥やしていた）、人々から罪人、遊女、異邦人
と一緒に考えられていた（日本基督教団出版局『聖
書辞典』参照）。

3 彼は、イエスがどんな人か見たいと思ってい
たが、彼の耳にもイエスのうわさは届いていた。
彼は、イエスを見たいという心の渇きを覚えてい
た。金も権力もあったが、満たされないものを感じ
ており、それが、イエスを見たいというかたち
で現れた。その渇きは非常に強かった。

4 いちじく桑の木に登った いちじく桑は、ユ
ダヤ地方に多く育ち、木材として用いられた。常
緑で大木になり、日陰をつくるので、道端に植え
られることもあった。いちじくに似た実を結び、
葉が桑のような形をしているところからこの名前
がついた。

6 そこでザアカイは、イエスを迎え入れた。「迎
え入れる」は合成語で、「屋根の下に迎える、客と
して迎える、ねんごろにもてなす」という意味で
ある。

7 彼は罪人の家にはいつて客となった「客と
なる」は、もともと「完全にほどこ」という意味
の語で、それから進んで「破壊する」「粉砕する」
などを意味する。ここで、9・12には「宿を取り」
と訳されている。これらの場合は、「上着を脱いで
旅の休憩をとる」という意味で使われている。

8 ザアカイは立つて主に言った 彼の悔い改め

である。彼はおそらく、夜遅くまでイエスの話を
聞いたであろう。そして、そのうちに自分の心に
光が差し込まれ、罪が示され、涙を流して主の前
に罪を告白したのである。

悔い改めの内容は、次のようなものである。
①貧しい者に対して自分がとってきた冷酷無情な
態度。彼は、貧しい者からも情け容赦なく税を徴
収していた。②不当な取り立て。これは取税人な
らだれでもしていることで、彼は当然のように不
正に多額の税を取り立て、上前をピンハネしてい
た。それが罪であることが分かったのである。

そして彼の償いの決心は、①貧しい者に財産の
半分を施すこと、②不正な徴収分を四倍にして返
すことであった（これは、羊を盗んだ人に対して
律法が命じた罰である。出エジプト22・1）。

9 さよう、救がこの家にきた 罪の赦しの宣言
である。「アブラハムの子」とはユダヤ人のことで
あるが、ザアカイの家にはいつたイエスを非難し
たパリサイ人、法律学者たちのような外面上のユ
ダヤ人ではなく、イエスによって罪がゆるされ、
真に救われたザアカイのような者のことである。

10 人の子がきたのは、失われたものを尋ね出し
て救うためである 本書の鍵になる節である。ル
カの強調点は、いつも罪人の救いであった。ザア
カイは、この世では富も権力もあったが、神の目
から失われた存在であった。しかしイエスは彼を
探し、見つけ出し、神のもとへ連れ帰られた。彼
は、羊飼いが見つけた、いなくなった羊（15・3、
7）の良い例であった。

●週題 ラザロ

●聖書 ヨハネによる福音書11・17～44

●暗唱聖句 もし信じるなら神の栄光を見るであらう。

●ヨハネ11・40

●目標 主イエスを信じる者には、復活の希望が与えられることを信じる。

導入

先々週はバルテマイ、先週はザアカイのお話を聞きましたね。バルテマイは、イエス様は必ず目を開いてくださると信じ、ザアカイは、イエス様を喜んで迎えました。どちらもイエス様にお会いして変えられたのです。イエス様を信じる人はだれでもその人生が新しくされるのです。イエス様は何と素晴らしいお方でしょう。

ラザロの死

エルサレムから三キロほど離れたベタニヤという村に、マルタさん、マリヤさんそしてラザロさんという仲の良い姉弟がいました。イエス様は前回ベタニヤを訪れて、マルタさんたちの家に泊まられたことがあったようです。イエス様はこの三人を心から愛され、またマルタさんたちもイエス様をとても慕っていました。

ところがとても悲しいことが起こりました。ラザロさんが大変重い病気にかかってしまったのです。そのことは早速、イエス様のところに知らされました。けれども、イエス様はすぐに出かけよ

うとはされませんでした。三日たってようやく弟子たちとベタニヤに向かわれましたが、ベタニヤに到着したときには、ラザロさんはすでに死んでしまっていました。お墓の中に入れられて四日もたっていたのです。

悲しみに包まれて

ラザロが死んでしまい、マルタさんとマリヤさんはもちろん、大ぜいの人たちが深い悲しみの中に包まれていました。人々は彼女たちを慰めようと次々とやって来ます。でも何と言って慰めたらよいかわかりません。なんとも言うことができない重苦しい空気が漂っていました。

そこにイエス様の到着の知らせが入りました。マルタさんはイエス様を出迎えて言いました。「主よ、もしあなたがここにいてくださったら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう。」するとイエス様は、「あなたの兄弟はよみがえるであらう」と驚くべきことを言われました。そして「わたしはよみがえりであり、命です。わたしを信じる者は、たといい死んでも生きるのであります。また生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死ぬことがありません。あなたはこれを信じますか」と言われたのです。マルタさんは答えました。「主よ、信じます。」そしてマリヤさんを呼びに行きました。イエス様の足もとにひれ伏したマリヤさんは、泣きながらマルタさんと同じことをイエス様に告げました。マリヤさんやそばにいた人たちが泣いている様子をのぞき込んだイエス様は、身震いするほどの感動を覚えられ深く同情されました。そして、ラ

ザロさんが置かれている所をのぞき込んで涙を流されたのです。イエス様も深くラザロさんを愛しておられたからでした。

よみがえったラザロ

ラザロさんのなきがらが納められていた墓はほら穴でしたから、大きな石が入口に置かれていました。そこでイエス様は、その石を取りのけるように命じられたのです。マルタさんが「四日もたっていて臭くなっています」と答えると、イエス様は言われました。「もし信じるなら、神の栄光を見るであらうとあなたに言ったではありませんか。」そのイエス様の言葉を聞いて、人々は石を動かしました。それからイエス様は目を天に向けて父なる神様に感謝をささげてから、大声で「ラザロよ、出てきなさい」と叫ばれました。すると、なんとラザロさんが体を布でまかれたまま、墓の中から出て来たではありませんか。イエス様が言われたとおり、ラザロさんは生き返ったのです。イエス様はなんと素晴らしいみわざを現されたことでしょう。

結び

わたしたちも、信じるなら神様の栄光を見ることが出来ます。神の子イエス様には、何でもおできにならないことはありません。わたしたちが、何か大きな問題にぶつかって、どうしようかと思うとき、また、すべての望みが断たれて、もうだめかと思うとき、イエス様を信じるなら、必ずイエス様が栄光を現してくださるのです。

どこにいても、いつでもイエス様を信じ、希望をもって従いましょう。

分級 A

＜分級活動例＞

ケンちゃん、マリちゃん。今までお話を聞いた二人の人の名前おぼえてるかな。そう、バルテマイさんと、ザアカイさんですね。きょうは、ラザロさんのお話です。

ラザロさんはまだ若かったのですが、ある時、病気になるって死んでしまいました。ラザロさんが死んでしまった時、二人いたお姉さんは悲しくて、ワンワン泣いていました。でも、四日たった時、イエス様が来てくださったのです。お姉さんたちは、まだ悲しくなってシクシク泣きました。

でもね、イエス様といっしょにお墓に行ったのです。イエス様が言われました。「お墓の入口の石のふたをとりなさい。」お墓の石は、こんなふうになつていて、(ワークの絵を見せながら)とても大きくて、重かったのです。でも、みんなで力を合

わせて、「よいしょ」とのけました。

するとね、イエス様が、お墓の中で死んでいるラザロさんに向かって、「ラザロー、出てきなさい」と呼ばれたんです。そうしたらね、「えーっ」「ウソッ」「そんなん」ってみんなは言いました。お墓の中からね、ラザロさんが自分を出てきたのです。(ラザロを切り込みから前に出す。)

分級 B

＜キーポイント＞

希望にみちて

＜導入＞

何だかこの一週間、心にザアカイさんのことが思い出されると、あつたかーくなりませんでした。

か？ きょうはどんなイエス様のお話かな。なんと、きょうはさらにすごい。「ワッッ」とって叫びたくなるようなできごとですよ。

＜聖書に親しむ＞

ヨハネ11・17～44です。きょうも、イエス様、マルタ、マリヤ、人々、ナレターとわけて、感動的に読んでみましょう。暗唱聖句には赤線を引いて、覚えます。

＜きぼうワークをしてください＞

墓をひさぐ石に、何やら文字が書いてあります。きょうの暗唱聖句の文字をぬりつぶしていくと、何ということばがでてくるでしょうか。そのほかの質問にも答えてください。

＜お墓をやぶって希望が輝くのです＞

イエス様は神様にお祈りし、死んでいたラザロを大声で呼ばれました。ラザロは生き返って出てきました。イエス様もやがてよみがえられ、イエス様を信じる者も同じように、よみがえらせていただくのです。ハレルヤ、信じるわたしたちには、お墓はおわりではありません。だからいつも希望にかがやいて生きていけるのです。



分級C

〈キーポイント〉

信じる者の希望

〈導入〉

イエス様は、三年半の間にたくさんの奇跡を行われました。その中でもラザロさんの復活は、奇跡の中の奇跡と言われるほど素晴らしいできごとでした。よく「人間は一度死んだらおしまいだ」と言いますが、なんとイエス様はラザロさんを墓の中から生き返らせてくださったのです。そして私たちに死んでも死なないのちがあることを教えてくださいました。イエス様を信じるなら死ぬことのない命―永遠の命―が与えられるのです。

〈聖書を読もう〉

きょうの聖書の箇所を開きましよう。ヨハネによる福音書11章17節〜44節です。長いところですが、質問に答えながら読んでいきましょう。40節が今日の暗唱聖句です。み言葉をたくわえることはとても大切なことです。いつものように線を引いてしっかり覚えましよう

〈質問〉

①イエス様がラザロさんの住んでいたベタニヤの村に到着されたとき、ラザロさんはどうなっていましたか(17節)。

●重い病気が原因で死んでしまい、すでに四日も墓の中に置かれていました。ラザロさんは完全に

死んでしまったのです。

②ラザロさんの死を前にして、マルタさん、マリヤさん、それに町の人々はどのような様子でしたか(19、33節)。

●完全に希望を失って、悲しみに沈んでいました。マルタさんとマリヤさんはイエス様に「あなたがいてくださったならラザロは死ななかったでしょう」と言い、また町の人々は「盲人の目をあけたイエス様でも、ラザロを死なせないようにはできなかったのか」と言って悲しみました。

③人々の涙を流している姿を見られたイエス様はどのような様子でしたか(33〜35節)。

●激しく感動され、心を騒がされました。イエス様は、人の死に対して非常に関心をもち、また人の一生の中でもとても重大なごととして受け止めておられました。また悲しんでいた人たちと同じ思いになられて涙を流されたのです。

④イエス様はラザロさんの死を前にして失望しておられたでしょうか(40節)。

●いいえ、失望しておられませんでした。むしろ神様の栄光が現されること、人々が神様を信じるようになることを感謝しておられました。

⑤イエス様はラザロさんがどうなることを確信しておられましたか(23節)。

●必ず復活することを確信しておられました。ですからイエス様は言われたのです。「もし信じるなら、神の栄光を見るであらう」とあなたに言ったではないか(40節)。

どのような困った状況の中でもイエス様を信じるなら、すばらしいみわざが現されるのです。

⑥イエス様はどのようにしてラザロさんを生き返らされましたか(41〜43節)。

(1)墓の石を取りのけるように人々に命じられました。

(2)ラザロさんの復活が神様の大きな力によることを人々に知らせるために、感謝の祈りをされました。

(3)大声で「ラザロよ、出てきなさい」と命じられました。

⑦ラザロさんの復活のでき事を通して、イエス様は何を教えようとしたのでしょうか(25節)。

●信じる者に対する永遠の命の保証です。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる」と言われたイエス様は、この後十字架にかかられました。でもイエス様の生涯は死で終わったのではなく、三日目によみがえられて、永遠の命へと進まれました。そして、イエス様を信じる人はだれでも、同じ道を歩むことができる」と約束しておられるのです。

わたしたちが自分の罪を悔い改めて、イエス様の十字架を信じて仰ぐとき、罪はゆるされ、永遠の命にあずかることができます。永遠にイエス様と共に天国で生きることができるようです。最高の望みですね。

このすばらしい約束をしっかりと信じて、希望をもって歩みましょう。

〈祈り〉

心を合わせて祈りましよう。わたしたちのために十字架の死と復活を味わってください。わたしたちの罪をゆるし、復活の希望を与えてくださったイエス様に、心から感謝します。

研究資料

課題 ラザロ

盲人の目を開き、失われた罪人を救い出されたイエスは、死人を生き返らされた。イエスが救い主であることがいよいよ世の中に広く示されている。

テキスト

ヨハネ特有の記事で、共観福音書に並行記事はない。

17 さて、イエスが行ってこらになると この記事の最大の問題点は、イエスがラザロ重体の知らせを聞かされたとき、なぜすぐに彼の所に行かなかったかということである。主ご自身が「それは神の栄光のため」(4節)と答えておられる。つまり、主がすぐにラザロを見舞われ、死なないようにされたなら、神の栄光は現されなかった。見舞いを遅延し、しかも墓に葬られて四日もたっているという、人間的にはパーセントの希望もない状況にまでして、そこから彼を生き返らせたもうたから、神の栄光が現されたのであった。

18 ベタニヤはエルサレムに近く、ベタニヤは「貧しい者の家」または「悩める者の家」という意味の、オリブ山東麓にある寒村である。エルサレムから約三キロの所に位置していた。

21 主よ、もしあなたがここにいて下さったなら

主に対する非難を込めた、ごく自然な彼女の不満である。当然のことながら、まったく人間的な見地に立っている。しかし、前述したように、もし

イエスがラザロを死なないようにされたなら、神の栄光は現されることがなかった。

23 あなたの兄弟はよみがえらるであらう。彼を死なないようにするのが主の目的ではなく、彼を死

の中からよみがえらせることが目的であった。

24 終りの日のよみがえりの時、彼女は、終末の復活についての正統的な信仰を持っていたようである。しかし、主の言われたよみがえりは、その

ような伝統的な教理、頭だけの死んだ教理ではなかった。

25 わたしはよみがえりであり、命である。主ご自身が復活であり、命の君であると宣言された。

主は、十字架につけられたあと、文字通りよみがえられる。そして信じる者に罪の赦しと永遠の命を与えたもう。さらに主は、内住の罪も十字架に磔殺し、信じる者に内住し、支配したもう。そし

て、やがて来たるべき日に再臨し、信じ待ち望む我らをよみがえらせ、栄光の姿に化したもう。こ

の宣言は、我らに対するまったく救いの約束である。

33 激しく感動し、また心を騒がせ、泣くマリヤ

に対する深い同情だけでなく、周囲の人々の不信

仰(37節)に対する憤りでもあった。

35 イエスは涙を流された。原文ではたった二語の短い文であるが、主の憐れみと、不信仰への怒りを十分に表している。

38 それは洞穴であって、当時のパレスチナ地方の墓は、自然岩をくりぬいた洞穴で、入口に石をころがし、ふたとしていた。

39 主よ、もう臭くなっております。ごく常識的ではあるが、彼女の信仰告白(27節)が頭だけの

ものであったことを露呈した。

40 もし信じるなら神の栄光を、神の栄光が現されるのは、常識を働かせるところではなく、信仰を働かせるところである。信仰とは、なしたもう

主、全能の神に対する信頼である。「神の栄光のため」(4節)という栄光とは、信仰によって死人が

生き返らせられるという栄光のことであった。

43 ラザロよ、出てきなさい。新約聖書中に三回、

イエスによって死人が生き返らせられた記事がある。ナインのやもめの息子(ルカ7:11〜17)と、

会堂司ヤイロの娘(同8:40〜56)と、このラザロである。ナインの息子は、葬式を出すところであ

ったから、死後一日くらいであらう。ヤイロの娘は、まだからだのぬくもりの残る、死後数十分

くらいである。しかしラザロは葬られてからすでに四日もたっていた。そのラザロがよみがえらせ

られたのであるから、まさに神の栄光であった。

ラザロの復活は、イエスご自身の復活の予告である。主の復活が、ラザロやナインの息子、ヤイロの娘の場合と決定的に異なる点は、彼らは蘇生

させられたのであって、やがてまた死にゆく者であったのに対して、主は二度と死なない栄光の体

に復活されたということである。そして、この復活の主こそ我らの希望である。

● 週 題 エルサレム入城

● 聖 書 マタイによる福音書21・1～11

● 暗唱聖句 ダビデの子に、ホサナ。

● マタイ21・9

● 目 標 王なる主イエスを一人ひとりの心にお迎えするように指導する。

導入

イエス様は三年半の間、公の伝道活動をされましたが、いよいよその終わりが近づいて来ました。エリコの町でバルテマイさんやザアカイさんに出会われたイエス様は、エルサレムへと向かわれたのです。

主がお入り用なのです

十字架にかかられる数日前のことです。イエス様は、弟子たちと一緒に、ベテパゲという町に到着されました。この町は、エルサレムの近くの、オリブ山に沿った所にありました。

イエス様は、二人の弟子に、「向こうの村へ行って、つながれているろばを引いてきなさい」と言われました。そして「ろばの持ち主が何か言ったら、『主がお入り用なのです』と言えば、すぐに貸してもらえますでしょう」と言われたのです。

弟子たちは、向こうの村にろばがつかぎられていることや、主人がすぐにろばの子を貸してくれることを、イエス様がどうして知っておられるのだ

ろうと、不思議に思いました。

彼らが出かけて行くと、イエス様の言われたとおり、ろばがつかぎられていて、そばに子ろばがいました。

彼らが綱を解いて、ろばを引いていこうとする、ろばの持ち主が、「おいおい、わたしのろばをどうするつもりなんだ？」と尋ねます。彼らはイエス様の言われたとおりに「主がお入り用なのです」と答えました。すると主人は、「わかりました。どうぞお使いください」と言って、すぐにろばと子ろばを貸してくれました。すべてイエス様のお言葉とおりでした。

エルサレム入城

こうして弟子たちは、ろばと子ろばをイエス様のもとに連れて来ました。弟子たちが子ろばの上に自分たちの上着をかけると、なんとイエス様はろばの子の上にお乗りになったのです。子ろばに乗られたイエス様は、まるで王様のように堂々としておられました。

一緒に歩いて来ていた群衆は、着ていた上着やしゅろの木の枝などを道に敷きました。そして、口々に叫びます。「ダビデの子にホサナ、主の御名によってきたる者に、祝福あれ。」

「ホサナ」というのは、「今、お救いください」という意味の言葉ですが、「ばんざい」と同じような意味で使われていました。彼らは、ろばの子に乗られたイエス様に、「ホサナ、ばんざい」と叫んでほめたためたのです。

イエス様は、町中の人たちから大歓迎を受けられ、王様としてエルサレムに入って行かれました。それは、何のためでしょう。宮殿の王座にすわるためでしょうか。いいえ、十字架におかかになるためだったのです。

イエス様をお迎えしよう

十字架は、そのころ、もっともひどい罪を犯した人がつけられるものでした。イエス様は、何ひとつ罪を犯されなかった神の御子です。何も悪いことをされなかったお方なのに十字架にかけられたのです。それはわたしたちのためでした。イエス様の十字架は身代わりの十字架でした。だれでも罪を悔い改めて、十字架を信じるなら、罪が赦され、救われるのです。

さらに、救われた後も、わがままな心や、神様に喜ばれないきだない心を、イエス様は十字架の血できよめてくださいます。イエス様を王として心の中にお迎えするなら、わたしたちは喜んで神様のみに従っていくことができるようになります。わたしたちをそのように造り変えてくださるのが、王なるイエス様なのです。

結び

イエス様はわたしたちの王様です。わたしたちも王なるイエス様に喜んで従う者にならせていただきますように。

分級 A

〈分級活動例〉

ケンちゃん、マリちゃん。「王さま」ってどんな人か、知ってますか。そうね。①国中で一番偉い人。②「こうしなさい」と命令する人。それに、

③王さまは、王座（王さまの席、座る所）にいる人です。きょうはこの王さまのお話をします。

「イエス様がこられるよー」と、だれかが叫んでいます。エルサレムの子どもたちもみんな、「ワイ、イエス様だつて」と言いながら、エルサレムの門の方へ走って行きます。みんな、手に「しゅろ」の葉を持っています。「しゅろ」の葉は、王さまをお迎えする時に持つのです。

その頃の人々は、平和の王さまは、ろばの子に乗って来られると言っていました。そしてその通りにイエス様は、ろばの子に乗って、エルサレムの門を入って来られたのです。イエス様は、本当に平和の王さまです。

だからおとなも子どもも、しゅろの葉を力いっぱい振って、イエス様をお迎えしました。そして、「ホサナ、ホサナ」と叫びました。「ホサナ」というのは、わたしたちのこころで言うと、「ばんざーい」と言うようなことばなのです。

でもイエス様は、エルサレムの人たちだけの王さまでしょうか。そうじゃないね。ケンちゃんは、

分級 B

——キーポイント——

ホサナノ

〈導入〉

寒さが少しやわらいで、少しずつ春が近づいてきました。それぞれの学年の最後の月になりましたね。教会学校での「イエス様の生涯」の学び

もだんだんおわりに近づいてきました。いよいよ最後の一週間のできごとです。

〈聖書に親しむ〉

マタイ21・1～11です。きょうは一節ずつみんなて輪読をしましょう。暗唱聖句には赤い線を引いて覚えます。とっても短いです。またすばらしい意味をもっています。

〈ホサナ・ワークをします〉

ベテパゲからスタートして、ふさわしい所を通ってエルサレムに入城しましょう。質問にも答えましょう。

〈ホサナノって何のこと?〉

これは、「主よ、われらをお救いください」という、短い祈りのことばです（詩篇118・25）。「ホサナノホサナノ」と叫ぶ人々の祈りにこたえて、イエス様は、その週の金曜日、十字架にかけられ、救いの道を開いてくださいました。わたしの心の中にも、この救い主イエス様を王としてお迎えして、罪と永遠の滅びから救っていただきますように。

〈きょうのいのち〉

王なるイエス様、いまわたしの心におはいます。アーメン。

分級C

〈キーポイント〉

イエス様をお迎えしよう

〈導入〉

今年度も最後の月を迎えましたね。来月からは新しい学年が始まります。

わたしたちは四月からイエス様のご生涯についてずっと学んできました。イエス様は素晴らしい神の子、救い主としてのお姿を現されましたが、いよいよ大切な使命を果たされる時が近づいて来たのです。

今月はイエス様が十字架にかかれるまでの一週間について学んでいきましょう。

〈聖書を読もう〉

マタイによる福音書21章1節～11節を開いてください。今日の暗唱聖句は9節です。線を引いて覚えましょう。

〈質問〉

① イエス様と弟子たちはどこに向かっていましたか(1節)。

● エルサレムです。

② イエス様は何のためにエルサレムに来られたのですか(20・18～19)。

● すべての人の罪のために身代わりとなって十字架におかかりになるためです。ご自分の命を与え

るためにイエス様はこの地上に来てくださいました(20・28)。イエス様は、すべての人を罪から救い、神様のもとに立ち返ることがするために地上に来られ、十字架にかかれたのです。

③ イエス様が二人の弟子に言われた事は何ですか(2節)。

● 「向こうの村へ行って、つながれている、子ろばをわたしのところに引いてきなさい」と言われました。そして「もしだれかが、あなたがたに何か言ったなら、主がお入り用なのです、と言いなさい。そうすれば、すぐ渡してくれるであろう」とも言われました。

④ イエス様はこの時、なぜ子ろばに乗ってエルサレムに入城されたのでしょうか(4節)。

● それは、旧約時代の預言者によって預言されていた事が成就するためでした。ゼカリヤ9・9に「見よ、あなたの王はあなたの所に来る。彼は義なる者であって勝利を得、柔和であって、ろばに乗る」とあります。その預言がイエス様によって実現したのです。

⑤ 子ろばに乗られたイエス様を見た人はどうしましたか(8節)。

● 群衆のうち多くの者は、自分たちの上着を道に敷いたり、あるいはしゅろの木を枝を切ってきては道に敷いて、叫びつづけました。上着を道に敷くとは、王様を迎えることを意味しました(列王下9・13)。人々は、イエス様を自分たちの王様として迎えたのです。

⑥ 人々はイエス様のことを何と呼んでいますか(9

節)。

● 「ダビデの子」とか「主の御名によってきたる者」と呼びました。それらは救い主を現わす言葉です。たくさんの人たちがイエス様を救い主として迎え、喜びいっぱい賛美しました。「ホサナ」とは、イエス様の時代には、「祝福がありますように」という意味で使われていました。イエス様がこれまでになされた、すばらしい奇蹟を見たり聞いたりした人たちが、大声をあげて、エルサレムに入られるイエス様を賛美したのです。

⑦ わたしたちは、イエス様をどのようにお迎えしたらよいのでしょうか。

● わたしの救い主、王様として心の中にお迎えするのです。イエス様は今日、わたしたちの心の中に入ろうとしておられます。わたしたちが心を開いてイエス様を心の王座にお迎えするまで、心の戸をたたき続けておられるのです。

ホフマンという画家が、ある絵を描きました。その絵をよく見ると、イエス様が立つておられる戸にはノブ(ドアの取手)がありません。内側にしかないのです。わたしたちの方からイエス様の御声を聞いて、心を開く以外に、イエス様をお迎えする方法はないのです。

イエス様は、わたしたちを罪から救うためにこの世に来てくださいました。わたしたちも心からイエス様を「ホサナ」と賛美しましょう。そして、イエス様を王様として心の中にお迎えして、わたしたちもろばの子のように神様のお役に立つ者にならせていただきます。

研究資料

単元 十字架へ

キリスト伝からみれば、受難週に入る。エルサレム入城から、十字架前夜の洗足までである。

週題 エルサレム入城

日曜日、イエスはろばの子に乗ってエルサレムに入られた。人々がしゅろの枝を道に敷いて歓迎したこと、しゅろの主日と呼ばれるようになった。しかし、喜んだのは、主に従ってきた者たちだけであって、エルサレムのほとんどの人々は冷やかな目で迎え、数日後、「十字架につけよ」と叫ぶのである。主の受難の始まりである。

テキスト

このでき事の重要性は、四福音書のすべてに記されていることから分かる(マルコ11・1～10、ルカ19・29～38、ヨハネ12・12～19)。

1 オリブ山沿いのベテパゲに着いたとき、ベテパゲは、エルサレムからエリコに下る道の近く、ベタニヤに近い村で、たぶんオリブ山の東斜面にあったと思われる。イエスは、エリコでバルテマイとザアカイをお救いになった後(前月のテキストト)、オリブ山方面からエルサレムに近づかれたの

である(聖書地図を参照されたい)。

2 向こうの村へ行きなさい。向こうの村とはベテパゲ、またはベタニヤであろう。本書では、イエスがすでにベテパゲに到着したことになっているが、マルコ11・1とルカ19・29では、ベテパゲとベタニヤの近くまで来られたこととなっている。イエスは、その村にろばがつかれており、そのそばに子ろばがいることを知っておられた。全知の神としての側面である。

3 もしだれかが、あなたがたに何か言ったならろばの持ち主が見とがめること、また主がお入り用なのですと言えはゆるされることも主は知っておられた。

4 こうしたのは、預言者によって言われたことが、イエスがろばの子に乗られたのは、自分の計画や思いつきではなく、預言を成就するためであった。イエスの行動をことごとく旧約聖書の預言で裏づけようとするのは、おもにユダヤ人読者を意識して書いたマタイの特徴的な筆法である。

5 シオンの娘に告げよ。イザヤ62・11とゼカリヤ9・9を複合しての引用。メシヤたる主が、ろばの背に乗って来られる柔和な方として預言されている。当時、王たる者は普通、エシフトから輸入された馬に乗った。しかしイエスは馬ではなくろばに、しかも子ろばに乗られた。主がいかに柔和で謙遜なお方であったかがわかる。

7 ろばと子ろばとを引いてきた。本書では、イエスが親ろば、子ろばのどちらに乗られたのかわからないが、マルコ、ルカでは、弟子たちが子ろば

を引いてきて、それに乗られたと記録されている。

8 群衆のうち多くの者は、この群衆は、過越の祭りを祝うためにエルサレムに向かうガリラヤからの巡礼団であった。上着や木の枝を道に敷くのは、民衆が王を歓迎するときのしぐさで、彼らがイエスをメシヤとして迎えていることを表している。

9 ダビデの子に、ホサナ。ダビデの子という呼び方は、明らかにメシヤに対して使われている。「ホサナ」はヘブル語で「今、救ってください」という意味は「われらは祈る、お救いください」という意味である(詩篇118・25)。主の御名によってきたる者に、祝福あれ。詩篇118・26の引用。

10 イエスがエルサレムにはいつて行かれたときエルサレム市民は、ガリラヤ人の巡礼団とは全く異なる反応を示した。彼らの多くは、不安を抱き戸惑った。とくに祭司長や律法学者などの指導的立場の人々は、ねたましく思った。かつてヘロデ王が、新しい王に謁見を求める東方の博士たちの訪問を受けたとき、ヘロデと町のおもだった人々が不安を覚えたのとちょうど同じである(マタイ2・3)。

こうしてイエスは王として、エルサレムに凱旋的に入城された。十字架にかかって全人類の罪のあがないとなられる、まことの王としての堂々たる入城であった。

●週題 十人のおとめ

●聖書 マタイによる福音書25・1～13

●暗唱聖句 目をさましていなさい。その日その時が、あなたがたにはわからないからである。 マタイ25・13

●目標 いつも油断しないで、主イエスのおいでに備える者となる。

導入

みなさんの家に大切なお客さんが来られたら、おうちの人はどうしますか。掃除をしたり、お茶の用意をして待っていますね。わたしたちを救うためにこの世界に来てくださったイエス様は、今度は世界を治める王様として、再び来られるのです。

十人の娘たち

イエス様がもうすぐ十字架にかかれようとする時です。イエス様は弟子たちにあるたとえ話をされました。十人の娘たちがいました。そのうちの五人は、注意深い人たちで、あとの五人は、あまり注意深くない人たちでした。彼女たちは、結婚式を挙げようとしている花嫁の友人たちで、お祝いの席に招かれていました。

十人とも、火のともったランプを持っています。夜もふけてきましたが、花嫁はまだ到着しません。花嫁が来たら、彼女たちは花嫁と一緒にお祝いの席にすわることになっているのです。彼女

たちは、花嫁の到着を今か今かと楽しみに待っていました。

そのうち、待つのに疲れて、みんな眠ってしまいました。その間にランプの油がなくなってしまう、火は今にも消えかかっています。突然、外が騒がしくなり、「花嫁が着いたよ。さあ、迎えに出なさい!」と言う声が響きました。娘たちは飛び起きて支度をしました。

ふと見ると、ランプの火は消えそうです。でも、注意深い娘たちはあわてません。予備の油を持っていたからです。油をランプに継ぎ足し、明かりを整えて花嫁を迎える準備ができました。

あわてたのは注意深くない娘たちでした。予備の油を持っていなかったからです。彼女たちは、注意深い娘たちに「あなたたちの油を少し分けてください」と頼みました。しかし注意深い娘たちは言いました。「あなたたちに分けてあげられるほどは持っていないせん。それより、お店に行つて買ってきただうですか。」

閉ざされた扉

予備の油を用意していなかった娘たちは、大急ぎで買いに行きました。時間がかかりましたが、やっとのことで油を買い求めて帰ってきました。

ところが、もう花嫁は、注意深い五人の娘たちと一緒に出発したあとです。遅れた人たちは、祝宴が開かれている所に駆けつけ、扉をたたきました。「ご主人様、ご主人様、開けてください。」しかし、扉の中から返ってきた返事はこうでした。

結び

みなさんは、イエス様の再臨の日のために、もう備えができていますか。「わたしはあなたを知らない」とイエス様から言われてしまうことがないように、心の目をさまして用意をしましょう。

分級 A

〈分級活動例〉

マリちゃん。夜にお部屋を明るくするものは何でしょう。そう、電球や蛍光灯ですね。でも昔、イスラエルの国にはそんな便利なものはなく、油を入れて火をつけるランプを使っていました。イエス様は、エルサレムに入城された後、こんな話をしてくださったのです。

「花嫁さんがもうすぐ、ここに来られますよ。お迎えの用意をして下さい。」そんなお知らせがきました。十人の女の人は、あかり(ランプ)をもつて花嫁さんが来るのを待っていました。でもいくら待っても花嫁さんは来ません。「おかしいなあ、遅いなあ。」そう思っているうちに待ちくたびれて、十人ともみんな眠ってしまいました。グーグー。だいぶ時間がすぎて、真夜中になりました。突然、「花嫁が来られましたよ。さあ、あかりを持ってお迎えしなさい」と声が聞こえて、十人の女の人にはあわててとび起きました。でも大変です。長く待ったので、ランプの油がなくなってしまう。まっ暗では、大切な花嫁さんを迎えられません。けれど十人のうち、五人の女の人だけは、別に油を用意していました。ランプに油を入れたら、とても明るくなりました。そして、ちゃんと

花嫁さんを迎えに行くことができました。それから、花嫁さんと一緒にお祝いの場所へいって楽しく過ごす事ができたのです。

さて、聖書には、イエス様が私たちを、迎えに来て下さる事が約束されています。でも、さっきのお話の花嫁さんのように、いつ来られるかは、誰も知りません。だから、油の用意をしていた五人の女の人のように、いつ来られてもお迎え出来る用意をしていたのです。イエス様をいつも心の王様として、神様に喜ばれる心で、待っています。イエス様を信じるといふ、心の火を消さないように注意しましょう。

〈さんび〉

「わたしは小さい火」(ぶくいん子どもさんびか 86番)

〈ワーク〉

ランプを持った二人の女の人があります。どちらの人が油を用意していた人でしょうか。火がついているランプに色をぬりましょう。

分級 B

〈キーポイント〉

かしこい子は?

〈導入〉

「ホサナ、ホサナ」と、イエス様を心にお宿して、一週間すごしましたか。エルサレムに入られて後、イエス様はこれから起こること、特に世の終わりのことをお話になりました。「世の終わりは突然きます。だから、気をつけていなさい、用意していなさい」と言われたのです。

〈聖書に親しむ〉

マタイ25・1～13です。イエス様、声、思慮深い女、思慮の浅い女のそれぞれの役で読んでみましょう。暗唱聖句には線を引いて、しっかりと覚えましょう。

〈おとめワークをやりましょう〉

かしこい子はこの子でしょうか。その子に色をぬり、あかりをもつ手の反対の手に油つぽをかき入れましょう。

〈ほんとにかしこい子は?〉

わたしたちも、いつイエス様がこられてもだいじょうぶのようにそなえているかしこい子でいたいね。聖書がおしえてくれる「ほんとにかしこい子」は、

①神様を信じている子

②イエス様がいつこられてもいいように用意のできている子、なのです。

どんなに頭がよくても、「神様なんていない」という子は、おろかものだと聖書には書かれています。

〈きょうのおいのり〉

神様、わたしはあなたを信じます。いつも用意のできているかしこい子として、毎日すごせますように。アーメン。

分級C

〈キーポイント〉
備えよう

〈導入〉

先週は、イエス様が子ろばに乗ってエルサレムに入城されたところを学びました。人々は王様のようにイエス様を迎えました。

すべての人の罪の身代わりとして十字架にかかるために来られたイエス様は、もう一度王として世界を治めるために来られるのです。

イエス様がいつおいでになるのか、父なる神様以外だれも知りません。わたしたちは、イエス様がいつ来られてもいいように備えをしていなければなりません。今日はイエス様のたとえ話から学びましょう。

〈聖書を読もう〉

マタイによる福音書25章1節～13節を開きましょう。今日の暗唱聖句は13節です。線を引いて覚えましょう。

〈質問〉

①イエス様は、何人のおとめの話をされましたか(1節)。

●十人のおとめです。彼女たちはそれぞれランプを手にして、花婿を迎えるための準備をしていました。

②十人のおとめを二つのグループに分けてみましょう(2節)。

●思慮の浅い人たちと思慮深い人たちです。

③思慮の浅い人たちと思慮深い人たちとを比べてみると、どこが決定的にちがっているのでしょうか(3節)。

●思慮の浅い人たちは、ランプを持っていましたが、肝心のランプをとらず油を用意していませんでした。ガソリンがなければ自動車は走れないように、油がなければランプをとすることはできません。さて、思いがけないハプニングが起こりました。花婿の来るのがおきてしまったのです。待ちくたびれてしまったおとめたちは、みんなスヤスヤと眠ってしまいました。

④花婿がようやく到着しました。それはいつの間帯ですか(5節)。

●夜中です。夜中に花婿が着いたので、「さあ花婿だ、迎えに出なさい」という声が響きました。

⑤あわてたのは思慮の浅い人たちです。どうしてあわてたのでしょうか(8節)。

●予備の油を用意していなかったからです。彼女たちが思慮の深い人たちに、「あなたがたの油をわたしたちに分けてください。わたしたちのランプが消えかけていますから」と頼みましたが、思慮深い人たちに、「わたしたちとあなたがたに足りる分だけは、多分ないでしょう。店に行って、あなたがたの分をお買いになる方がよいでしょう」と断られてしまいました。

彼女たちは、急いで油を買いに出かけました。

ところがその間に花婿が到着し、婚室の部屋の戸は閉められてしまいました。遅れてきた五人のおとめはとうとう、中に入れてもらえませんでした。

⑥イエス様はこのたとえ話を通してわたしたちに何を教えようとしたのでしょうか。ここに出てくる花婿とはどなたのことでしょうか(24・42)。

●イエス様のことです。イエス様は思いがけない時に再びこの地上に来られるのです。

⑦イエス様が来られる日まで、わたしたちにはどんな準備が必要なのでしょう。

●思慮深いおとめたちのように、油を用意して、いつでも信仰というランプの火をともしないければなりません。

油とはわたしたちの魂に神様の愛や恵みを注ぎこんでくださる聖霊のことです。油が注がれてこそランプの火が燃えるように、わたしたちもいつも聖霊の恵みの中に生きている事が大切です。聖霊に満たされずに勝利ある生活はできないからです。また、聖霊なる神様に助けていただかなければ、わたしたちは心の目をさましていくことはできません。

聖霊に満たされ、イエス様がいつ来られてもいいように備えましょう。

〈祈り〉

心を合わせて祈りましょう。イエス様が再び来られる日まで、聖霊に満たされてイエス様を信じ続けることができますように、守り導いてください。

研究資料

週題 十人のおとめ

終末について語られたたとえの一つである。主の再臨を待ち望む我らの姿について、二種類のおとめの鋭いコントラストを通して警告されている。

テキスト

24章は、イエスの説教の中で、「オリブ山の説教」と呼ばれているもので、共観福音書のすべてに記録されている唯一の説教である。それに続く25章も「オリブ山の説教」の一部とされているが、マタイのみが記している。

日曜日には子ろばに乗ってエルサレムに入城された主は、火曜日にもっとも多く語られた。「オリブ山の説教」は、この日に、エルサレム市街が見渡せるオリブ山で、弟子たちにされたものである。「十人のおとめ」(1～13節)と「タラント」(14～30節)は天の御国のたとえ、「羊とやぎ」(31～46節)は最後の審判のたとえである。

1 そこで天国は、十人のおとめが パレスチナにおけるユダヤ人の結婚式の典型的な様子がかがえる。花婿は友人たちに付き添われて、花嫁を家まで迎えに行き、花嫁とともに自分の家まで喜ばしい行進をするのである。おとめたちとは花嫁

の付き添い人たちであるが、霊的な教訓において彼女たちが花嫁を代理していると考えてよい。花婿とは再臨のキリストのことであり、おとめたちはキリストの花嫁たる教会である。

2 その中の五人は思慮が浅く、五人は思慮深い者であった。思慮が浅いとは、目先のことはかり思い、先のことを考えられないという意味で、思慮深いとは、分別があり、聡明で、さきの見通しを立てることができるという意味である。

3 思慮の浅い者たちは、あかりは持っていたが今、あかりがともっていない。油が切れたら消えてしまう。しかし、予備の油を補充すれば、続けてあかりをとることができる。思慮の浅いおとめたちは、その予備の油を持っておらず、思慮深いおとめたちはそれを別の入れ物の中に持っていたのである。

油は、旧約聖書でも新約聖書でも、聖霊の型として知られている。聖霊を絶やさずに内に持っていることが、再臨のキリストを迎えるためには不可欠なのである。

5 花婿の来るのがおくれたので、時として、主の再臨が遅いと思われることがあるが、いたすらに延期されているのではない。一人も滅びることがないように、神は忍耐しておられるのである(IIペテロ3:9)。彼らはみな居眠りをして、寝てしまった。「居眠りをする」は不定過去で、「こっくりする」という意味である。「寝る」は現在時制で、彼女たちが眠り続けたことを表す。眠ったのは思慮の浅い者だけでなく、思慮深い者も同じだった。

た。これは、我らにとっても慰めである。

6 夜中に 真夜中の花婿の到着は、主の再臨の時がいつかわからないことを表す。

7 そのとき、おとめたちは「整える」は「配列する」、「準備する」の意味で、おそらく彼女たちは、灰になった灯芯の先を切り取ったのであろう。

8 ところが、思慮の浅い女たちが 女たちの会話からわかるのは、聖霊の恵みは、自分の信仰で得るものであって、人から分け与えられるものではないことである。聖霊の内住の恵みは、救いの恵みと同様、神と自分との関係においていただくものである。

10 彼らが買いに出ているうちに 主が再臨されてからあわてても遅すぎる。戸はしめられ、備えのない者たちは外の暗闇に取り残される。つまり携挙から除外されるのである。

11 ご主人様、ご主人様と叫んでも、「はつきり言うが」と拒絶されてしまうとは、何という悲劇だろうか。

13 だから、目を覚ましていなさい このたとえの結論である。教会は、主の突然の再臨にいつも備えていなければならない。その準備とは、絶えず聖霊の恵みの中に生かされていることである。



●週題 ナルドの香油
●聖書 マルコによる福音書14・1〜9
●暗唱聖句 この女はできる限りの事をしたのだ。
●目標 主イエスに喜ばれる、できる限りの事とは何かを考える。

導入

だれかに心から親切にしてあげて、その人に喜んでもらえたら、うれしいですね。それがイエス様ならどうでしょう。イエス様がもうすぐ十字架にかかれようとする時に、自分にできる限りの事をして、イエス様に喜ばれた女の人がいきました。

ベタニヤで

ろばの子に乗ってエルサレムに入城されたイエス様は、その後、エルサレムから出て、ベタニヤの町に泊まりました。

イエス様が、シモンさんという人の家で食事をしておられた時のことです。一人の女の人がイエス様のところに近づいて来ました。そして、なんと、手に持っていた石ころのつばを壊して、何かをイエス様の頭に注ぎかけたのです。それはナルドの香油という、高いお金を出さなければ手に入らない、非常に高級な香油でした。

ある人々は、それを見て、とても腹を立てました。そして女の人に文句を言ったのです。「何とモったいないことをするのだ。高い香油をこんなに

むだにして。これを売れば相当のお金になって、貧しい人々を助けてあげることもできたのに。」

葬りの用意を

ところが、イエス様は彼らに言われました。「この女の人のするままにさせておきなさい。わたしの良い事をしてくれたのだから。」

イエス様は続けて言われました。「貧しい人を助けてあげることが、しようと思えばいつでもできます。しかし、わたしはいつもあなた方と一緒にいるわけではありません。わたしに良い事をするのは今しかないのです。イエス様への良い事とは何でしょうか。」

イエス様は言われました。「この人はわたしのからだに香油を塗って、前もって埋葬の用意をしてくれたのです。これはどういう意味でしょうか。香油は普通、死んだ人の体に塗って、死体が腐るのを防ぐために使われました。この女の方は、イエス様が近いうちに死なれることを知っていました。ですから、彼女は、香油を注ぐという、今しかできない事をしたのでした。」

できる限りの事を

この女の人とは、ベタニヤの町に住むマリヤさんでした。マリヤさんの兄弟のラザロさんが、イエス様によって生き返ったことは以前学びましたね。マリヤさんにとって、ナルドの香油は、命の次に大切なものでした。長い間、こつこつとお金をためて、やっと買ったものです。でも、彼女はそれを、惜しむことなくイエス様にささげたのです。しかもつばを傾けて、チョロチョロと注ぎかけ

たではありません。つばを壊して、全部、最後の一滴まで注ぎ尽くしました。自分を救うために命を捨ててくださったイエス様のためなら、少しも惜しいとは思わなかったのです。イエス様は、このマリヤさんの思いをこらんにあって、「できる限りの事をした」と喜ばれました。

わたしたちも、できる限りの事をして神様に喜ばれたいですね。わたしたちはイエス様のために、何ができるでしょうか。

それは、第一にイエス様を信じることです。わたしの罪のために十字架にかかってくださったイエス様を信じる信仰こそ、神様が一番喜ばれることなのです。また、どんなに大変な問題が起こった時でも、何でもおできになる神様を信じるのです。信仰がなくては神様に喜ばれることはできません。

第二に、ほかの人々にイエス様のことを伝えることです。わたしたちの回りには、まだイエス様を知らないお友だちや家族の人たちがたくさんいます。その人たちが救われるように祈り、教会に誘いましょう。

結び

イエス様は、わたしたちのために命を捨ててくださいました。それによってわたしたちは、本当の愛を知りました。わたしたちも、このイエス様を愛し、イエス様のためにできる限りの事をさせていただきますましょう。

分級 A

〈分級活動例〉

マリちゃんが一番大切なものは何？ もし先生が「それをちょうだい」って言ったらくれる？ むずかしいことだね。でも、こんな話が聖書の中に書いてあるんだよ。

イエス様が、久しぶりに、あるお姉さんの住んでいる町に来られるというお便りが来ました。お姉さんは、どうしたらイエス様に一番よろこんでもらえるかしら、と一生懸命に考えました。こちそうがいにかしら、何か着るものか靴のプレゼントはどうかしらと、いろいろ考えましたが、「そうだ、わたしの一番大事なものを、一番大事なイエス様にさしあげよう」と決心しました。

お姉さんの一番大事なものは何でしょう。それは「ナルドの油」という、とてもいい匂いのする特別の油でした。お姉さんになる時のため、イスラエルの女の方は少しづつお金をためて、ほんのちよつとずつ買ってためていくのです。お姉さんは、もうお嫁さんになるころの年になっていましたから、油はびんにいっぱいにたまっていました。その油は、お姉さんの一番大切な宝物でした。イエス様がおいでになった時、お姉さんはイエス様の頭に、そのナルドの油を、ぜんぶぶかけてあげました。お部屋中、すばらしい匂いでいっぱいになりました。

分級 B

〈キーポイント〉

せいいつぱい／

〈導入〉

「かしこい人」は、イエス様のおいでが近いこ

とを知って、今でなければできないことをします。きょうのマリヤさんは本当に「かしこい人」でした。だから、イエス様にとっても喜ばれ、永遠に語り伝えられているのです。さあ、わたしたちはイエス様のために何ができるでしょうか。何でもイエス様のために「せいいつぱい／」のことができたらいいいね。

〈聖書に親しむ〉

マルコ14・1〜9です。きょうは、ナレーター、イエス様、そして、人々と三つのグループに分かれて読みましょう。暗唱聖句は赤線を引いて、覚えましょう。

〈ナルド・ワークをしてください〉

絵の中に、きょうの暗唱聖句をさがし出して、好きな色でぬっていきましょう。何があらわれてくるでしょうか。質問にも答えてね。

〈わたしのせいいつぱいは？〉

マリヤさんは、イエス様がもうすぐ死なれると知って、とっても大切にしていた高価なナルドの香油を、全部イエス様に注ぎました。一人の人が一年間働いてやっと買えるくらい高かったのです。でもこの時しかチャンスはありませんでした。イエス様のお喜びは大きかったです。

わたしにできる、イエス様のための「せいいつぱい／」は何でしょうか。一番大切な「時」、日曜日の朝の時をイエス様に。せいいつぱいの感謝の「献金」をイエス様に。わたしの一つしかない「命」、「人生」そして、「すべて」をイエス様にささげて、イエス様のために用いていただいたら、こんなにすばらしいことはありません。

分級C

—キ・ポイント—

できる限りの事を

〈導入〉

みなさんは、お父さんお母さんや、友だちからプレゼントをもらったことがありますか。プレゼントには、相手の人の気持ちがこめられているので、とてもうれしいものです。

今日登場する女の人は、イエス様にすばらしいプレゼントを持ってきたので、とても喜ばれたのです。

〈聖書を読もう〉

今日わたしたちが読む所は、マルコによる福音書14章1節～9節です。

8節が今日の暗唱聖句です。線を引いてしっかりと覚えましょう。一節ずつ輪読しましょう。

〈質問〉

①過越の祭りの二日前のことです。祭司長たちや律法学者たちは、イエス様をどうしようと計画していましたか(1節)。

●策略をもって、イエス様を捕えたいと、なんとかしてイエス様を殺そうと計画していました。

②イエス様はこの時どこにおられましたか(3節)。

●ベタニヤの町に住むらい病人シモンさんの家において、食事をしておられました。

ベタニヤと言えば、以前学んだラザロさんとその姉妹マルタさんとマリヤさんの村ですね。ラザロさんたちもこの食事に招かれていたようです(ヨハネ12・2～3)。

③ひとりの女の人がイエス様の頭に注ぎかけたのは何ですか(3節)。

●非常に高価でしかも純粋なナルドの香油です。この人は香油の入った石膏のつぼを持ってきてそれをこわし、その香油をイエス様の頭に注ぎかけたのです。すると、香油のかおりがたちまち家の中いっぱいに広がりました。

④この女性のしたことを見たある人々は、どうしましたか(4～5節)。

●とても腹を立てて女性を責め始めました。彼らは互いに「なんのために香油をこんなにむだにするのか。この香油を三百デナリ以上にでも売って、貧しい人たちに施すことができたのに」と激しく言ったのです。

一デナリとは、当時の労働者の一日分の賃金でした。とするなら、その香油はおよそ一年分の給料にあたるものです。それほど高価な香油をこの女の人は、惜しむことなく一滴も残さずにイエス様に注ぎかけたので、人々は文句を言いました。

⑤イエス様は何と言われましたか(6節)。

●「するままにさせておきなさい」と言われました。周りにいた人たちが、言いたい放題に言っていて、この女の人を困らせるのを放っておかれることはされませんでした。むしろ、「わたしに良い事をしてくれた」と言って、女の人がした事を喜ばれ、

ほめられたのです。イエス様は、この人がした行為の意味を十分理解しておられたので、高く評価されました。

⑥この女の人は、以前イエス様が、神様の大きな御力によってよみがえらせたラザロさんの姉のマリヤさんでした(ヨハネ12・3)。では、マリヤさんは、なぜイエス様に高価なナルドの香油を注いだと思いますか。8節のイエス様の言葉から考えてみましょう。

●イエス様は「あらかじめ葬りの用意をしてくれたのだ」と言われました。マリヤさんはイエス様が「十字架にかかれる」と語られた言葉を心にとめていました。そして、その時が近づいている事を感じていたのです。ですから、ナルドの香油を少しも惜しまずにイエス様に注ぎました。マリヤさんはイエス様を心から愛していたので、イエス様のために自分のできる最高のプレゼントをささげたのです。

イエス様は、マリヤさんの行為を大変喜ばれました。同じように、わたしたちがマリヤさんのようにイエス様のためにできる事を心からする時、イエス様は喜んでくださり、受け入れてくださるのです。わたしたちはイエス様のためにどのような事ができるでしょうか。

●教会学校に熱心に通うこと。

●教会学校に友だちを誘うこと。

●与えられた中から、感謝をもって献金すること。わたしたちもマリヤさんのように、イエス様のためにできる事を、喜びと感謝をもって精一杯させていきたいと思います。

研究資料

週題 ナルドの香油

十字架を目前に控えたイエスに、マリヤが高価な香油を注いだ記事から、主に對する全き献身を学ぶ。

テキスト

マリヤの油注ぎは、本書のほかにマタイ(26・6～13)とヨハネ(12・1～8)が記録している。

1 過越と除酵との祭りの二日前に 受難週の水曜日、主が静かな時を過ごされた日である。しかし裏では、祭司長たちや律法学者たちによるイエスの殺害の陰謀がめぐらされていた。除酵の祭りと種なしパンの祭りのことである。厳密には過越の祭りは一日で、その後に種なしパンの祝いが七日間続く(レビ23・5、6)のだが、当時は八日間の全期間をどちらの名でも言う場合が多かった。

2 祭の間はいけない 彼らは祭りの期間を避けて策略を実行しようとした。彼らがもっとも恐れていたのは、イエスを慕う群衆の反抗であった。しかし、イエスの逮捕と処刑は、摂理のうちに祭りの時期になされたのである。

3 イエスがベタニヤで、らい病人シモンの家において ベタニヤは、オリブ山の東のふもとにある

寒村で、ラザロ、マルタ、マリヤが住んでおり、主が好んでよく訪問された。らい病人シモンとは、かつてらい病だったが主にいやされた人物で、聖書中にここにしか出てこない。マルタの夫であったという説もある。ひとりの女 ヨハネの記事と照らし合わせて、明らかにベタニヤのマリヤである。非常に高価で純粋なナルドの香油 ヒマラヤ山脈の高地(約三千～五千メートル)に産する甘松の根から採取した高価な香料。この名称は、サンスクリット語のナラター(かくわしい)に由来し、古代からインド人は薬用、香料として使用していた(日本基督教団出版局『聖書事典』六三六ページ)。純粋なとは「真正正銘の」という意味である。

石膏のつぼを持ってきて、それをこわし 彼女は、売れば三百デナリ以上もするその香油(5節)。一デナリが当時の労働者の一日分の賃金であるから、その香油はおよそ一年分の賃金に相当するものであった。を、一滴残らずイエスに注いだ。ナルドの香油は女性にとってこの上ない貴重なものだったが、彼女はそれを、主に對する自発的な愛で全部ささげた。これは彼女の完全な自己放棄、また全き献身を表す。

4 すると、ある人々が憤って 貧しい人々のことを配慮した、正當な不平であるように見えるが、マリヤの動機や信仰を理解しない者たちの意見であった。マタイ(26・8)はこの批判者たちを弟子たちとし、ヨハネ(12・4)はイスカリオテのユダとしている。

6 するままにさせておきなさい 主は彼女の行為を全面的に弁護された。その理由は、彼女ができる限りの事をした(8節)と認められたからであった。主は、決して貧しい人たちに施すことを否定されたのではない。現在、もっとも優先すべきことは何かを論されたのである。貧しい人々への施しは、今でなくても、いつでもできる。しかし、二日後に十字架にかかれるイエスに香油を注ぐことは、今でしかできない。マリヤはそれを知っており、実行したから、主に賞賛されたのである。

8 あらかじめ葬りの用意をしてくれた 主は彼女の行為の持つ意味を明らかにされた。主はこれまで度々、受難と復活の予告をしてこられた。弟子たちは何度も聞いていたが、いっこうに悟れなかった。しかし、弟子でもなく、いつも主と一緒にいたわけでもなかったマリヤは、どこかで主の予告を聞いて、その十字架と復活を信じたのである。だから、主の葬りの用意を、自分に行ったのである。それは彼女の信仰であった。彼女自身はしっかりと意識していなかった信仰かもしれない。しかし主は、彼女のその信仰を喜ばれたのである。

9 よく聞きなさい 福音はやがて全世界に宣べ伝えられる。同様に彼女の信仰と献身も、全世界に語り継がれるであろう。イエスは最高の賛辞を送られた。彼女の信仰は、死を目前にした主にとって、どれほどの慰めとなったであろうか。

週題 洗足

●聖書 ヨハネによる福音書13・1～15

●暗唱聖句 あなたがたもまた、互に足を洗い合うべきである。ヨハネ13・14

●目標 主イエスのようにへりくだって、互いに愛しあい、仕えあう者となる。

導入

いつも一緒に遊んでいた友だちが、突然、遠くに引越すことになったらどうでしょう。きつと寂しいでしょうね。イエス様と弟子たちもそうでした。イエス様がよいよこの世を去ろうという時に、イエス様は弟子たちに思いがけないことをされました。いったい何をされたのでしょうか。

弟子たちの足を洗われたイエス様

イエス様が明日は十字架にかかれるという前日の夕方のことです。イエス様と十二人の弟子たちはエルサレムのあるお家の二階に集まっていた。最後の夕食を食べるためです。

わたしたちは食事のとき手を洗っていただきませんが、ユダヤの国では足を洗ってから食べるという習慣がありました。みんなサンダルをはいて土ぼこりの中を歩くのですぐに汚れてしまします。ですから、その家に仕えるしもべたちが、家の主人やお客さんの足を洗うのです。

ところが、この日はイエス様が突然立ち上がられました。上着を脱ぎ、タオルを腰に巻かれたイエス様は、バケツに水を入れて、弟子たち一人ひとりの足を洗い始められたのです。彼らはびっくりしました。イエス様はあれよあれよという間に弟子たちの足を洗われ、リーダーのペテロさんの番になりました。

お断りしたペテロ

ペテロさんは自分の前にしゃがまれたイエス様に言いました、「主よ、あなたがわたしの足をお洗になるのですか。」するとイエス様が「わたしのしていることは今あなたにはわからないだろうが、あとでわかるようになります」と言われました。それでもペテロさんは「わたしの足を決して洗わないでください」とお断りしたのです。するとイエス様は言われました。「もしわたしがあなたの足を洗わないなら、あなたはわたしとなんの関係もなくなります。」困ってしまったのはペテロさんです。あわててイエス様に「主よ、では足だけでなく、手も頭も洗ってください」と言いました。彼は、愛するイエス様と無関係になってしまっただけで大変だと思ったのです。でも、イエス様は足だけで十分だと言われました。

十二人の弟子の足を洗われたイエス様は、上着を着て、もう一度席にもどられ、こう言われました。「わたしがなぜ、あなたがたにこのようにしたのかわかりますか。主であり、あなたがたの先生であるわたしが、弟子であるあなたがたの足を洗

ったのは、あなたがたも互いに足を洗い合うようになるためです。わたしはその手本を示したのです。」

互いに愛しあおう

イエス様はなぜ弟子たちの足を洗われたのでしょうか。それは、イエス様が弟子たちを深く愛しておられたからです。

弟子たちの中には、これから自分を裏切ろうとするイスカリオテのユダがいました。また、その翌日にはイエス様のことを三度も知らないと言ってしまったペテロさんもありました。他の弟子たちもイエス様を見捨てて逃げることも知っておられました。それでもイエス様は最後の最後まで愛し通され、弟子たちの足を洗われたのです。なんとすばらしいイエス様の愛でしょう。

そして、イエス様が足を洗われたのは、お互いにそうするようにお手本を示されるためでした。私たちがお互いに愛しあい、仕えあうように模範を示してください。

結び

神の子イエス様が、神としての栄光を捨てて、人となってこの世にいられました。しかも十字架にかかれて命を捨てて下さったのです。この十字架のイエス様こそ、愛とへりくだりの最大のお手本です。イエス様にならって、わたしたちも互いに愛しあい、へりくだる者にいただきましょう。

分級 A

〈分級活動例〉

マリちゃん。サンダルって知っていますか。ひもの付いたはきものです。イエス様とお弟子さんたちはみんな、このサンダルをはいていました。だから外から帰ってくると、足は泥だらけです。イエス様が十字架にかかれる前の日のことでした。夕食を食べるために、みんなであるおうちにきました。「変だな。この家は、足を洗う水を出してくれないのかな。」弟子たちはそう言いながら、夕食の用意してあるテーブルにつきました。だけれども、水を取りにいこうとします。それは召使いのする仕事だったからです。

すると急にイエス様が立ち上がり、水をたらいくんできて、みんなの足を洗いはじめられました。みんなびっくりぎょうてん。

「イエス様、そんなことしないでください。」そうペテロさんが叫びました。でもイエス様は、「それじゃ、あなたがたはわたしと何の関係もなくなるよ」と言って、さらに洗い続けられました。そして十二人のお弟子さんたちみんなの足を洗われたのです。その中には、その夜、イエス様を裏切ろうとしていた、ユダという弟子もいました。

そのあとで、イエス様はこう言われたのです。「わたしは、あなたがたの先生です。でもあなたがた

の足を洗いました。それは、みんなが同じように他の人の足を洗うようになってほしいからなんです。」

ケンちゃんは人の足を洗ってあげることができかな。「そんなことをしたら損だ」って思ってるかもしれないね。でもね、本当は人のために何かしてあげると、とても嬉しくなるんだよ。「自分はえらいんだから、人のことしてあげない」って思っている人は、この喜びがわからないから、一番損をしているんだよ。それにイエス様もその人のこと、「残念だな」って思っておられます。

きょうは、「他の人のために何かできるかな」って考えてみましょう。そしてお祈りしましょう。「イエス様、ほくに、わたしに、人を助けることをさせてください」ってね。

〈ワーク〉

三つの絵は、何をしているところでしょうか。何も描かれていないところに、自分ならどんなことができるかを描いてみましょう。

分級 B

――キーポイント――

イエス様のようにな

〈導入〉

「せいっぱい」「イエス様とともに、イエス様の

ためにすごしてきましたか？ さて、きょうは、もうその晩にはとらえられてしまおうという、とても緊張した時のできごとでした。びっくりしてしまいますね。イエス様はこんな時でも落ち着いておられました。そして、大きな心で模範を示してください。

〈聖書に親しむ〉

ヨハネ13・1～15です。

きょうは、ナレーター、イエス様、ペテロと三つのグループにわかれて読みましょう。暗唱聖句には線を引いてよく覚え、そして、よく心に刻みこんで、それを実行する人になりましょう。

〈洗足ワークにしようせん！〉

イエス様のようになへりくだった心をもって、ほかの人の足を洗ってあげる手は、この中のどれでしょうか。

〈しもべとなつて〉

イエス様の「へりくだり」について、先生やおともだちと話し合ってみてください。神の子でありながら、しもべとなり、裏切り者の足まで洗われたイエス様。とてもとても考えられないような「へりくだり」ですね。わたしたちはどうでしょうか。恥ずかしいですね。「わたしもイエス様のようになろう」とへりくだって、どんな人にもつかえられるようにしてください」と心からお祈りしましょう。

分級C

—キーポイント—

互いに愛しあおう

〈導入〉

先週は、イエス様の頭に香油を注いだ女の人について学びましたね。この人はイエス様が自分たちを救うために十字架にかかれることを知っていました。ですから、イエス様に最高の贈り物をささげたのです。イエス様は、この女性のできる限りのささげ物を喜んで受け入れました。

今日は、イエス様がよい十字架にかかれる前の日の出来事について学びます。

〈聖書を読もう〉

ヨハネによる福音書13章1節〜15節を開いてみましょう。少し長い箇所なので、いつものように質問に答えながら読んでいきましょう。今日の暗唱聖句は14節です。線を引いて覚えましょう。

〈質問〉

①イエス様が弟子たちと一緒に夕食の席につかれたのはいつですか（1節）。

●過越の祭りの前日です。この日エルサレムの町は、祭りのために集まって来た人たちにぎわっていました。

研究資料

課題 洗足

イエスが十字架にかかれる前夜、逮捕される直前の、いわゆる最後の晩餐の席上でのことである。神の栄光を捨て、しもべのかたちにまでへりくだられた主のお姿が表されている。

テキスト

共観福音書にはない、ヨハネだけが記す記事である。前章で、主の公然たる活動は終わり、本章から17章までは、愛する弟子たちだけとの最後のひとときである。バックストン師によれば、主は、13章において行いによって、14章より16章までにおいて言葉によって、17章において祈りによって弟子たちを教えられた（『ヨハネ伝講義』二三一ページ参照）。

1 過越の祭の前に 受難週の木曜日である。ここ以外に、本書に過越の祭りが四回記されている（2・13、5・1、6・4）。このことは、イエスの公生涯が三年半であったことを裏づけている。この世を去って…自分の時がきた この時とは、十字架のあがないの時である。主は時が満ちて世に遣わされ（ガラテヤ4・4）、時が満ちて宣教を開始された（マルコ1・15）。「わたしの時はまだ

②イエス様は席から立ち上がられて、何をされましたか（4〜5節）。

●上着を脱ぎ、タオルを腰に巻かれました。それから、バケツに水を汲んでこられたのです。弟子たちは、いったい何が始まるのだろうと興味しんしんで見ていました。すると、なんとイエス様が弟子たちの足を洗い始められたのです。外でほこりまみれになった足を丁寧に洗われ、持っていたタオルで拭いていかれるイエス様の姿に、弟子たちは声も出ないほど、驚いてしまいました。

③イエス様に「足を洗わないでください」と言ったのはだれですか（8節）。

●弟子の中でもリーダーであったペテロさんです。他の弟子たちはイエス様がなさることをただじっと見ているだけでしたが、ペテロさんは、自分たちの先生が奴隷のする仕事をされるのを見て、黙ってはいられませんでした。

イエス様が近づいて来られた時に、「主よ、あなたがわたしの足を洗われるのですか。立場が逆ではありませんか」と言って、かたくなに断わろうとしました。

でも、イエス様は「わたしのしていることは今あなたがたにはわからないだろうが、あとでわかるようになります」と言われ、ペテロさんの足も洗われたのです。

④イエス様は弟子たちの中に、この後ご自分を裏切る者がいることをすでに知っておられました。その人とはだれですか（2節）。

●イスカリオテのユダです。イエス様は、このユ

きていない」（ヨハネ2・4、7・6）と言われ、また、十字架を目の前にして、「時がきました」（ヨハネ17・1）と言われた。主は終始、神の時に従われたのである。

最後まで愛し通された 最後（テロス）は「極限、終わり、結論」などの意味があることから、最後までとは、時間的な終局と、程度においての極限との二通りの意味が込められている。「彼らを最後まで（この上なく）愛された」（詳訳）。

2 悪魔はすでに 主は早くから、ユダの心に裏切りの計画があることを知っておられた（6・70、71）。彼が主を売ったのは、悪魔の誘惑に負けたからであった。

3 父がすべてのものを ユダを裏切らせて、主を十字架につけることは悪魔の目論見であった。しかし主にとっては、十字架は、父から万物を賜り、父のもとへ凱旋する勝利のときであった。

4 夕食の席から立ち上がって 「第一、晩さんの席を起ちて、第二、上衣をぬぎ、第三、手巾を取って、第四、手巾を腰にまき、第五、盤に水を入れて、第六、弟子の足を洗い、第七、そのまいた手巾にて拭き始めました。神の子は同じ七つの行いを以て私共を洗い潔め給います。『夕食の席から立ち上がって』主は天の位を出立し給います。『上衣をぬぎ』ご自分の栄光を脱ぎ給いました。『手ぬぐいをとって腰に巻き』この卑しい人間の身体を取り給いました。『水をたらいに入れ』聖血を流し給いました。『弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手ぬぐいでふき始められた』今私共は贖罪の結果を

がさんが裏切るのを知っておられたにもかかわらず、そのユダさんの足も洗われました。

⑤イエス様に足を洗ってもらわなかった弟子はいましたか（12節）。

●いいえ、だれもいませんでした。十二人全員の足をイエス様が洗ってくださいましたのです。

⑥イエス様が弟子たちの足を洗われた目的は何ですか（14〜15節）。

●お手本を示すためでした。弟子たちがへりくだってお互いに仕え合うために、イエス様がまず模範を残されたのです。

イエス様は決して言葉だけの方ではありませんでした。「敵を愛しなさい」と言われたイエス様は、イエス様を銀貨三十枚で裏切ってしまう弟子をも最後まで愛されたのです。

⑦イエス様は弟子たちを最後の最後まで、見捨てることなく愛し通されました。イエス様はわたしたちをも同じように愛してくださいます。わたしたちは、このイエス様の愛にどのように応えることができますか。

●いつも変わらずに大きな愛をもって愛してください。イエス様にまず感謝しましょう。そして、イエス様の愛を心の中にいだいて、どんな人にも仕える人にならせていただきます。

〈祈り〉

心を合わせて祈りましょう。イエス様が弟子たちを愛して、汚れた足を洗われたように、私たちも互いに愛しあい、仕えあうことができるようにしてください。

告げ給います」（『前掲書』二三三ページ）。

6 こうして、シモン・ペテロの番になった この一連のイエスとペテロとのやりとりは、主と我らとの関係がどういうものであるかを教えてくれる。ペテロは遠慮から主に足を洗っていただくことを拒んだが、主の動機を察しない浅はかさを露呈することになった。すなわち、主は、①十字架のあがないを表すため、②互いに仕えあうように手本を示すため（15節）に、自ら弟子たちの足を洗いになったのである。したがって、それを拒むことは、主のあがないを否定することになり、主と無関係になってしまう（8節）。

10 すでにからだを洗った者 この言葉は、主のあがないが、救いときよめの二重であることを暗示している。一度救われた者は、もはや過去の罪に問われることはないが、現在の汚れからきよめられる必要がある。主の十字架は、我らをそこまで全く救うのである（ヘブル7・25）。

14 主であり、また教師であるわたしが 足を洗うのは奴隷の仕事である。それを師である主が弟子たちになされた。それは、洗足の第二の目的である愛と謙遜の手本を示すためであった。主の血であがなわれた者は、主が十字架のどん底まで下られたように、互いにへりくだり、愛しあい、仕えあうべきである。主は、自らの行動をもって、実践的教訓を与えられたのである。

編集後記



昨年四月の第一回「出版物検討委員会」から始まって、今年一月末の最終原稿締切まで、九カ月にわたる長い苦闘がようやく一つの形にまとまりました。パイロット版の発行までが第一の山だとするならば、それからいくつの山を越したでしょうか。編集後期を書くこの段階においても、目の前にはまだ幾つかの山があるような気がします。今、振り返るなら、一緒に編集の労にあたってくれた次長の高橋頼男師はもとより、前局長の水川武志師、本部主事の藤森牧男師の絶大な支援と助言があつてこそ、それらの山を越してここまで来ることができました。

しかし、本当の仕事はこれから始まるのではないかと思います。中島教団委員長が巻頭言に書いておられるように、「新しい皮袋」は一応できました。しかしここに入れた「新しいぶどう酒」が発酵し、読者に喜ばれるものになるためには、まだまだ

時間がかかるのです。現場の教師の方々に味見をしていただかねばなりません。そして、そのご意見を聞いた上で、さらに検討を重ねることが必要になります。

特に、ワークブックはA・B・Cとも、もっともっと改良していきたいと思っています。成人科のテキストも近い内にまとめるべきでしょう。夏期学校の教案は、すぐにでも着手しなければなりません。もちろん二〇〇一年度の本誌のためにカリキュラムを話し合うことも必要です。やるべきことは、それこそ山のようにあります。

これからは、教会学校教育に重荷と関心をもたれる先生方とともに、プロジェクト・チームを作り、一つの山を越えていきたいと願っています。このために最も必要なのは、現場の教師のご意見です。どうか、本誌やワークブックを使っている率直な声を聞かせてください。本部事務

所にも、局長個人にでも、あるいは所属教会の牧師を通してでも、ぜひお知らせください。その中には相反する意見もあるでしょうし、現在の編集方針から考えて、どうしても受け入れられない意見もあるうかと思ひます。でも、そんなご意見も聞きたいのです。そしてできる限り、これからの編集に生かしていきたいと願っています。

わたしは山にむかつて目をあげる。

わが助けは、

どこから来るであろうか。

わが助けは、

天と地を造られた主から来る。

(詩篇121篇1、2節)

このみことばに支えられて、さらに今後の山にむかつて進んでいきます。読者の兄弟のお祈りを心からお願いいたします。

最後になりましたが、編集のためにご奉仕くださった本部事務所の金井栄子姉、イラストを描いてくださった荒井みどり姉と陰山恭子姉、そして編集上の貴重なアドバイスをし

てくださった有限会社「あくと」の本田慈郎兄に、心からの感謝を申し上げます。

(教会学校局長 鎌野善三)

教会教育教案誌 牧羊者

二〇〇〇年四月一日発行

通巻第520号(531号)

編集・発行人 鎌野 善三

〒563-0024 大阪府池田市鉢塚一六八

電話 07-61-8639 / 063-3930

発行 日本イエス・キリスト教団出版局

申込先 〒523-0821

滋賀県近江八幡市多賀町五〇六一

日本イエス・キリスト教団本部事務所

〒0748-335511 / 0631-2151

振替 〇一〇〇八三五七出版局

印刷 有限会社 あくと

〒0748-335511 / 0631-2151

※今回より年一回発行となりますので

第三種郵便として発送できません。

ご了承ください。

・日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み

見える
みことばの学び
ワークブックも
お手伝いします。

牧羊者
ワークブック



●年4回発行
●A・B・C 各クラス
1部 200円(送料別途)

★新版7~9月号、10~12月号、1~3月号
予約受付中!! お早めにお申し込みください。
④既発行のワークブックも在庫の範囲でお申込みを受け付けております。

お申込みは 日本イエス・キリスト教団本部事務所
☎0748-33-5511 FAX0748-31-2151 振替01120-0-83577 出版局